

平成18年度 新規採択一覧(1/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181111001	3	1111	豪雨災害に対する防災対策を推進するための調査研究～谷底平野における氾濫流の挙動に基づく減災・避難体制に関する研究～	北見工業大学社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	北海道	H16年の足羽川やH15年の厚別川等、近年多発する地方自治体が管理する中小河川での集中豪雨による谷底平野における洪水を、地形形成の機構も踏まえて、ハード・ソフトの防災対策に向けての提言に資することを目的とする。被災事例を詳細に分析するほか、水理実験、数値計算および理論解析も併用して地形形成と氾濫流の挙動について検討する。この結果より、最適な施設配置、土地利用及び避難・救助行動について考察を行う。
181111002	2	1111	日本全域高解像度河川流量・水位リアルタイム予測システムの構築	東京大学生産技術研究所	助教授	沖 大幹	東京都	洪水に対する的確な警戒・避難を可能にするため、自治体及び地域住人が利用することを念頭に置いた日本全域高解像度河川流量・水位リアルタイム予測及びデータ配信システムを構築する。河川水位・衛星データ等で4次元同化した初期値及びメソスケール数値予報気象データを陸面モデルと1Kmメッシュ以下河川流下モデルに与えた結果をWWWベースで日常的に公開し、誰でも性能評価することによってシステムの有効性を実証する。
181111003	3	1111	土砂災害被害低減のための防災情報システムの実用化研究	崇城大学	准教授	森山 聡之	熊本県	先年の水俣土石流をうけて、降雨レーダを用いて土砂災害予測を行い、個人に警報を送るシステムを開発構築検証中である。その後も避難勧告の遅れが指摘されることから、本事業ではこれを西日本一円に適用範囲を拡大し、「自助」を促すとともに、「公助」あたる情報共有型の防災情報システムを試験構築検証するとともに、PCや携帯電話が使えない「情報弱者」に対応するため、インターネットによる防災ラジオを開発する。
181111004	2	1111	リスクコミュニケーションに着目した洪水危機管理システムの構築	熊本大学	教授	大本 照憲	熊本県	本研究では、既存の白川洪水ハザードマップを検証し、自助、共助および公助の連携強化を高めるリスクコミュニケーションに着目した白川流域圏の洪水危機管理システムを構築する。主な内容は、水害常襲地帯における都市形成の履歴と水害との関係分析、氾濫流解析、住民の洪水意識構造分析、水害危機管理システムに対するリスクマネジメント評価およびリスクコミュニケーション・ツールの開発、ソフト的防災対策の費用便益分析である。
181211001	1	1211	水素同位対比を利用した分布型水流出モデルの検証と硝酸態窒素の河川流出機構の解析	日本原子力研究開発機構	研究員	都築 克紀	茨城県	酸性化問題においてキーとなる集水域窒素収支の定量的な理解を目的として、硝酸態窒素の河川流出過程を降雨時の連続観測と水文流出解析を連携させて明らかにする。雨水・河川水の水素同位体比により降水成分と地下水成分を分離した観測データを検証に用いながら、集水域における降水の表面流出を分布型水流出モデルにより解析する。この解析結果を硝酸態窒素の流出観測結果に適用して、その発生場と流出機構を考察する。
181211002	1	1211	森林の物質循環モデルを用いた窒素飽和の予測に関する研究	群馬大学工学部	教授	小葉竹 重機	群馬県	河川の水質問題において、将来的には窒素濃度が重要な因子となることが指摘されており、これに大気由来の窒素降下物が関与していることが明らかになりつつある。そこで、河川水の窒素濃度を、大気からの窒素降下物量を取り込んで、森林の物質(水・炭素・窒素)循環モデルを通じて検討を行う。また、将来的な窒素降下物量の予測に基づき、日本の大都市圏周辺の流域における窒素飽和の将来予測についても検討を行う。
181211003	1	1211	流域内の畜産に由来する潜在的有害化学成分の河川への排出に関する基礎的研究	群馬大学工学部	教授	渡邊 智秀	群馬県	亜鉛や銅ならびに各種抗生物質は、成長促進等のため畜産用飼料に添加されているが、畜産が盛んな地域では、糞尿を経由した河川へ流入による水質や生態系への影響が危惧される。本研究では、まず、添加量が多い重金属を主たる対象として、畜舎排水ならびに排水処理プロセスでの挙動ならびにコンポストからの流出特性に関し、実施調査ならびに室内実験を通じて検討し、その状況を把握するための基礎的知見を得る。
181211004	1	1211	ダムに堆積した腐植物質の有効利用に関する調査研究	株式会社エコ・グリーン	代表取締役	堀家 茂一	東京都	これまで河川では、治水対策や利水対策のためにダムが建設されてきたが、今後はさらに河川域や沿岸域の環境対策までも視野に入れた総合的な利用対策が必要である。そこでまず、ダム底部に堆積した腐植物質中の腐植酸鉄の分析を行い、ダム貯水、ダム上部と下部の河川水の水質調査、特にフルボ酸鉄とフミン酸鉄の分析調査を行い、河川域や沿岸域の環境に対するダム堆積物の有効利用技術開発に資する基礎資料を得るものである。
181211005	1	1211	河川におけるフッ素系界面活性剤の挙動と東京湾への負荷量に関する研究	国立大学法人横浜国立大学	教授	益永 茂樹	神奈川県	フッ素系界面活性剤は広く使用されてきたが、人や生物に残留し、特異な物性を持つことから新規汚染物質として注目されている。しかし、日本での汚染実態や環境挙動の研究が少ない。申請者は東京湾で調査を行い、同じフッ素系界面活性剤でも種類により汚染源や挙動が違ふとの興味深い結果を得ている。本研究では東京湾流入河川を対象として調査し、汚染源の特定、河川での挙動の解明、および東京湾への年間流入負荷量の推定を行う。

平成18年度 新規採択一覧(2/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181211006	1	1211	長良川水系における天然ホルモン物質と抗生物質の消長挙動の診断と予測	岐阜大学工学部	助教授	李 富生	岐阜県	長良川本川と主要支川を対象として採取した河川水と河床堆積物から剥離した懸濁液に、安全リスクが著しく高く、検出頻度が高い天然ホルモン物質、及び、ヒトや家畜の病気治療・予防に使用される抗生物質をそれぞれ加えた回分式生分解実験と吸着実験を行い、得られる結果により、これらの物質の蓄積・変換・分解の諸挙動と経路を明確にし、河川流下過程における消長挙動を簡易、かつ、迅速に診断・予測しうる手法を提案する。
181211007	1	1211	植物プランクトンのクロロフィル蛍光を指標とした水圏環境の監視・保全に関する研究	滋賀県立大学環境科学部	助手	後藤 直成	滋賀県	本研究では、クロロフィル励起蛍光法の一つであるPAM(Pulse Amplitude Modulation)法を用いて、植物プランクトンの光合成に関わる蛍光パラメータを測定し、水中のさまざまな環境因子との関係性を評価する。つまり、植物プランクトンの光合成に関わる生理状態の変化を解析することによって、水圏の生物・化学的環境の現況と動向を評価し、水圏環境の監視と保全に対するクロロフィル蛍光の利用可能性を探る。
181211008	1	1211	水質リアルタイムモニタリングによるダム水質情報管理・活用システムの開発	龍谷大学理工学部	教授	宗宮 功	滋賀県	「流域の一体的な水環境を実現する水質管理」を実現するためには、水質自動計測による水質監視網を構築・活用し、水質の変化や異常を早期に発見して迅速な対応をはかると共に、流域水質情報を速やかに住民に公開し、専門家・市民両方の視点により河川環境の監視を行うことが重要である。上記を実現するシステム構築の第一段階として、本試験研究では、ダム湖に焦点を当てたダム水質情報監視・活用システムの開発を行う。
181211009	1	1211	農業用水の節水が河川水質に及ぼす影響把握	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター総合解析部門	副部門長	大久保 卓也	滋賀県	農業用水の節水が河川水質・水量に及ぼす影響を定量的に把握するため、滋賀県の一部地域で設置されている自動給水栓の効果を昨年度調査した。その結果、意外にも自動給水栓を設置した区域が、未設置区域に比べ水使用量が多い結果が得られた。自動給水栓を設置することによって水管理が粗放的になったことが原因と考えられるが、今回の結果の一般性の検証と農家の意識についてさらに調査する必要があり、18年度に追加調査を行う。
181211010	1	1211	琵琶湖流域における河川流量、懸濁物質および有機炭素の挙動予測モデルの開発	京都大学大学院工学研究科	助教授	清水 芳久	滋賀県	H15～17年度の環境省環境技術開発等推進費による研究(研究代表者:清水)において、琵琶湖の野洲川流域を対象としてダイオキシン類流出の実体解明とモデル構築を実施した結果、ダイオキシン類は降雨に伴って増加する河川流量、懸濁物質及びその成分である有機炭素に吸着して流出することがわかった。本申請では、琵琶湖の他流域で水文・懸濁物質等流出の実測調査を行い、より普遍的なモデルを開発することを目的とする。
181211011	1	1211	下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探究	滋賀県立琵琶湖博物館	主任学芸	草加 伸吾	滋賀県	皆伐等によって引き起こされる硝酸形成が、下流域の富栄養化に大きな影響を与える可能性があることがこれまでの対照流域による伐採実験によって明らかになってきた。伐採後の森林管理を様々な違えて設定した斜面レベルでの伐採実験を通して、硝酸態窒素を含めた栄養塩の流出を最小限に抑える水環境保全的な森林管理を求めめるために、研究をおこなっている。下部森林残存処理が、発生を抑えると共に栄養塩吸収に働くことで、有望である。
181211012	1	1211	マイクロプレートを用いたAGP試験による河川水質の評価	京都大学大学院工学研究科	講師	山下 尚之	滋賀県	本研究では、異なるグループに属する数種類の藻類を用いてマイクロプレートを用いたAGP試験系の開発を行うとともに、河川から採取した実際のサンプルについてこのAGP試験系を適用し、河川水質の評価を行うことを目的とする。供試藻類としては、藻類試験によく用いられる緑藻類Pseudokirchneriellaとともに、アオコの原因藻類であるラン藻類および水域において現存量の多い珪藻類を用いる。
181211013	1	1211	ANAMMOX細菌を利用した省エネルギー型新規窒素除去技術の開発	広島大学大学院工学研究科	助手	金田一 智規	広島県	未処理排水や農耕地からの流出水中に含まれる窒素によって閉鎖性水域の富栄養化が問題となっている。ANAMMOX細菌はアンモニア性窒素および亜硝酸性窒素を嫌気的に直接窒素ガスへ変換することができるため、これを処理過程に組み込むことで従来の方法に比べて省エネルギー型の窒素除去技術として注目されている。本研究ではANAMMOX細菌の迅速な集積培養方法を確立し、新規窒素除去プロセスの構築を目的とする。
181211014	1	1211	非管理ヒノキ人工林の林相および林床の状態が濁水流出に及ぼす影響	九州大学大学院農学研究院	教授	大槻 恭一	福岡県	「非管理ヒノキ人工林の林相および林床の状態が濁水流出に及ぼす影響を明らかにすること」を目的とし、九州大学福岡演習林の御手洗水試験流域において水循環、物質循環、濁水をモニタリングするとともに、流域内の林相、下層植生の状態、葉面積指数、開空度、土壌物理性を調査し、これらの調査結果から、非管理ヒノキ人工林の林相および林床の状態と濁水流出の関係を明らかにする。

平成18年度 新規採択一覧(3/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181211015	1	1211	降雨時における非点源汚濁負荷流出量の評価と効率的削減手法の確立に関する研究	長崎大学工学部	教授	野口 正人	長崎県	閉鎖性水域での富栄養化を防止するため、未処理での非点源汚濁負荷流出量を削減する観点から、本研究では主として、降雨時に流域全体から流出する有機物量、窒素・リン等の栄養塩量を本明川流域で観測し、流域の状態に応じた非点源汚濁負荷流出機構を明らかにする。併せて、人口湿地の建設等により非点源汚濁負荷流出量を効率的に削減する管理手法を提案し、それらの物質が健全な状態で流域内を移動・循環することを旨とする。
181211016	1	1211	降雨時の急流河川における土壌等流出による河川・沿岸域等において発生する土壌災害の防止対策に関わる政策提言型研究	沖縄大学人文学部	教授	桜井 国俊	沖縄県	沖縄県では、深刻な環境問題となっている赤土土壌等の流出に対し、1995年に赤土等流出防止条例を施行し、公共事業等による赤土の流出抑制が一定程度図られるに至った。このため今日では、農地からの赤土等流出が全体の7割程度を占めることとなった。本研究では、赤土流出の発生割合で最も多い農地からの流出を抑制するために、環境直接支払制度を沖縄県に政策提言することを目的に、制度設計に必要な基礎情報を調査する。
181211017	1	1211	浸透流れ方式の飼料イネ栽培システム:河川水質浄化とバイオマス生産	東京農工大学工学部	教授	細見 正明	東京都	飼料イネはバイオマス生産量が大きく、地上部の植物全体を収穫後、飼料として家畜に供することができる。これまで汚濁河川水を流入させ、表面流れ方式で飼料イネによる窒素除去能を評価してきた。その結果、水中から飼料イネの根圏への窒素移動が律速になっていた。そこで本研究では、窒素移動が容易となる透流れ方式により、河川水中の窒素などの物質の挙動を明らかにし、水質浄化機能や飼料イネのバイオマス生産量を評価する。
181212001	1	1212	強混合型の河川汽水域における底泥の洪水時フラッシュと剪断強度変化に関する調査実験	首都大学東京	准教授	横山 勝英	東京都	強混合型の河川汽水域では底泥が厚く堆積していることが多いが、それらは洪水時に侵食され、その後安定形状に復元してゆくと考えられる。本研究では、洪水中の河床変動と底面剪断力の変化を現地観測して、底泥の破壊・侵食過程を調べる。また底泥の再堆積過程における剪断強度の増加現象を現地実験により調べる。以上から、河川汽水域における河床底泥の強度特性と、それが洪水時の有効断面積の変動に及ぼす影響を明らかにする。
181212002	1	1212	降水の空間分布を考慮した計画降雨の算定に関する研究	三重大学生物資源学部	教授	葛葉 泰久	三重県	河川整備において重要な、計画降雨の算定を、理論的に、かつ、自治体等の河川管理者が簡単に行えるようにする。17年度の助成で、降水量、継続時間と頻度の関係を明らかにしているが、本研究において、豪雨の面的拡がり(いわゆるDD関係)を関数・式化することにより、上記下線部を完成させる。気象シミュレーションによって降水量の面的データの不足を補充、確率統計学的方法で面的拡がりを関数または定式化する。
181212003	1	1212	花崗岩山地源流域における基岩層を介した水文プロセスの解明	京都大学大学院農学研究科	博士課程	桂 真也	京都府	従来の斜面水文学では説明のつかない基岩層から土層への流出現象が観測されている。山地源流域において、地下水位や水質を計測することによりこの現象のメカニズムを明らかにする。さらに、ボーリング調査で得られた基岩サンプルの透水性や保水性を室内試験により計測し、それに基づいて基岩層内の水移動プロセスをモデル化することで、基岩層を介した水文過程が斜面崩壊現象や山地河川の流出波形、水質に及ぼす影響を評価する。
181212004	1	1212	琵琶湖水位操作の高度化に向けた降雨予測精度向上に関する研究	株式会社気象工学研究所	代表取締役	小久保 鉄也	大阪府	琵琶湖流域では、治水・利水・環境の調和の取れた最適な水位操作の実施が求められている。そのためには、2~3日先の降雨量の的確な把握に基づいた水位操作が必要である。本研究は、琵琶湖流域の降雨特性を種々の気象・地形要因から解明した上で、2002年から運用が始まった最新の気象観測装置(ウインドプロファイラー)を活用した降雨予測法を開発することで、治水対策と河川環境保全、利水安全度の向上に貢献するものである。
181212005	1	1212	河川可視化センシングのための水面波紋のトレーサー的性能評価に関する実験的研究	神戸大学工学部	助教授	宮本 仁志	兵庫県	河川管理用ビデオ画像を用いる川幅規模の可視化センシングは、流況モニタリングの有力な候補技術となる。このとき画像の水面波紋を追跡することで流速推定が試みられるが、水面波紋がパツパツな可視化トレーサーとして利用可能かどうかの流体力学的検証はまだ行われていない。本研究では室内実験によって水面の力学的挙動を考察し、水面波紋の時空間スケールを考慮した実験式を提案、そのトレーサー的な性能を定量評価する。
181212006	1	1212	ローカルリモートセンシング情報を活用した淀川三川合流部の河道貯留効果に関する検討	神戸大学	教授	藤田 一郎	兵庫県	合流部にある河川の河道計画においては、河道貯留の効果を正確に把握することが非常に重要である。本研究では、特に木津川、桂川および宇治川の三川合流部における貯留効果特性の把握を目的として、ITV画像やヘリ画像などのローカルリモートセンシング情報を活用した流量の三川同時計測を行う。得られた実測データに基づいてこの河道区間の数値解析モデルを構築し、河道貯留に関わる合流部の水理特性を明らかにする。

平成18年度 新規採択一覧(4/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181212007	1	1212	筑後川感潮域における河床底泥の生物化学的環境調査	九州大学大学院総合理工学研究院	教授	松永 信博	佐賀県	筑後川感潮域において水質の悪化と底生生物の減少が報告されている。本研究では「これは底質環境の悪化と密接に関係している」という仮説に立ち、筑後川感潮域における底質調査、底泥間隙水中の水質調査、底泥の酸素消費速度と栄養塩吸着量の定量化を行い、河床の生物化学的環境を明らかにする。また、申請者がこれまでに得た有明海湾奥部の底泥の生物化学的環境調査結果と関連付け、筑後川河口域の底泥環境を統一的に評価する。
181213001	1	1213	植生域氾濫流数値解析法の開発	秋田大学工学資源学部	教授	松富 英夫	秋田県	津波や洪水の氾濫流のように長波近似が可能な流れを対象として、植生域や住宅域などに適用可能な、しかも植生や住宅などの存在を考慮した氾濫基礎式を誘導した(平成17年度申請課題)。本研究は、この基礎式を用いた平面二次元数値解析法の開発を行い、水理実験との比較を通してその有用性や解析精度を検討する。さらには、秋田県沖地震空白域での想定津波を対象として、植生の津波減勢効果の検討を含めた事例研究を行う。
181213002	1	1213	河口付近の海岸・河岸における樹林帯の津波遡上防止機能を評価する高精度な河川内津波遡上モデルの開発	埼玉大学	教授	谷本 勝利	埼玉県	河口付近の樹林帯の設置・除去等に関する河川計画に資するため、河川内の津波が樹林帯等によって変形し遡上していく状況を精度よく解析するモデルを開発する。これにより、河口付近の海岸林の効果、河道内樹林が遡上津波高に与える影響について解析を行う。生物多様性に配慮した樹種を選定し、その力学特性(樹形調査・抗力特性・破壊限界)を数値モデルに反映させ、効果的な樹林構造あるいは限界についての知見を抽出する。
181213003	1	1213	市民協働型「水害対策支援システム」の試作と社会技術としての確立	東京大学大学院	助手	加藤 孝明	東京都	自治体内で安全な避難所を確保することができない広域低地を対象に、近隣自治体の連携を含む行政の施策構成の最適化・総合化を図り、かつ、住民の自助・共助の自律的促進を図ることを目的とし、対策の検討・評価機能と市民とのリスク認識の適正化機能を有するGISを基盤技術とする「水害対策支援システム」のプロトタイプを構築し、荒川流域での政策評価と住民との協働を通じ、運用体制を含めた社会技術のパッケージを提示する。
181213004	1	1213	水害時に生じる生活系廃棄物の発生・収集・処理および処分に関する研究	新潟大学工学部	教授	高橋 敬雄	新潟県	近年、台風や局地的な大雨による水害が頻発し、水に濡れた家財は路上に搬出され、その多くが廃棄物扱いされている。本研究では、04年7・13三条水害を主対象とし、中越地震研究で得られた知見を活かし、1.水害時生活系廃棄物の内容と量を調べ、2.「発生、収集、仮置、焼却・破砕等の処理、最終処分」の問題点、各項の環境影響を調べ、3.発生量の予測法を開発し、発生量と環境影響を最小にする廃棄物システムを構築する。
181213005	1	1213	リアルタイム分布型降雨流出予測に基づくダム群の事前放流に関する研究	京都大学防災研究所	助手	佐山 敬洋	京都府	既存のダム群をより効率的に活用するため、降雨流出予測情報に基づいたダム群の事前放流方法を提案する。淀川全流域を対象とする分布型流出モデルに短時間予測雨量を入力し、流出予測精度を定量化する。一方、ダムの事前放流を実施するために要求される流出予測の精度を、流域とダムの特性から理論的に明らかにする。これにより、現状の降雨流出予測が、ダムの事前放流を行ううえで、十分な精度を有するかを検証する。
181213006	1	1213	都市水害時の交通障害とその対策に関する研究	京都大学防災研究所	教授	戸田 圭一	京都府	都市水害時に都市機能障害の一つである交通障害を定量的に予測する解析手法を確立するとともに、起こりうる交通障害を軽減する方策について考察する。大都市の中心域を対象として、実測データを用いて道路ネットワークの交通量の配分計算を実施し、非浸水時(平常時)と浸水時で、車両の移動時間や道路の混雑度がどの程度変化するかを明らかにするとともに、有効な交通障害軽減策を河川の氾濫対策・道路対策の両面から提案する。
181213007	1	1213	土砂災害サバイバルルームの開発と普及に関する研究	京都大学農業研究科	教授	水山 高久	大阪府	土石流や崩壊は、豪雨中に発生し、しかも危険度が高まっていることを知る事が難しい。早めに避難するのが望ましいが、これまでのキャンペーンにも関わらず避難勧告の発令も、勧告を受けての避難行動もなされにくい傾向がある。予測に空振りが多い、避難所まで離れている、高齢である、などが指摘されるが、これらを解決して避難を徹底するのは無理がある。そこで、住宅の一部屋を土砂災害を受けてもぺしゃんこにならないように補強し、万が一土砂災害で家屋が破壊されても生き残れ、救助隊によって速やかに救出されるサバイバル
181213008	1	1213	雨水の浸透・貯留・利用を活用した連携による減災・環境対策に関する調査研究	(社)雨水貯留浸透技術協会	代表者	高橋 裕	東京都	前年度に実施した災害調査の結果に基づき、都市雨水の浸透・貯留・利用を活用した流域内減災・環境対策を調査研究する。とくに、効率的で公平な流域対策のあり方を考察し、下水道事業・道路事業・公園事業・住宅事業・再開発事業・環境対策事業等における行政間連携及び、住民・企業との連携の役割・負担について検討する。また、貯留雨水の蒸発による都市気候の緩和対策と流水による水と緑の創出方法を検討する。

平成18年度 新規採択一覧(5/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181214001	1	1214	河川、沿岸、生活廃水等に含まれる微量有害金属の除去技術に関する技術調査	財団法人造水促進センター	理事長	藤村 宏幸	東京都	生活廃水、土壌、温泉水などにも微量とはいえヒ素、カドミウム、水銀、セレン等の人の健康や環境に有害な金属が含まれている。有害な金属はごく微量であっても、食物連鎖により生物に蓄積する可能性があり、河川、湖沼、内湾の安全な水環境を守るため、微量の有害金属を除去、回収する晶析法、選択的イオン交換法等の技術の現状と適用可能性について調査する。
181214002	1	1214	都市排水の畑地灌漑利用が及ぼす水循環系への汚染物質移行に関する研究	京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター	教授	田中 宏明	滋賀県	新たな水資源、環境負荷低減策として期待される下水処理水の再利用は、特に水資源確保が困難な地域では開放系の畑地への利用も見込まれる。しかし、再利用水に含まれる親水性の汚染物質は浅層地下水を経て河川水へ及ぶことが懸念される。このため、室内土壌カラム実験を行い、畑地灌漑へ再利用を行う際のし尿由来の窒素、医薬品などの汚染物質が、水循環系へ流出するポテンシャルを評価し、水循環系への影響評価方法を検討する。
181214003	1	1214	河川の糞便汚染指標に対する河床環境の影響	大阪教育大学教育学部	助教授	広谷 博史	大阪府	河川環境の評価の際には重要視されていない大腸菌群代わり、特定酵素基質法を用いた大腸菌の計数値による河川水の糞便汚染評価の可能性を探る。その際、河床の状況や形成した生物膜が水質及び微生物群集に与える影響について重点的に検討する。重要な水資源である河川水を有効に活用するために、環境基準の糞便汚染項目を見直すこととともに、河川管理の新たな目標として糞便汚染の環境基準適合率向上を提案する。
181215001	1	1215	外来植物ハリエンジュ(ニセアカシア)が河川内の腐食連鎖に与える影響の評価	埼玉大学大学院理工学研究科	非常勤講師	河内 香織	北海道	上流域の河川生態系は、食物資源の多くを溪畔林から流入してきた落葉や落枝などの有機物に依存しているため、流入する落葉の種類や量の多様性はこの腐食連鎖に大きく影響する。多樹種で構成されていた溪畔林がハリエンジュ優占の林に変化した場合、河川に落下する落葉の多様性が減少し、河川生態系に影響を与える可能性がある。本研究は、河川に落下したハリエンジュの落葉が河川生態系に与える影響を評価することを目的とした。
181215002	1	1215	湧水性河川における北方系淡水魚類の種多様性と生息環境保全	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	助教授	後藤 晃	北海道	北海道と東北地方の湧水河川に生息し、その魚類群集の重要な構成員であり、河川環境の健全度を評価する指標生物として位置づけられる北方系淡水魚類、スナヤツメ、トミヨ種群、およびハナカジカ種群を対象に、それらの生息河川における好適ハビタットの物理的環境要因を明らかにする。この調査結果を基に、当該種のハビタットの保全と、各種の生態的・遺伝的多様性の維持に役立つ「生物多様性保全型」の河川環境づくりに寄与する。
181215003	1	1215	鳥類を指標とした河川下流草地の生態環境と管理手法	NPO法人岩木山自然学校	調査研究	竹内 健悟	青森県	岩木川下流域に発達するヨシ原における鳥類(オオセッカなど)の繁殖場所の順応的管理手法を、植生の空間構造等の環境要素、ヨシ産業による人為的要素、野外実験、仏沼干拓地の繁殖生態との比較によって検討する。
181215004	1	1215	河川におけるノロウイルスの現存量と沿岸への輸送の実態調査	石巻専修大学理工学部	教授	高崎 みつる	宮城県	河川の水循環や利用などを考える上でのノロウイルスの動態や変化に関する理解は大切になる。ノロウイルスは人の腸管以外で増殖しないことが知られ、30~38nmという小さなサイズと、検出の難しさからこれまで河川環境中での存在や輸送に関しその実態は十分理解されていない。本研究はノロウイルスの河川水中現存量と沿岸での輸送実態を調べ、河川生物膜などへの捕捉の可能性の検討を目的とする。
181215005	1	1215	河川流域に侵入した外来種ハリエンジュの効果的駆除方法の開発ー土壌種子バンクの実態把握と対策の検討ー	山形大学農学部	助教授	小山 浩正	山形県	侵略的外来種であるハリエンジュは、河川域に侵入・拡大し、生態系の劣化等の問題を起こしている。従来の駆除法では、地上部伐採と水平根除去に焦点が当てられてきた。しかし、分布の新規拡大を制御するには土壌中で休眠している種子(土壌種子バンク)からの増殖を考慮しなければ失敗に終わる。本研究では、ハリエンジュの土壌種子バンクの実態とその発芽条件を特定し、種子からの再生も考慮に入れた包括的駆除方法を検討する。
181215006	1	1215	ダムの分断現象や放流方式が河川の魚類や生態系に及ぼす影響分析とその対策	筑波大学大学院生命環境科学研究科	教授	福島 武彦	茨城県	日本全国の一級河川のダムに関して、その地理情報、建設時期、運用方式等、ならびにダムの有無は問わず、魚類を中心とした生態系、水質情報を収集し、データベース化し、ダムの影響を解析する。特に、ダム下流距離別、あるいは下流にダムが存在するかしないかに分けての魚種ごとの生息確立を明らかにする。また、特徴のあるダムを選び、河床特性、水質、生物を調査、分析する。以上から、生態系への影響を軽減する方策を提言する。

平成18年度 新規採択一覧(6/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181215007	1	1215	塩分が比較的安定している感潮域における付着性汚損生物の侵入動態の解明	独立行政法人産業技術総合研究所	主任研究	山室 真澄	茨城県	オポチュニスティックな汚損生物であるホトギスガイと、外来種であるコウロエンカワヒバリガイの浮遊幼生が、予測される環境変化によって河川感潮域のより上流に遡上・侵入するメカニズムを解明することを目的として、塩分が比較的長期的なスパンで変動する島根県の宍道湖・中海において、浮遊幼生の定着状況と塩分動態の測定を、同一のブイを複数個設置し、1年間観測して解明し、対策法を提言する。
181215008	1	1215	埋土種子による絶滅危惧水生植物ツツイトモ(ヒルムシロ属)の再生・保全の研究	千葉大学園芸学部	助教授	百原 新	千葉県	千葉県横芝町栗山川河川敷で、堆積物中の埋土種子から再生したヒルムシロ属ツツイトモ(絶滅危惧IA類)について、埋土種子の分布や保存状態、再生個体群の遺伝子組成、最適発芽・生育条件、移入生物の被食による影響などを調べ、再生地域での個体群の恒久的保全をめざす。埋土種子の利用による、他地域からの植物集団の移植によらない、地域に本来存在した河川水辺植生の再生・保全に向けた基礎研究を行う。
181215009	1	1215	ハイパースペクトルリモートセンシングによる河道内草本植生の分布域の評価技術	東京大学大学院農学生命科学研究科	産学官連	石井 潤	東京都	生態系・景観など河川環境の向上のためには、基盤となる植生の広域の分布情報が欠かせない。本申請事業では、侵略的外来植物シナダレスズメガヤなどの管理を目標に、カワラノギクなど保全上重要な種の保全対策が行われている鬼怒川をモデルとして、高分解像度を有するハイパースペクトル画像を航空機撮影によって取得し、草本植生の広域の分布を評価する技術を開発する。また、事業ベースでの利用可能性を経済的観点から検討する。
181215010	1	1215	河口・海岸域における生物生息環境の総合化研究	社団法人国際海洋科学技術協会	会長	寺本 俊彦	東京都	河口・海岸域は生物生息環境として最も重要な場であり、また産業、市民活動の活発な場でもある。この地域の防災、社会活動を配慮した生物環境変動を総合的に検討し、環境再生に役立てる。
181215011	1	1215	河川の水位変動が魚類の繁殖生態に及ぼす影響に関わる研究	特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合	会長	辻井 達一	東京都	国土交通省淀川河川事務所は、2001年に魚類の繁殖に配慮した浅いワンドを新設し、2003～2004年には堰を操作させて人為的に水位を変動させる実験を行った。その結果、新設の浅いワンドの方に多くのコイ・フナ類が進入・産卵することが確認され、冠水によって溶出する何らかの物質が移動経路や産卵を誘発することが示唆された。そこで、本研究は、環境条件を設定できる大型水槽で実験をすることで産卵誘発のトリガーを解明する。
181215012	1	1215	亀岡のアユモドキの繁殖生態とそれを創出するラバーダム稼働状況の関係に関する研究	有限責任中間法人水生生物保全研究会	代表理事	小林 光	東京都	アユモドキは日本特産の淡水魚で、岡山県の数河川と琵琶湖淀川水系の一部に分布するのみであり、現在、絶滅が危惧されている。京都府亀岡市の生息地では、昨年度、生息地のラバーダム稼働により本種の産卵に成功した。本年度は、本種の産卵に最適なラバーダムの水位操作(時期、水位など)について検討するとともに、当地域の個体群の分散範囲及び集団サイズを解明することで、本種の保全に資することを目的とする。
181215013	1	1215	落差工が周辺の物理環境特性に及ぼす影響とその改善手法の提案	東京大学大学院	講師	知花 武佳	東京都	落差工周辺に形成される地形、すなわち、上流の平瀬、下流の深掘れ、及びその水際に注目し、そこでの流れ、底質、有機物の堆積、底生生物の生息状況を調査することで、環境を評価する。これにより、周辺に良好な生息場を形成する落差工の構造を追及するのが目的である。落差工は、生物の移動を阻害するものとして見られがちであるが、逆に多様な有機物が堆積するなど様々な生物の生息場を創出できる可能性があることを証明したい。
181215014	1	1215	川における児童の自然体験教室の運営と女子大学生向けの指導者養成事業を総合化するプログラムの研究・開発。	大妻女子大学家政学部	教授	岡島 成行	東京都	川における幼児・児童の自然体験教室の指導者のあり方やプログラムについては未完成的な部分が多く、実践団体などでの試行錯誤が続いている。また、幼児・児童の教育機関の教員は若い女性が多いが、若い女性が川での体験活動に親しむ機会は少ない。そこで大妻女子大学環境教育研究室では過去4年間、幼児および児童の指導者育成プログラムの開発(2年間)を行い、さらに若い女性のための川におけるアクティブ・プログラムの開発(1年間)の研究開発を行ってきた。今回はその集大成として、実践体験のプログラム開発と女
181215015	1	1215	市民参加による河川環境モニタリングの試行と評価に関する研究	特定非営利活動法人多摩川センター	代表理事	三島 次郎	東京都	多摩川水系の河川敷を中心に複数の環境観察コードラートを設定し、市民参加を前提とした統一的な「自然観察マニュアルの作成」と「観察結果の記録、情報の処理方法」についてモデルを構築する。また、「水辺の楽校」活動などと連携し、上中下流のモデル地区で年数回の調査を実施し、記録を収集することにより各地区の時系列の変動特性、各地区相互変動の特徴を解析・評価し、市民参加による河川環境の管理の指針を検討する。

平成18年度 新規採択一覧(7/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181215016	1	1215	河川自浄作用における水生昆虫類の果たす役割とそのメカニズム	信州大学繊維学部	教授	平林 公男	長野県	河川自浄作用のメカニズムを知ることは、生態系に配慮した河川整備を行う上で極めて重要であり、この点を念頭においた河川整備が今後必要となってくる。これまで造網性水生昆虫類は、中流域において生物量が極めて多いことは良く知られていたが、物質循環における役割についてはほとんど解明されてこなかった。本研究では造網性水生昆虫類の網の構造、強度、網にトラップされる有機物の質と量を季節的に解明することにより、中流域における河川自浄作用のメカニズムを明らかにする。
181215017	1	1215	砂防事業に対する環境影響緩和施設としての人工河川の有効利用に関する研究	高原川漁業協同組合	代表理事	岩垣 康司	岐阜県	落差の大きい砂防堰堤に対する魚類への影響緩和施設としては、魚道の設置が一般的である。しかし、立地条件によってはその施設が不可能であったり、大きい費用対効果が望めないといった場合がある。そこで、支流に溯上して産卵する習性のイワナなど溪流魚の産卵環境を創出のため、堰堤下流に人工的に小支流を設置することが、砂防堰堤に対する新しい環境影響緩和施設として有効なものであるかどうかの検討を行う。
181215018	1	1215	土壌中物質輸送と栄養塩吸収を結合した砂州植物生長シミュレータの開発	名古屋大学大学院工学研究科	教授	辻本 哲郎	愛知県	砂州植物の生長と水質浄化機能を定量的に評価するために、砂州植物の生育する土壌中の水・栄養塩の輸送過程、土壌-植生-大気までの連続した蒸発散・栄養塩輸送過程、光合成と土壌からの栄養塩摂取によって支えられる植物生長に関する現地調査・モデル化を行い、その成果を統合することによって砂州植物の生長を予測可能とする数値シミュレータを開発する。
181215019	1	1215	河川の環境調査における三次元写真計測手法の開発	京都大学農学研究科	助教授	里深 好文	京都府	「河川水辺の国勢調査」などの河川環境の現地調査結果を三次元デジタルマッピングに利用するための現地調査ツールとなる、デジタルカメラ撮影による三次元写真計測技術の開発を行う。この技術により、植生や河床砂礫の空間分布が効果的に記録できるようになる。現地での気象条件、撮影条件などの違いによる最適な計測手法や、三次元座標を評定するターゲットや基準尺の利用手法などに関して、現地実験を主とした研究を行う。
181215020	1	1215	有効な情報提供が河川環境改善事業の経済評価に及ぼす影響に関する基礎調査的研究	京都大学工学研究科	教授	細田 尚	京都府	平成16年7月の福井豪雨による甚大な水害発生後、河川管理者により緊急的及び中長期的治水対策が検討され部分的に実施されている。さらに福井県は、足羽川の激特区間における河川環境整備方針を定めるための検討会をもち、意見の収集・集約を図っている。検討会の議論は、結局のところ自然環境保全と河川区域内利活用の程度、高価だが歴史遺産となるべきものを残すか最低限の機能でよいかというような環境倫理と環境の経済評価の基本的な問題に帰着する。環境改善事業の内容や規模決定のために、従来のアンケート調
181215021	1	1215	河川生態系保全構造物の水理機能に関する研究	大阪工業大学工学部	教授	綾 史郎	大阪府	河川生態系の保全再生に用いられる構造物にワンドやタマリがあるが、それらのハビタットとしての機能を十分発揮させるためにはワンド内に生じる流れや河床材料のワンド床空間における分布形状等を制御することが必要である。本研究では河川洪水流のワンド内への侵入とそれに伴う洗砂によるワンド床の洗掘や堆積等について実河川における観測、模型水路を用いた室内実験等によりその水理を明らかにし、制御法について考察する。
181215022	1	1215	河川と溜池の相互関係が流域景観と水辺生態系に与える影響の評価	京都府立大学大学院農学研究科	准教授	中尾 史郎	京都府	河川の景観形成機能および生物多様性保護機能には、流域内のその他の陸水湿地(溜池)との相互関係による相乗的な向上効果が期待できるという視点に立ち、河川と溜池の空間的配置や環境異質性が両地の生物相・生態系の形成と存続に与える影響を調査し、既存河川の自然空間デザイン能力の固有性を考慮して、河川と溜池の公益機能の相乗効果を一層かつ低負荷で活用する流域景観保全技術と河川管理手法を検討する。
181215023	1	1215	過去100年間における中海の富栄養化の過程を明らかにする:底質コア試料と水質データ・工事の歴史資料を用いたクロスチェック	鳥取県衛生管理研究所	研究員	宮本 康	鳥取県	過去100年間において中海生態系にレジームシフト(突発的な富栄養化)が生じたことを、特に植物プランクトンの現存量、および藻場の規模に注目して、中海湖心で得られた底質コア資料の分析と長期的な水質データの解析から明らかにする。得られた結果を栄養塩の長期データと中海における工事の歴史資料と比較し、レジームシフトを引き起こしたメカニズムを推察する。
181215024	1	1215	樹幹内蒸散流からみた河畔樹木の水分応答に関する観測的研究	広島大学総合科学部	助手	土谷 彰男	広島県	本研究では水分条件に恵まれている河畔の樹木が昼間どれくらいの水分を吸引しているかを樹幹内蒸散流の計測から推定する。具体的にはGranierの理論に基づいて、樹幹縦方向の温位の変化から吸引量を求める。土壌水分や群落上のH*Oフラックスは計測例は多いが、入り口や出口ではなく、樹木個体が保持する水分量とその時間変化の観測は事例が少なく、平野部に残存する緑地生態系の保全、洪水時の水分吸収の上で有益である。

平成18年度 新規採択一覧(8/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181215025	1	1215	河川感潮域における河岸干潟の地形と土砂環境動態に関する研究	広島大学大学院工学研究科	助教授	川西 澄	広島県	太田川放水路(最大潮差4m、水門による河川流量の制御あり)に形成されている河岸干潟の土砂環境動態を明らかにし、市民が親しめる河岸干潟の創出と保全といった自然再生事業の一助とする。このため、干潟上流速、浮遊土砂濃度、干潟の地盤高、粒度分布、地下水水位等を調査するとともに、飽和、不飽和浸透流解析を行い、河岸干潟の地形と土砂輸送過程について考察する。
181215026	1	1215	河川と農業水路間のネットワークを考慮した魚類生息環境評価モデルに関する研究	徳島大学大学院工学研究科	助教 長	田代 優秋	徳島県	淡水魚類の多くは河川～農業水路(水路)～水田といった水域を自由に移動し生息しているため、環境に配慮した河川整備では、河川と周辺の水路との接続部分の環境も重要であると考えられる。しかし、どの接続部分から配慮するかなどの優先順位やその効果を示す方法はない。そこで本研究では、魚類が利用する河川と水路間のネットワーク性を考慮した生息環境評価モデルを作成し、より実効性のある河川整備方法を提案する。
181215027	1	1215	河川石積み構造物の保全技能の継承へのナレッジデータベースの構築－四国地域、吉野川水系を中心としたケーススタディー	武庫川女子大学生生活環境学部	准教授	三宅 正広	兵庫県	環境保全や景観保全の視点から河川石積み構造物の保全を進めるため、石積み構造物の補修・改修技能について、専門技能者の有する無形のナレッジ(知識)を収集し、体系化することで、知識継承に役立つナレッジデータベースを開発し、保全への市民合意形成への活用を目指す。具体的には、吉野川水系の石積み構造物の実態を把握し、施工者から専門技能者を抽出し、補修や保全に関する技能をヒアリング整理入力して、技術者や市民が検索可能なデータベースを開発する。
181215028	1	1215	近紫外放射による川魚の行動制御	鹿児島大学水産学部	教授	川村 軍蔵	鹿児島県	申請者らは稚仔魚を水中近紫外線(人に見えず光害はない)で誘引し、若・成魚を点滅紫外線で逸散させることに成功しているが、紫外線受容視細胞の有無と無関係に魚種によって対紫外線反応行動は多様である。本研究では鹿児島県内の河川に生息する魚の対紫外線反応行動を魚種ごと、成長期ごとに野外実験によって明らかにする。得られた成果は河川湖沼からの取水設備への魚類迷入防止装置開発や外来移入種の防除手段に応用可能である。
181216001	1	1216	土地改良区が地域水資源管理に果たす役割とその機能保全に関する調査研究	岩手大学農学部	教授	三輪 弌	岩手県	土地改良区は、河川等から取水施設や用排水路の管理と異常渇水時の水管理において重要な役割を果たしている。しかも、受益農民によって組織され、民主的手続きによって理事長等の役員を選出し、運営にあっていることから、農民参加型灌漑管理(PIM)の先駆的組織として世界的にも注目されている。その水管理の実態を明らかにするとともに、経営難・後継者難など現在抱えている問題とその機能保全の方策を検討する。
181216002	1	1216	雄物川流域における伝統漁法の生態学的研究	秋田県水産振興センター	内水面利	杉山 秀樹	秋田県	雄物川流域において、地域住民は溜っこ漁、じゃがき漁、一文字漁、アユ跳ね漁、ヤツメドウなどの伝統的な漁法を行ってきた。しかし、近年、操業に適した場所の喪失、生息量の減少などにより操業機会が激減してきている。本研究は、これら各漁法の現地調査を通じ、各漁法と河川形態との関係、採捕魚類の種・サイズ・量・採捕魚の利用形態などを把握し、伝統漁法が持つ生態学的、民俗学的意義を明らかにする。
181216003	1	1216	歴史的遺産・舟運水路の耕造解析と活用	米沢中央高等学校	教諭	佐藤 五郎	山形県	およそ300～400年前前に開削され、河川の歴史的遺産にもなっている舟運水路(2ヶ所)の立体構造を現地測量で明らかにし、図面化するものである。このことにより遺産の記録を後世に残すだけでなく、新たな角度から河川を見直し多くの人に関心を持ってもらう。さらに最上川のフットパス計画や観光連携にも資するものである。
181216004	1	1216	洪水常襲地域における水神信仰と水防意識の実態調査・研究	藤岡町古文書研究会	会長	上岡 一郎	栃木県	かつて洪水常襲地域であった渡良瀬遊水地周辺を含む利根川中流域は、水害との戦いの歴史であった。現在、水害の頻度は極端に減ってはいるが、一度破綻したらその被害は昔の比ではない。過去も現在も地形的な条件が変わらぬ今、改めて洪水特性等を水害史や現地調査により現在に当てはめ分析するとともに、決壊碑や水神等の所在調査及び解説をし、地形的な危険性と併せ明らかにして、水防意識の啓発を図るための研究を行う。
181216005	1	1216	荒川流域における気候水文地名からみた災害常習地に関する災害科学的研究	立正大学地球環境科学部	教授	福岡 義隆	埼玉県	種々の自然災害に関する予知や災害認識が諺や自然地名などの形で伝承され、時には役立つことがある。そこで本研究では荒川などの河川流域に分布する水文地名や気候地名、地形地名、植物地名の分布調査とか、特殊な伝承・諺などを現地での聞き取り調査やアンケート調査を実施し、ハザードマップ作成や日常防災意識の高揚へのヒントを模索する。

平成18年度 新規採択一覧(9/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181216006	1	1216	江戸時代利根川の治水と復旧工事の復元的研究	葛飾区郷土と天文の博物館	学芸員	橋本 直子	埼玉県	江戸時代における利根川の治水規模と災害復旧の際の土木工事の実態を復元し、河川環境の変動と地域の開発との関連を解明するとともに、現代の当該地域に関する治水ハザードマップ作成のための基礎資料とする。具体的には、18世紀に利根川中流域で起きた2回の治水を取り上げ、現在の埼玉県北部・東部地域を対象に、堤防の決壊箇所を地形図上で特定するとともに堤防復旧工事の実態を解明する。
181216007	1	1216	利根川流域(埼玉平野)の治水と新田開発	利根川歴史研究会	会長	広尾 義彰	東京都	平成17年度の調査では、江戸時代の検地帳等の解読により、利根川流域にある熊谷市の旧日向村には畑はあるが水田は無い、旧妻沼村には一部水田があることが確認された。平成18年度の調査では、調査地域にある備前堀等の農業用水の開発経緯を古文書等の史料によって調査するとともに、明治時代以降の水田開発の経緯を確認する。合わせて、利根川の江戸時代の治水にとって要となっている中条堤等の役割について考察する。
181216008	1	1216	河川・沿岸域における環境負荷低減型輸送システムの検討	社団法人海洋産業研究会	会長	武井 俊文	東京都	これまでの検討で、河川・海洋を利用した防災支援の効果は大きい、船舶等の平時利用が不可欠なことが分かった。平時利用として静脈物流の検討を行った結果、さらに河川利用を促進し河川舟運を活性化させるためには環境面への配慮が必要との認識をもった。そこで、モーダルシフトを促進させる環境負荷低減を目指した省エネルギー・低排出ガス船舶等の検討や、環境改善を目的とした船舶の検討を含む輸送システムの検討を行う。
181216009	1	1216	琵琶湖水系野洲川・愛知川流域における弥生時代環濠集落の水環境論研究と成果展示への試み	滋賀県立琵琶湖博物館	総括学芸	用田 政晴	滋賀県	琵琶湖水系の主要河川である野洲川および愛知川下流域にあり、弥生時代の日本列島を代表する下之郷遺跡、伊勢遺跡、石田遺跡など、古代の中国史書では「国」と称された環濠集落の水環境を分析・復元し、琵琶湖水系の水資源のみならず湖と川が汎列島的な流通経路として機能したことを地域史観により考古学的に明らかにすると同時に、その成果の展示を琵琶湖博物館と能登川博物館において開催する。
181216010	1	1216	水文化・感性の人文科学的特性と地形・流出・水利用の水資源工学的特性を考慮した総合流域管理に関する研究	京都大学防災研究所	教授	小尻 利治	京都府	流域は、a)降水量の時空間的変動特性の把握、b)流域内水量、水質、生態系の変動推定、c)水利用、社会経済活動と連動する水資源動態解析、d)歴史や人間性、感性を加味した総合評価に基づく流域水管理、を考慮しなければならない。そこで、水量、水質、生態系、水文化を人間工学、感性工学的に評価し、流域の物理的、社会的文化的特徴を取り入れた“総合流域管理”の提案を行う。
181216011	1	1216	江の川水系西城川の瀬淵調査と近世河川絵巻の比較研究	江の川水系魚撈文化研究会	会長	黒田 明憲	広島県	西城川(江の川水系の支流)は、水系きっての清流であり、自然景観が最も残っている河川である。本河川の瀬淵調査と民族調査を行い、映像・写真・聞き書き等により記録し保存・継承する。幸い本河川には近世河川絵巻(庄原市重要文化財)が残っているため、近世から近代にかけての高瀬船時代の景観と現在の景観を比較研究し、自然環境の保全、川の文化を生かした川づくり、まちづくりに寄与したい。
181216012	1	1216	河川整備における石工技術の継承と普及に関する調査研究	西日本工業大学工学部	教授	赤司 信義	福岡県	本研究は、地域の石の文化や技術の継承・普及を目的とし、今年度の助成による石工技能者や石材利用整備の状況調査等を踏まえ、継承のための具体的な取組の推進と普及のための基準案等の提示を目標としている。内容は、石工技能者による石組構造物モデルの設置とその構造調査、石組み施工事例に基づく積算調査、中小河川での石組み落差工を対象とした実験河川等での計測結果に基づく安定性評価法の検討である。
181217001	1	1217	琵琶湖岸景観の保全に対する地域住民の活動の有効性に関する研究	滋賀県立大学環境科学部環境計画学科	助教授	村上 修一	滋賀県	指定管理者制度の導入等、地元との連携方法が模索される琵琶湖湖岸の保全管理に向けて知見を得るべく、清掃やヨシ刈といった景観保全に関わる地元住民の活動を対象に場所や内容等を調査し傾向を分析する。次に各活動類型から具体事例を選出し、活動の直前直後で現地を調査して活動による景観変化を分析する。分析結果とその要因を考察し、活動別に景観保全上の有効性について検証し、連携による湖岸管理モデルを提示する。
181218001	1	1218	アドプト制度活用による農業水利施設の管理方式の確立	岩手大学・農学部	助教授	木下 幸雄	岩手県	本研究は、アドプト制度活用による農業水利施設管理方式の確立可能性を社会科学的アプローチから検討することを目的とし、岩手県内の農業水利施設へのアドプト制度適用事例を対象に新たな農業水利施設管理方式の確立可能性を検討する。これは、農業者・土地改良区といった農業サイドと地域住民等との協働による新たな農村環境資源マネジメントとしての期待が高く、さらには河川敷管理を含む今後の地域資源管理に関わるものである。

平成18年度 新規採択一覧(10/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
181218002	1	1218	人口減少の空間的分布を考慮した、治水事業効果の評価手法についての研究	財団法人リバーフロント整備センター	研究第二	塚原 健一	東京都	今後人口減少の進む地域での治水事業効果の評価が、事業評価監視委員会等で議論されている。人口減少は同一市町村内ですらも市街地、中山間地といった空間的な偏りがあり、具体的な治水事業評価のためには将来人口の空間的分布を考慮して評価する必要がある。本研究では、洪水氾濫域の将来人口の河川整備計画に対応する30年程度の将来人口の空間的分布を明らかにし、河川整備事業の便益分析に反映させる手法の開発を行う。
181241001	2	1241	希少魚ネコギギの生息場修復技術の開発に関する研究	名古屋大学大学院工学研究科	助手	田代 喬	愛知県	希少魚ネコギギの保全を目的として、生息場の修復技術の開発を試みる。現在、絶滅に瀕している水系とそれに隣接し豊富な生息が確認される水系を対象に、微小生息場所の物理特性、餌環境の対照調査により既往知見の少ないネコギギ生息場特性を解明し、河道特性の分析に基づきスクリーニング手法の開発を行う。さらに、景観・生態の両機能に着目した生息場修復に関する事例を整理し、川づくりに資する生息場修復技術の確立を目指す。
181241002	2	1241	生礫河原再生および管理のための無人ヘリコプター搭載型赤外線カメラによる植生3次元モデルの構築とその利用に関する研究	東京大学空間情報科学研究センター	センター	柴崎 亮介	千葉県	生礫河原再生および管理のための植生の効率的なモニタリング手法を開発することを目的とし、無人ヘリコプターに搭載したセンサから礫河原の3次元地形情報を取得すると同時に、植物が近赤外線において高い分光反射特性を示すことに着目し、赤外線カメラにより礫河原の精密な植生3次元モデルを構築する。2年間に渡り計測を実施することにより、植物の分布変遷の傾向や出水が及ぼす地形および植生への影響等を検証する。
181241003	2	1241	歴史的・生態的価値を重視した水辺都市の再生に関する研究—日野の用水路網の保存・回復に向けた市民的な取り組みをケースとして—	法政大学大学院エコ地域デザイン研究所	所長	陣内 秀信	東京都	本研究は、市民による諸活動の成果と当研究所を中心とした専門家による研究成果を融合し、「百年の大計に沿ったより実現性の高い水辺都市の再生」を提案・提言する事を目的とする。市民活動が盛んな日野市域を重点地域として選び、湧水～用水路空間の再生に向けたランドデザイン(用水路再生の垂範モデルの構築)を描き、継続的な再生戦略(行政の支援による市民活動など)を導きだそうとするものである。
181241004	2	1241	河川における特定外来生物ニセアカシアの分布制御方法の確立とニセアカシア利用関係者との合意形成手法の開発	信州大学農学部	教授	北原 曜	長野県	特定外来生物ニセアカシアは、河川敷内への浸入定着そして分布拡大と優占化が激しく、非常に深刻な状況になっている。砂防事業等に広く使用されるその侵食防止機能は高く評価されてきた本種であるが、河川敷内での圧倒的な分布拡大は郷土植物を駆逐し多様な生態系を破壊しつつある。しかし、その分布拡大様式については種子散布が主なのか根萌芽が主なのか依然として不明のままである。また駆除方法も、伐採によりむしろ萌芽が多数発生するケースもあり確立されていない。一方で、本種の花蜜は養蜂業者にとって貴重なもので
181251002	1	1251	2006年7月豪雨により発生した土砂災害に関する調査研究	社団法人砂防学会2006年7月豪雨土砂災害調査団	団長	水山 高久	東京都	
181251001	1	1251	平成18年7月豪雨による災害の調査と今後の河川整備のあり方に関する調査研究	社団法人土木学会平成18年7月豪雨災害緊急調査団	団長	小松 利光	福岡県	
182001001	1	2001	河川環境の整備と水辺学習の開催	水先花沢渡船場川辺自然公園を整備する会		及川 典雄	岩手県	北上川(旧水先花沢渡船場)の水辺環境を整備しながら、水棲生物、野鳥の観察、水質調査や水辺体験学習を実施して、小中学生の環境教育を推進すると共に、子供から大人までの*代間交流を開催し手自然環境整備の啓発活動を行う。
182001002	1	2001	小貝川堤防治い、桜並木植樹事業	いちようの会		結城 直子	茨城県	いちようの会は地域住民やスポーツ施設利用者の要望を受け、16年度実施の小貝川桜並木植樹事業を継続し18年度事業としてさらに下流側60メートルの小貝川堤防治いに桜10本を植樹する計画を決定した。事業は会員、地域住民の植樹活動で進め、地元や流域の人々が集い安らぐ、水辺作りと美しい景観向上を目的として藤代スポーツセンター(旧藤代総合公園)に隣接する小貝川堤防治いに桜10本を植樹する。

平成18年度 新規採択一覧(11/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
182001003	1	2001	長岡市民が憩う信濃川水辺の環境づくり	長岡市立中島小学校	校長	佐藤 文男	新潟県	学区に位置する信濃川河川敷を、学校、地域、保護者、行政で連携して、河川空間を利用した、市民に親まれる水辺に整備したいと考える。「むつなみ(中島小学校)画廊」の整備、周辺一帯に花を植え、水辺の生物や植物の観察を行い、ボート遊びができる空間を作り出すことによって、景観を楽しみながら心を癒すことのできる長岡市の新名所となるはずである。
182001004	1	2001	「日野川の森」創出プロジェクト	滋賀県東近江地域振興局	局長	古川 太郎	滋賀県	「日野川の森」創出プロジェクトでは、地域住民をはじめ、日野川で活動する団体、学識経験者、河川管理者が参加し、森づくりの計画から、育苗、植樹、維持管理に至るすべての段階の活動を参加者全員の協働で行う。具体的な活動としては、意見交換会、ドングリ拾い、育苗作業、植樹会、維持管理作業、生物モニタリング、環境学習等を行い、これらの活動を通じて、参加者間の交流を深めるとともに、水辺環境の向上をはかる。
182001005	1	2001	吉野川に親しみ徳島の良さを知らうために、吉野川のかつての渡しの調査をし、かつての遺構場跡に標柱、説明看板を設置する。	徳島県板野郡藍住町	藍住町長	石川 智能	徳島県	吉野川に親しみ徳島の良さを知らうために、吉野川の渡し場跡に設置済みの標柱の隣りに説明看板を設置する。
182001006	1	2001	吉野川の渡し跡説明板の設置	徳島県池田町	池田町長	俵 徹太郎	徳島県	吉野川の水運の歴史において、重要な輸送機関としての役割を担っていた「渡し」。こうした水運文化の足跡に対し知識を深め、吉野川に親しめる環境づくりの一環として、渡し場跡に国土交通省との連携により標柱と説明板を設置し、訪れた人々にその歴史や文化に触れる機会を提供する。
182001007	1	2001	吉野川に親しみ徳島の良さを知らうために、吉野川のかつての渡しの調査をし、かつての遺構場跡に標柱、説明看板を設置する。	徳島県板野郡板野町	板野町長	中島 勝	徳島県	吉野川に親しみ徳島の良さを知らうために、吉野川の渡し場跡に設置済みの標柱の隣りに説明看板を設置する。
182001008	1	2001	吉野川に親しみ徳島の良さを知らうために、吉野川のかつての渡しの調査をし、かつての遺構場跡に標柱、説明看板を設置する。	徳島県美馬郡つるぎ町	つるぎ町	兼西 茂	徳島県	吉野川に親しみ徳島の良さを知らうために、吉野川の渡し場跡に設置済みの標柱の隣りに説明看板を設置する。
183111001	1	3111	川の365日を利活用した住民参加型活動事業(旧美唄川河川調査・旧美唄川「雪中植林」)	NPO法人山のない北村の輝き	理事長	石黒 武美	北海道	旧美唄川「水辺の楽校」周辺をはじめとする河川環境を活用し、水質・生物調査、川の流れ体験、カヌー体験などの自然体験及び川の安全講座等について、地域の活性化(まちづくり)と河川環境の保全を促すため、市民団体と行政が協働で、地域住民(保育園児・小学生・中学生を含む)に対して、河川を活用した自然体験及び緑化事業を開催する。
183111002	1	3111	「釧路川・釧路湿原」における環境保全等に関する普及啓発事業	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長	伊東 良孝	北海道	釧路川(釧路湿原)で行われている保全事業やエコツアーなどの賢明な利用、国や自治体、NPO、個人などの参加により進められている自然再生事業などに関して、それらの取り組みをより身近に感じる機会として、地域住民を対象とした自然観察プログラムを実施するもの。プログラムでは、釧路川・釧路湿原での自然観察や体験学習などを行うことを通して、身近な川や湿原の価値、保全の重要性についての認識や河川愛護意識を深め、地域住民の保全意識の高揚を図る。
183111003	1	3111	釧路湿原再生プロジェクト	北海道標茶高等学校	校長	小川 龍幸	北海道	釧路湿原の保護と再生および地域産業と自然の共生を目的とし、湿原植物を使用した水質浄化の研究を行う。具体的には本校生徒の活動として、本校敷地内にあるミニ河川や釧路川での水質調査や水生生物調査などを実施する。また、地域の小学生や酪農家、町民を対象に環境学習会や意見交換会を実施し、釧路湿原やそれに関わる環境についての意識の高揚をはかり、この課題について地域で取り組む形をつくっていく。

平成18年度 新規採択一覧(12/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111004	1	3111	十勝「子ども世界の川と私たちの川ミーティング」開催事業	特定非営利活動法人帯広NPO28サポートセンター		千葉 養子	北海道	交通手段や生活環境の変化から、子どもたちの河川及び河川環境への無関心が問題になっている。そこで、途上国など世界の様々な河川及び河川環境とそこで生活している人々の河川との関わり方を知り、自分たちが住んでいる地域の河川及び河川環境を見つめなおすことで、それらへの興味関心を高め、問題意識を育み、自分たちとその地域の河川及び河川環境との関わり方を考えるきっかけを作るため、川ミーティングキャンプを開催する。
183111005	1	3111	北海道地域水辺での体験活動中間支援による活動促進及び、水辺の体験活動人材育成事業	北海道エールセンター全道運営協議会		太田 昇	北海道	北海道は水辺体験を行う環境として非常に恵まれている。そのため多くの個人・団体が水辺での活動に興味関心を持っている。しかし、安全管理者などの人材不足やボート・ライフジャケットなどの資機材不足や活動プログラム不足で興味関心を持ちながら十分には活動できていない個人・団体が多数存在する。そこでそのような個人・団体と協働し、課題を解消することで、北海道地域の水辺の活動促進及び、水辺で活躍する人材を育成する。
183111006	1	3111	岩木川子ども自然体験学習会	NPO法人岩木山自然学校	理事長	高田 敏幸	青森県	岩木川流域の子ども達を中心に、ヨシ原の環境学習、川の魚調べ、川と津軽の文化学習、川の清掃活動等、岩木川での自然体験や環境学習を通し、岩木川の環境、自然、文化の学びと、参加者や地域と交流、参加者自信の「生きる力」を育み、より良いふるさと作り(地域づくり)に貢献できる子ども達の育成として「岩木川子ども自然体験学習会」を開催します。
183111007	1	3111	イワナが安心して産卵できる川づくり	あおもりの川を愛する会	会長	佐々木 幹夫	青森県	青森を流れる鳶川を対象とし、イワナが安心して産卵できる川づくりをテーマに、地域の住民、河川管理者及び学識経験者が、水質・生態調査、勉強会、意見交換会などを実施する。
183111008	1	3111	住民参画型河川情報Map「アイ・MAP」の制作～北上川版～	KappaClub関工(岩手県立一関工業高等学校)	校長	藤代 隆治	岩手県	手書きの地図とWebの掲示板とリンクさせて、携帯電話による投稿を可能にする。撮影した場所も携帯電話からGPS情報を添付することで撮影場所を確認することができる。川を利用する人や流域に住む住民に自由に投稿していただくことにより、危険な場所や自然環境、ゴミの溜まりやすい場所等、川の行事を含めて色んな形で川をみることが出来る。本年度は17年度に完成した河川情報Mapの未編集部分(一関市から宮城県境区間)を完成させ、Web掲示板も分野別に区分けする。本年度は、「川の日ワークショップ」や流域住民の活用を兼
183111009	1	3111	北上川及びその支流をフィールドとした川の安全・危機管理体験活動	特定非営利活動法人北上川流域連携交流会	理事長	吉田 幸助	岩手県	河川愛護・河川環境保全意識の高揚及び川に関する安全・危機管理の基礎知識や技術の取得促進を図るため、北上川及びその支流をフィールドとした体験活動を運営する。学校教育や社会教育等の指導者を対象としたプログラム、小学4年生～中学生を対象としたプログラム、親子を対象としたプログラムを開催する。また、記録集を作成し学校や社会教育機関、水辺プラザ等に配布することにより、川の安全教育の普及啓蒙に努める。
183111010	1	3111	身体および知的障害者への水辺体験サポート	リバーズネット阿武隈	会長	箕笹 文夫	宮城県	阿武隈川流域および周辺の特別養護学校や聾学校、その他通所施設や授産施設など子供だけでなく大人も含めた知的障害および身体に障害をもつ方たちを対象に、水辺においてカヌーやゴムボート体験を実施する。さらに、障害をもつ方を川に案内するインストラクターの技能の向上と福祉活動に対する意識の高揚を目指す。
183111011	1	3111	「湯沢地区子どもの水辺」における子ども達の川に学ぶ体験活動の推進～チビツ子アユつかみ大会～	湯沢地区子どもの水辺協議会	会長	高橋 永吉	秋田県	平成17年3月に「水辺の楽校」に登録された「湯沢地区子どもの水辺」を活用し、川への理解と環境保護意識の啓蒙のために、市内小中学生を対象として「チビツ子アユつかみ大会」を実施する。「湯沢地区子どもの水辺」に特設プール(浅瀬)をつくり、その中に養殖アユ7000匹を放流してのつかみ取りを行う他、講話を行ったり、河川の写真パネル等を展示したりすることで、河川の美化、愛護を呼びかける。
183111012	1	3111	寒河江川流域の自然環境をテーマとした啓発活動と環境教育を含めた流域周辺の貴重な湿地の保全と再生活動	西川町大井沢自然博物館	西川町大	近松 捷一	山形県	寒河江川流域の自然環境を広く一般へ啓発する事を目的に、小学生対象の水辺の生き物調査、流域の生物をテーマとした特別展、自然観察会などを開催する他、流域の自然環境に関係する調査資料などをまとめ、啓発資料として活用し、県内外との情報発信・交流を図る。また、子供達の自然学習場所であり、ハッチョウトンボ・キソウ等の希少野生動植物が生息している流域の貴重な湿地の保全と再生活動を地域と連携して行う。

平成18年度 新規採択一覧(13/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111013	1	3111	「きれいな川で住みよいふるさと運動」推進キャンペーン事業	「きれいな川で住みよいふるさと運動」推進本部	本部長(齋藤 弘	山形県	地域の身近な河川に美化活動として、本県で実施している「きれいな川ですみよいふるさと運動」が来年度30周年を迎える。本県の愛護活動や美化運動を一層推進し、親しまれる河川環境づくり、より豊かで良好な河川環境の創造を図るための契機となるよう、30周年記念事業としてキャンペーンイベントを開催するものである。
183111014	1	3111	会津水環境監視児童団の結成及び育成事業	阿賀川・川の達人の会	会長	山中 實	福島県	会津地域は、阿賀川流域の豊かな自然と清らかな水に恵まれ、優れた自然環境を健全な状態で次世代に引継ぐためには、地球環境の根幹とも言える「水環境」の保全が不可欠であり、これら保全を継承していく人々が必要である。このため、会津水環境児童監視団を結成し、次の新たな4つの視点 ①人と川の豊かなふれあいの確保のための水質管理。②豊かな生態系の確保のための水管理。③利用しやすい水質の確保のための水管理。④下流域や滞留水域に影響の少ない水質確保のための水質管理。に立って、水生生物調査等簡
183111015	1	3111	利用者負担導入による三次元プロジェクト定着化事業	NPO小貝川プロジェクト21	理事長	井草 雄太郎	茨城県	年間7千人が参加する、小貝川をフィールドした教育と福祉の実践「小貝川・三次元プロジェクト」の運営は行政や財団からの助成で支えられてきた。しかし、事業の定着化には、利用者負担導入による収入の安定化と、資材リース料軽減による経費削減が不可欠である。そこで、パンフレット等による有料利用者の増加と、資材購入によるリース料軽減により、助成金に頼らない同プロジェクトの永続化を図るものである。
183111016	1	3111	わたらせ水辺の楽校での体験学習会の開催(プロジェクトWET講習会・生き物観察・川の調査)	わたらせ水辺の楽校推進協議会	会長	針谷 力	茨城県	古河市では平成15年に「わたらせ水辺の楽校」が登録になり、推進協議会では児童に自然観察会などを展開している。平成18年度は国土交通省の水辺整備が予定され、それに合わせてソフト事業を拡大し、これまでの自然観察会・水質調査に加え、プロジェクトWET等の環境教育プログラムを重点的に開催していく。また、子供たちに川を知ってもらうために、「川流れ」体験を試みるため、川の指導者講座を開催し人材の育成を図る。
183111017	1	3111	渡良瀬遊水地のヨシ原環境の保全検討および地域の連携で作る保全実施活動	渡良瀬遊水地利用組合連合会	会長	田中 逸郎	栃木県	渡良瀬遊水地の豊かで貴重な湿地環境を構成する生態系保持のためには植生遷移を防ぎ良好なヨシ原を形成するため毎年行われるヨシ焼きが欠かせない。しかし近年ヨシ焼きに携わる人も少なくなりその技術の伝承や人材育成、協力体制の組成等が継続実施のための課題である。広くヨシ焼きへの理解を促し、前期課題の検討及びその対策をとりまとめ、継続実施のための総合的な方策を立て、さらに広報及び実施マニュアル等の作成を行う。
183111018	1	3111	渡良瀬遊水地貴重植物の保全方法の検討及び周辺児童・住民参加による貴重植物保全体験、保護啓発活動	財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団	専務理事	白井 勝二	栃木県	渡良瀬遊水地の貴重植物の保全を目的に文献・現地調査等により種ごとの保全手法を探り、種子を採取し育成実験等を試み、遊水地に返し守るための最適な方法等を検討する。またその保護においては積極的な情報提供による正しい理解と愛護の気持ちの育成が大切なことから、周辺住民や児童等を対象としたサークル等を設立し、協働作業等を通じた体験学習による啓発、また保護活動を広く世に周知し関心を広めることを目的とする。
183111019	1	3111	「桐生川子どもの水辺」における子どもたちの川に学ぶ体験活動と河川愛護活動・環境学習のための活動	桐生市立東中学校	校長	尾身 正治	群馬県	「桐生川水辺の楽校」の東中学校を中心に、菱中、東小、菱小と連携して、水性生物調査、川流れ体験、カヌー体験など安全学習講座、ヤマメの育成放流、「友禅ながし」体験学習、地域の洪水歴史学習の実施、地域の実践発表、育成会・青小愛、区民など地域と連携し河川愛護活動のネットワーク化した取り組みや川の環境学習の指導者の育成を図る。
183111020	1	3111	入間川での障害者カヌーによる交流	駿河台大学	学長	竹下 守夫	埼玉県	車椅子利用者用カヌーを大学と障害当事者で協同製作した後、入間川でカヌー講習会を開催する。講習会ではカヌーの基本操作を習得し、自然に親しむ。また、川下りをしながら観察をし、リバーマップを作成する。このリバーマップはバリアフリーやユニバーサルデザインを念頭に置いたマップとする。このようなカヌー製作や川下り、リバーマップの作成作業を通じて、障害者と健常者の交流機会を創出する。
183111021	1	3111	交響詩「多摩川の流れば絶えずして138」	センドー・オペラ・ミュージカル・カンパニー有限会社	取締役	仙道 作三	千葉県	関東の三大河川の一つ、多摩川の流れを雄大な音楽で、芸術で、愛される音楽を作り、CDで発表し、治水や利水や水環境を、広く一般市民を対象に啓発したい。世界の河川を歌った音は、ライン川、ドナウ川、テムズ川、ミシシッピー川、ソロ川、ヴォルガ川など、今なお美しい川の調べの音楽が奏で続けられている。日本に於いては、川を歌った曲はほとんど無いに等しい。河川や水環境を未来に語り継ぐためにも、多摩川の交響詩は、一時代の前を見る日本の状況と、現在の中国における河川環境の悪化を考える時、今まさに適宜であろう。

平成18年度 新規採択一覧(14/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111022	1	3111	シンポジウム「アホウドリ、絶滅からの復活」	財団法人山階鳥類研究所	理事長	島津 久永	千葉県	一旦絶滅宣言されたアホウドリは、土石流の防止等による繁殖地の保全と、安全な場所へのコロニー移住作戦で個本数を回復した。その過程を直接保全に関わった研究者が検証する。また河川・港湾等から流出するプラスチックごみによる海洋汚染のアホウドリへの影響を検証するとともに、完全復活をめざして進める小笠原での保全計画に関して国外の成功例から学び、これらを広く一般に知らせるためにシンポジウムを開催する。
183111023	1	3111	「手賀沼」の化学部生徒による水質調査と酸化チタン光触媒フリーツフィルタによる水質浄化の研究活動	千葉県立柏中央高等学校	校長	牛口 敬一	千葉県	本校の近くにある手賀沼は、利根川の水を入れる北千葉導水事業により、水質が以前より大幅に改善された。しかし、手賀沼の東半分では、懸濁物質が多く、透視度が低いなど、まだ水質が改善されていない。そこで、化学部の生徒を中心に、汚濁の状況について、pH、COND、DO、COD、全窒素、全リンなどの水質調査を行い、水質が抜本的に改善されない原因について調べる。さらに、酸化チタン光触媒を担持したフリーツフィルタを使って、太陽光により手賀沼の水質を浄化する研究を行う。
183111024	1	3111	多摩川における癒し体験活動の推進と指導者向け活動マニュアルとりまとめ	多摩川癒しの会	会長	長谷川 幹	東京都	平成10年より継続してきた多摩川における癒し体験活動とバリアフリーの川づくり活動をさらに発展普及されるために、指導者向けの活動マニュアルをとりまとめ、指導者の育成を促進させることとします。指導者向け活動マニュアルをとりまとめるに当たって、内容的確性を高めるために、代表的な活動についてモデル的に実践して、マニュアル記述内容を確かめます。
183111025	1	3111	「子どもの水辺」における自然再生のための実践活動	特定非営利活動法人空堀川に清流を取り戻す会	理事長	小林 寛治	東京都	空堀川は、長年続いている河川工事と、流域下水道の整備とによって水無し川となり、生物棲息環境は破壊されてしまいました。川を愛し、河川の復活・街おこしをテーマにしている私どもは、この環境を回復させるべく活動しており、その成果は一昨年「子どもの水辺」として認定されました。本申請における事業では、この「子どもの水辺」を利用して、小中学生とともに水辺の自然再生に実践的に取り組んでいきたいと考えています。
183111026	1	3111	川で学び川で出会う・・・みんなで作る水辺と人のネットワーク	特定非営利活動法人えどがわエコセンター	理事長	岡島 成行	東京都	江戸川区は三方を海と川に囲まれた豊かな自然環境を備え、区内には三本の一級河川が流れています。これらの河川や河川敷を活用し、自然体験教室や一般区民が参加できる河川環境調査など、区民対象の様々なプログラムを年間を通じて、実施します。また、指導者の人材育成や、活動団体の交流会を行い団体同士のネットワークを構築することにより、質が高く、幅広い体験プログラムの実施に努めます。
183111027	1	3111	海岸愛護推進事業(海岸愛護写真コンクール・グラビア・ポスター作成)	社団法人全国海岸協会	会長	脇 雅史	東京都	四方を海に囲まれたわが国で海岸線は、生活、産業、レクリエーション等の場として、また、貴重な自然空間として多種多様に活用されており、うるおいやすらぎのある海岸への期待は、ますます高まっております。この貴重な自然空間を大切に守り、育てる心の広がりを願って海岸美化運動等を推進するほか、後世代の人々に喜ばれる美しく安全な海岸作りを目指して、海岸愛護写真コンクールを実施するとともに海岸愛護ポスターを作成するものである。
183111028	1	3111	荒川遊学ガイド養成講座の開催	特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム	代表理事	野村 圭佑	東京都	荒川下流部でゴミの調査・回収と水質などの自然調査を行っているが、川を利用した環境学習や総合的学習の講師の養成が多くなり、『荒川遊学ガイド』(冊子)を作成し、日本の伝統的文化でもある投網やヨシズ編みなどの遊びを子どもたちに教える指導者を養成する連続講座を開催し、地域のニーズに応えることを目的に開催する。
183111029	1	3111	環境学習用DVD製作及び活用事業:「わたしたちのくらしと川のかんきょう(仮称)」	社団法人日本に水をきれいにする会	会長	櫻井 新	東京都	水環境保全の視点に立って人と河川等との関わりも強めていくために、次代を担う子どもたちが、実践活動を通じて地域の川への興味を持ち、産業や暮らしと川との関係を学習することが重要である。本会がこれまでの事業で集積した具体的な各地の活動事例を中心に、総合的な理解を深めるためのテキストとしてDVDを製作し、関係方面への配布や本会会員組織の行う行事等での上映等を行い、子どもたちの川についての環境学習の効果を高める。
183111030	1	3111	東京の川を考えるシンポジウム2006	川シンポジウム実行委員会	委員長	廣木 良司	東京都	川に関する有識者や川における環境活動を行っている市民団体の代表、河川管理・事業者など、幅広い主体の参加を得て、身近な「東京の川」への理解を深めていくことが大切である。地域住民と行政との協働への働きかけを目的とし、「川について考えるシンポジウム」を開催することで、河川愛護の意識を深め、啓発に努めるものである。

平成18年度 新規採択一覧(15/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111031	1	3111	「北区・子供の水辺」における自然再生と体験活動の推進	北区水辺クラブ	代表	飯田 邦男	東京都	「北区・子供の水辺」周辺の小学校の児童や地域住民を対象に、魚類・植物・水質調査、水辺の保全作業、水生生物による水質判定調査、自由研究のサポート企画、野鳥観察などを実施する。調査・体験活動で得たデータは小冊子にとりまとめ、イベント参加者や地域住民に広く配布する。さらに、開園2周年イベントとして、活動成果を地域住民に対し発表する。
183111032	1	3111	「春の小川」案内板プロジェクト～ITと街メディアを用いた「春の小川」を見せる・聞かせるプロジェクト～	NPO法人渋谷川ルネッサンス		尾田 栄章	東京都	現在はその大半が暗渠になっている渋谷川水系は、渋谷区を中心に東京西南部の広範囲に及ぶ。近年、渋谷川再生に向けての議論が少しずつ活発になる中、唱歌「春の小川」の舞台であったその川を明示的に想像的に回復することを試みる。流域各所の電柱看板などにケータイを使って情報にアクセスできる案内板を設け、川にまつわる物語及び音楽をソースとしながら、今も川が生きていることを体験できる地域メディアを創出する。
183111033	1	3111	川に学ぶ体験活動指導者養成講座の本格的開催	特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会	代表理事	大野 重男	東京都	「川に学ぶ」社会の創造に向け、全国各地で子どもを楽しく安全に水辺へ誘える川の指導者育成講座を、開催希望している地域及び団体と協力して、全国各地で本格的に展開する。それに加え、これまでに助成事業によって構築された、川に学ぶ体験活動指導者の養成システムや検索システム等を、各種広報媒体へ働きかけて積極的に広報し、各種助成成果をこれまで以上に社会へ還元していく。
183111034	1	3111	江戸の舟運として利用された江東内部水域における大江戸ヒストリックツアー	特定非営利活動法人江東区の水辺に親しむ会		飯田 倅子	東京都	江戸時代から昭和初期まで舟運によって繁栄した小名木川をはじめ横十間川・大横川・仙台堀川・北十間川などを実際にボートで巡り、江東内部水域が持つ歴史文化を水辺から検証し学び取る大江戸ヒストリックツアーを実施する。川から街を体験することで江東区の地域性である水辺を活かした街づくりへの区民の方々の関心を高め、区外の方には江東区の魅力について理解していただく。
183111035	1	3111	多自然型川づくりを普及・推進するためのシンポジウムの開催	多自然型川づくりシンポジウム実行委員会	委員長	島谷 幸宏	東京都	全国の国土交通省の事務所・自治体および建設コンサルタント・施業者等の川づくりの担当者を対象に、多自然型川づくりの目的や実施状況、効果などについて広く周知するためのシンポジウムを開催し、多自然型川づくりの普及・推進を図るとともに、多自然型川づくりを担う人材を育成することを目的とする。シンポジウムは、全国規模のものを1回、各地方整備局単位のもの1回ずつ(計9回)の合計10回行う。
183111036	1	3111	多摩川における児童・生徒の“川に学び、川を楽しむ”体験学習活動支援とプログラムの実施	特定非営利活動法人多摩川エコミュージアム	代表理事	長島 保	神奈川県	多摩川流域の小中高校児童・生徒を対象に四季を通じて水質・生物(植物・魚・昆虫等)の調査・多摩川の文化、歴史を学び、五感を活かした実体験から川の楽しさを知る。又、研修・発表会の開催によって学校間交流と発表の場づくり、得た情報の発信、集積能力の向上を図り、支援する。
183111037	1	3111	「三峰川、川づくり地域づくり人づくり」天竜川の支流三峰川における住民参加により策定した三峰川みらい計画の実現を目指す市民団体による協働事業	三峰川みらい会議	代表	織井 秀夫	長野県	三峰川の将来計画「三峰川みらい計画」の実現に向けて、流域の人々と共に行う参加型川づくり河川内樹林化対策、環境整備地区自然再生事業完了地区の地域住民組織管理等の地域づくり、流域の小中学生写生大会親子で学ぶ利水の歴史サイクリング、川の文化遺産の保全と伝承、アレチウリ等有害帰化植物駆除と指導者養成の人づくりを市民団体のパートナーシップにより実施、参加型社会と次世代に残せる市民の川三峰川の創生を図る。
183111038	1	3111	大人が天竜川に親しむ、きっかけ作り活動	財団法人飯田市天竜川環境整備公社	理事長	牧野 光朗	長野県	伊那谷を流れる天竜川上流は、流域住民の心の奥へ洪水の歴史から、川の周辺は、堤内地であっても“河原”と呼び、あまり近づかない場所として意識づけられている。学習館“かわらんべ講座”の活動経験から、川体験の途絶えた年代の大人や、親の世代へ、川に出かける、係わる、何度も足を運んでもらえる場として、大人かわらんべ講座、ラフティング体験、河川整備ボランティア、アサギマダラが飛ぶ河原作り、ホテルが舞う水辺作り活動を提供する。
183111039	1	3111	『越後、新川の開削』副読本の出版	歴史研究グループ「若さの会」	会長	加藤 功	新潟県	越後・新川の開削は、新潟県西蒲原を現在のような美田に変えたきっかけの河川工事であり、江戸時代最大の底桶による川の立体普請であった。しかし、近くに住む新潟市民でも新川と西川水路橋の存在や内容について理解している方々は非常に少ない。この工事の実態と排水機なくして存在しない*m地帯の西蒲原の上に私たちが生活している現実を、より多くの市民に知っていただくため、小中学生用、大人用の副読本を2種類作成配布する。

平成18年度 新規採択一覧(16/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111040	1	3111	生き物豊かな福島潟自然学習園の創造活動と新井郷川整備計画にともなう福島潟の環境保全・普及活動	特定非営利活動法人ねっとわーく福島潟	ねっとわ	市嶋 彰	新潟県	福島潟の自然学習園に多様な生きもの生息・生育できる水辺環境を整備・創造し、新井郷川河川整備計画の環境への負荷を最小限に抑え、潟の保全・再生・普及活動さらに情報の発信を行う。
183111041	1	3111	第15回全国川サミットin揖斐川	全国川サミット連絡協議会	揖斐川町	宗宮 孝生	岐阜県	一級河川の河川名を自治体名にしている全国の市町村が、全国へ河川愛護の啓発を図るイベント。平成18年度は揖斐川町で開催し、先人から受け継いだ豊かな河川を身近で親しめる河川として次世代に引き継ぐために、「清流を取り戻す取り組み」をテーマに全国の自治体と流域の人々が一体となって考える機会とするものです。
183111042	1	3111	2006河川環境メッセin岐阜の開催	岐阜県自然共生工法研究会	会長	河村 三郎	岐阜県	かつては身近な存在であり、生活の中に深く関わっていた川は、いつの間にか我々の生活から遠い存在となった。今一度、うるおいのある豊かな水辺環境を保全・創出し、次世代に引き継ぐことが重要な課題となっている。この課題をテーマに第4回目となるメッセを開催する。産学民官の自然共生の取り組みを広く紹介するとともに、各界、各層間の交流を図り、過去3回の開催で根付き始めた自然共生の考えのより一層の普及啓発を行う。
183111043	1	3111	「水の山・富士山ぐるっと湧水探検隊」の結成と富士山湧水インストラクターの育成	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	事務局長	渡辺 豊博	静岡県	富士山周辺には数多くの湧水池が点在している。しかし近年、湧水の減少や水質悪化、開発による変化が進み消滅の危機にある。そこで、富士山周辺の小中学生を調査員とした「富士山ぐるっと湧水探検隊」を組織し、湧水池の現状、水質・生物調査、歴史的役割などを総合的に調査し、「湧水マップ」にまとめる。また、調査の推進役や環境教育の実践者の役割を担う「富士山湧水インストラクター養成講座」を開催し、保護者や先生、NPOなどを対象とした指導者の育成を図る。
183111044	1	3111	宿場町を潤していた生活水の源「元井戸」の再生	特定非営利活動法人里の楽校	理事長	山田 辰美	静岡県	水辺利用の形態を伝える史跡の元井戸の再生に取り組む中で、多くの市民や子ども達に川や水の大切さやそこから得られる恵みの豊かさに気づいてもらう。そのために、元井戸の起源や流域への貢献、伝承、水車などの水利用の形態、健全な水源の維持管理手法などを調査・研究したり、元井戸の存在とその役割を知らせる学習会を開催したりする。また、失われていたホテルや魚など水辺の生き物の復元活動も行う。
183111045	1	3111	藤前干潟クリーン大作戦	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会	実行委員	浅沼 秀夫	愛知県	国土交通省中部地方整備局が提起した「川と海のクリーン大作戦」の提起を受けて、実行委員会を構成する4市民団体と行政機関、地元自治会、企業、学生、流域住民との協働により、ラムサール条約登録地の藤前干潟と庄内川・新川河口域のゴミ拾い活動を継続実施する。あわせて、上下流の交流が始まっていること踏まえて、流域全体に呼びかけて「ゴミ問題を考える集い」を開催し、流域内でゴミ流失を抑制する啓発運動を推進する。
183111046	1	3111	「草津川と子ども達の環境学習」大人との協働による河川体験活動	特定非営利活動法人琵琶湖ネット草津	代表理事	奥野 和男	滋賀県	21世紀の初頭に完成した「草津川」を住民主体の河川づくりを推進している法人です。平成16年度と17年度、貴財団のご支援で「行政とのパートナーシップによる草津川環境づくりに関する研究」が5月末に完了の予定で、河川活動におけるコンセプトづくりが出来上がりますが、その第一歩として推進の主役である住民に息の長い活動が望ましい。このため、大人と未来を担う子ども達とが協働で、草津川のフィールドを舞台に草津川歴史と環境について実践活動を定着させるため、実験として取り組み身近な川に対する意識高揚を図りたい。
183111047	1	3111	北之庄沢を守る会	北之庄沢を守る会	代表	西野 平	滋賀県	わが国の貴重な水郷の一部をなす「北之庄沢」は、昔は水がきれいだと数多くの魚類や水草、野鳥や昆虫類も多く生息し、人間生活とも深い関わりのあった沢でしたが、近年の生活環境の変化から、省みられず放置され悪臭漂うヘドロの沼となっていた。県ではこの「北之庄沢」の再生こそ、貴重な水郷の復元だけではなく、人間と自然との共生関係を取り戻す上でも貴重な資源であるとして、多額の費用を投じヘドロなどの浚渫を行い、昔の姿への復元に取り組みされた。浚渫された沢も、そのまま放置すれば瞬く間に悪臭漂うヘドロの沼に戻る。
183111048	1	3111	葉山川の美化及び水環境調査を通じ、流域の子ども達、地域協働各校とのふれあいの水辺づくり	草津塾	代表	大津 寿男	滋賀県	葉山川流域では毎月の清掃活動、水質、鳥類、水生動植物調査等を行い、流域の小学校では炭を使った水浄化体験学習会、地域協働各校の人達とはめだか学習、放流会等を行い、子供達に自然体験の面白さ、川に対する愛着心と自然保護の大切さを学ぶ場作りを行う。また、各学習会で学んだ内容および調査した水質、水生動植物等を子ども環境会議、パワフル交流会、ホームページ等で地域、各校、行政等に情報発信する。

平成18年度 新規採択一覧(17/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111049	1	3111	川ガキ大将復活プロジェクト 2006「川を楽しみ、川から学ぼう！」	財団法人亀岡市交流活動センター	理事長	坂井 茂子	京都府	「川」をテーマに体験活動をイベント的に開催する。カヌー、シャワークライミング、川漁師、外来魚退治等14の体験プログラムにより川の楽しさを知るとともに川の大切さを再認識し、川の汚れやゴミの状況なども自分の目で見て感じ、身近な環境のことを知り、自然や命の大切さを実感することにより環境問題に取り組む人づくりを目指す。イベント的な開催により、多くの子どもや親子に「川」に触れる機会の提供として実施する。
183111050	1	3111	江戸時代の地誌「宇治川兩岸一覽」等に描かれた絵図と現在との比較による宇治川の景観環境プログラム。	カッパ研究会	カッパ研	鈴木 康久	京都府	・江戸時代の地誌「宇治川兩岸一覽」に描かれた景観を訪ねて、現在との比較を行う現地散策(河川はボートを使用)を住民公募で行い、現在と200年前との変化について学ぶ。・絵図と現在の景観の変化について示す資料「宇治川兩岸一覽が伝える水辺の景観・今昔」を作成し、宇治川周辺の市町の図書館などに配布し広く住民の方々に提供する。・宇治川兩岸一覽が伝える水辺の景観・今昔」を用いて、淀川の景観変化をテーマにしたフォーラムを、一般の方々に対象に開催する。
183111051	1	3111	まちの地域資産でもある河川を学ぶ体験学習の推進と人材育成を目指す「京都伏見ジュニア河川レンジャー」活動	伏見観光協会	代表 伏	大倉 敬一	京都府	豪川・宇治川派流域の小学生を対象に、十石舟(このまちが港町であったことを伝える遊覧船)に乗っての水辺の観察。河川清掃を行いながらの河川生物環境。河川やまちについての小学校学年単位での勉強会などを実施する。まちの地域資産でもある河川を活用した体験学習を通し河川に向ける子どもたちの意識を育み、また子どもたちから家庭へその意識を広げていき良好な河川環境へ向けたネットワークづくりと人材育成を目指していく。
183111052	1	3111	大和川における生徒等の川に学ぶ環境学習の推進と指導者の育成	大阪府立柏原東高校理科クラブ		二敷 寛治	大阪府	大和川の北約100mに位置する本校の生徒を中心に、水質・生物調査(通年)、河川の歴史・防災学習等(夏・冬)の環境学習を実施する。学習成果は中学生の体験入学・文化祭等で地域へ発信する一方で、学会等でも発表することで大学生や先生を啓発し、川の指導者の育成を図る。さらに本校のHPIに学習成果をアップし、河川環境及び防災に対する国民一般の理解増進に資する。
183111053	1	3111	大阪の河川環境を知る—子どもと教員のための体験・観察・実験教室	大阪府教育センター	所長	川村 幸治	大阪府	大阪の河川の環境教育を担う教員のリーダー及び推進校の育成を図るために、大阪府内の小中学校30校の教員(30)名と、約500名の児童・生徒を対象に、特に実際の河川環境—水・土・大気・生き物、そして水利用や治水など人と生活の関係についてのフィールドワークを中心とした体験・観察・調査・実験・実習を行う。さらに、児童生徒の観察・調査結果の発表の場を設け、大阪府内の小中学校の経験の交流と共有化を図る。
183111054	1	3111	狭山池ダムにおける河川愛護啓発活動	狭山池さくら満開委員会	会長	武田 博允	大阪府	狭山池ダムにおいて、河川愛護の精神を高めるため、建築家の安藤忠雄氏による啓発講演会をはじめ、桜の植樹祭、河川・堤の清掃、流木のチップ化、葎の植栽と水質検査、自然生物との触れ合いの場の創造などを地域住民が主体となって行う。また、活動の報告会を行い、市民や他の環境団体にPRするなど活動を有機的に繋げ市民活動を活性化させる。
183111055	1	3111	「東横堀川ワーキンググループ」における、沿川住民・企業との協働による「水辺景観の向上の推進事業」	大阪商工会議所	会頭	野村 明雄	大阪府	東横堀川は、阪神高速道路の高架に覆われた閉鎖的な空間であり、日常的に暗く、また建物も川に背を向けて建てられているため、地域の川に対する意識は低いのが現状である。しかし、大阪で最も古い堀川であり、都心のビジネス街において貴重な自然環境ともなっている東横堀川において、地域の住民・企業が協働して東横堀川の今後について考えていくため、東横堀川ワーキンググループでは、水辺景観の向上にむけて、地域の川に対する意識を高めることをねらい、地域が主体的かつ実践的に参加できる取り組みを行う。
183111056	1	3111	砂浜海岸を次世代に残す「砂丘守り隊」推進事業	鳥取県	鳥取県知	片山 善博	鳥取県	鳥取県では平成17年6月に策定した「鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン」に基づき、砂浜の保全・回復に取り組んでいるところであるが、今後、これからの世代を担う子どもたちに河川を源とする鳥取砂丘と砂浜海岸の復元に向けた取組への理解を深めてもらうことが重要であると考え、子どもたちを対象に「砂丘守り隊」を結成し、環境教育の一環として、測量体験(海及び陸からの測量体験)、砂の移動調査体験等を実施する。
183111057	1	3111	神戸川流域環境マップ作りIV	神戸川流域環境学習推進協議会(しまね体験活動支援センター)	会長	黒目 俊策	島根県	環境学習の一環として子ども達が河川の上流から河口までの流域全体で一斉に川の水質やゴミなどの環境調査を実施し、流域全体の河川環境マップを作ることにより河川環境保全活動のきっかけを作る。指導者の育成にも取り組み、流域全体で川を据えるように源流や河口見学なども実施し、成果発表会で活動成果を共有したり活動の質を高めたりして流域全体にも情報発信していく。その活動を島根県全体へ広げることがめざす。

平成18年度 新規採択一覧(18/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111058	1	3111	みんなで調べる宍道湖流入河川調査	宍道湖水質汚濁防止対策協議会	会長(島根)	浅野 俊雄	島根県	本事業によって、次の世代を担う小中学生は河川など水環境への理解を深め、さらには参加した小中学生が情報の発信者となり、河川環境保全活動や環境啓発効果は、その家族、地域、流域全体へと広がり、市民団体等による活動の活性化が期待できる。本事業に係る十分な活動資金がないため、参加して頂ける小中学生数に限りがある。より多くの小中学生が充実した事業に参加出来るように、基金からの助成をお願いしたい。
183111059	1	3111	残しておきたい「川のある風景画」募集と作品展	特定非営利活動法人旭川を日本一美しい川に育てる会	事務局長	畠平 泰彦	岡山県	岡山県は一級河川が三本(旭川、吉井川、高梁川)あり、また、その支流も加えると県民の暮らしは川と切っても切れない関係にある。当NPOは岡山県の中心を流れる旭川の清掃美化を住民の力を借りて年3回行っているが、その一環として、川を美しくすることへの関心を高めるため、標記絵画展を平成16年度より実施している。これを更に充実させ、全県下に拡大し、各々の河川の状況を絵画にして残していきたい。
183111060	1	3111	こいつ子ふれあいの水辺花修景を中心とした環境学習事業	エコロジー研究会ひろしま	会長	久保 允誉	広島県	平成16年3月4日に己斐地区子どもの水辺推進協議会を発足し、16年8月にふれあいの水辺が完成した。名称「こいつ子ふれあいの水辺」と称し、地域の活動や環境学習の場として利用促進していけるよう検討・実践している。また、より豊かな明るい場所づくりのための修景整備も市民と共に進んでいく様企画している。このたび、それら活動の資金等への助成を頂く為申請するもの。
183111061	1	3111	馬洗川・北溝川における子どもたちの水辺活動の推進と環境をテーマに川を生かしたまちづくり運動への参加	江の川流域環境会議	会長	辻駒 健二	広島県	馬洗川・北溝川の流域で地域の保護者と子どもたちがいっしょに環境学習をすすめている「十日市エコたんけん隊」「馬洗川ホタルの会」を中心に、水質・生物調査、ホタルの飼育活動、川の歴史・文化・学習を行ない、その成果を「馬洗川まつり」(1,000人規模)で野外ミュージカル「馬洗川ホタル」として発表する。
183111062	1	3111	吉野川グランドワーク推進モデル事業	特定非営利活動法人新町川を守る会	理事長	中村 英雄	徳島県	日本3大河川の一つ四国三郎吉野川と、その支流として徳島市内中心部に流れる新町川・助任川において、市民・行政・企業が一体となって取り組む河川の清掃活動、河川とのふれあいを通じた河川愛護活動、河川環境の向上を目的にした啓発イベントなどによる、全国のモデル事業となるグランドワークの展開を図り、これまでの取り組みの成果をさらに飛躍させていきます。
183111063	1	3111	日本一の水防竹林・水辺空間の再生及び地域連携による竹林維持活動と街づくり	特定非営利活動法人美馬体験交流の会	理事長	田中 義美	徳島県	日本一の規模を誇る水防竹林の再生と竹材を活かした地域連携による街づくりを行う為、竹林の生態系調査等を行い水辺からのメッセージの実現を目指し、川に学ぶ自然体験講座及び指導者育成、地域連携による竹材を利用した竹材地場産業開発の研究、また当地域は「子どもの水辺」登録箇所であり竹林を活かした水辺空間を楽しむ動線を再構築すると同時に水辺を再生し、地域連携による竹材維持管理及び街づくりを図る。
183111064	1	3111	重信川河口及び塩屋海岸における絶滅危惧海浜植物群落の保全・再生活動	伊予農絶滅危惧海浜植物群保全プロジェクトチーム(愛媛県立伊予農業高等学校)	愛媛県立	石原 直満	愛媛県	重信川河口及び左岸の塩屋海岸には、緊急に対策が必要な絶滅危惧海浜植物群落がある。過去2年間、産業界、学校、行政、ボランティア団体、メディアが連携して、海浜植物の生態保全や海岸清掃ボランティア活動を行ってきた。今後、植生分布の変化や海浜地形、潮流特性、漂砂量、飛砂量、地下水位等の経年変化を継続調査しながら、海浜における昆虫類、鳥類、魚類を含めた生態系の保全と環境教育を行う活動である。
183111065	1	3111	四万十川源流域環境学習プログラム「川の動きと生き物の暮らしを知ろう」の開発と実施	よみがえれ四万十源流の会	会長(高知)	石川 慎吾	高知県	四万十川源流域の森と川のあるべきすがたを流域の子どもたちに伝えていくために、魚類や水生昆虫、水辺の植物などの観察を行うとともに、それらの生息・生育環境の復元作業(ウグイの産卵床づくりなど)を通して、川の時空間的な多様性とそのダイナミックな動きとそれに対応した生き物の暮らしを学ぶ、特に川の生物の立場にたって自然を見ることが出来るような年間を通じた環境学習プログラムを作成して実施していく。
183111066	1	3111	身近な水辺を知ること、そして伝えること・守ること～福岡県内の河川・池・干潟の現状調査と、その成果を市民啓発や保護活動に生かす活動～	福岡県立北九州高等学校	学校長	城戸 晴紀	福岡県	福岡県内の水生生物の現状調査を、外来種・水生昆虫・淡水魚の3つのテーマで行う。その成果は、市立水環境館や市立自然史・歴史博物館での活動(常設展示、企画展示、講座)に反映させ、市民啓発につなげたい。また、学校ビオトープを活用した取り組みである、市内産水生生物2種の保護増殖やビオトープ体験イベントを継続して実施する。さらに、九州産インドジョウの研究や、各調査成果の文章化にも取り組みたい。

平成18年度 新規採択一覧(19/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111067	1	3111	「アザメの瀬自然再生事業」における大人から子供まで川で学ぶ体験活動の推進と指導者の育成	特定非営利活動法人アザメの会	理事長	大草 秀幸	佐賀県	「アザメの瀬自然再生事業」周辺の小中高生及び相知町内の大人まで観察会、川遊び(水泳・魚釣り・溜池のつつみかえし・研究発表会)等を開催することにより、自分達で学んだことや体験したことを地域及び町内の方々に発信する。さらに国土交通省より講師を招いて講演会を開催し環境に対する意識を深め指導者の育成を図る。
183111068	1	3111	「嘉瀬川杯・遣唐使船レース」の開催	嘉瀬川杯遣唐使船レース推進協議会		陣内 孝雄	佐賀県	中国の高僧「鑑真」の佐賀県嘉瀬津上陸にちなみ、その歴史文化を後世に伝えていくために、一般河川嘉瀬川で遣唐使船型競漕用和船(12隻)によるレースを開催し、これにより地域間の交流や河川愛護・思想普及を語る。
183111069	1	3111	ふるさとの木による緑の復元	ふるさとの木による森づくりネットワーク島原	代表	杉本 伸一	長崎県	火砕流や土石流で被災した中尾川とその周辺において、被災して倒れた樹木の種を拾い苗を育て植樹するとともに、親子による河川の環境調査や観察会を行う。
183111070	1	3111	砂防防災学習・噴火災害調査語り部隊	深江町立大野木場小学校	校長	渡邊 林	長崎県	雲仙・普賢岳直下の水無川では、火砕流や土石流で被災した爪痕が、今でも見受けられる。そこで本事業では、これらの災害の調査を行う。また併せて、現地に於て砂防施設の構造や役割を学習したり、水無川周辺の復興状況の調査を行う。その成果をまとめて、情報を発信し語り継いでいく。
183111071	1	3111	「白川ワンド・ピオトープ」学生・子ども・住民自然再生活動推進	特定非営利活動法人水辺楽校福祉ネット西原	代表理事	井芹 博美	熊本県	地域の大学生、高齢者、子どもたちが国土交通省の造った白川のワンド、河川敷を利用して、維持管理の草刈りからカヌー、救助研修、キャンプ、釣り、グランドゴルフ、野草観察、水生生物調査、野鳥観察、星座観察など、さまざまなイベントを計画して、まちを流れる白川の自然環境と共生のまちづくり活動を実施する。とくに、本年は「水辺ワンドのピオトープ」を学生、子ども、住民と協同して企画し、自然再生活動を推進する。
183111072	1	3111	菊池川キッズ探検隊	菊池川キッズ探検隊	隊長	緒方 景	熊本県	菊池川流域の子どもたちを対象に、河川での自然体験や川遊びを通して環境保護の大切さと喜びを実感してもらう体験事業を行う。内容としては、ボートによる川下り・源流探しなどを実施することにより、この体験を活かして次代を担う子どもたちが本当の川に魅力を知り、川を身近なものとして認識し、好きになり、環境保護・川の今後の在り方を考える。そこで、子どもたちの夏休み期間中に、私たちの生活を支えてきた菊池川で1泊2日の体験活動事業を行う。
183111073	1	3111	川を活かした「まちづくり」全国大会	川尻校区青少年健全育成協議会		吉村 圭四郎	熊本県	我が国は、5人に1人が高齢者となり、同時に少子化の問題がある。また、子育て環境も重要な課題となっている。川は人々が生きていく上で必要な恵を育んでくれるため、世代間継承を軸としたコミュニティを形成する絶好のステージであることから、先進地である熊本県川尻町において、「川を活かしたまちづくり全国大会」を開催し、主に地域が支える川での福祉(医療)と教育のあり方について、指針を得るものである。
183111074	1	3111	大野川や「乙津川水辺の楽校」における子ども達の川に学ぶ体験活動の推進と指導者の育成	特定非営利活動法人大分環境カウンセラー協会	理事長	村谷 俊雄	大分県	「乙津川水辺の楽校」周辺の小中高校の児童生徒を対象に、乙津川の水質・生物調査、塩湿地植生の再生(ハマツツナ・ハマボウなど)、大野川・乙津川流域の水害や歴史の学習、カヌー・Eボート体験による安全学習などを実施する。また川での体験や学習を発表会や報告書によって地域住民に発信する。更に青少年健全育成会のリーダーや教師を対象に、川の指導者育成講座を催して指導力の向上を図り、青少年の健全育成に資する。
183111075	1	3111	市民と行政の連携で、大野川流域の川づくりの将来のあり方を模索する(人材育成、子供の学習の場・情報の蓄積・発信の場等の継続的仕組みづくり)	大野川流域懇談会	会長	川野 田實夫	大分県	大野川では、流域で活動する市民団体と学識経験者、河川管理者と日常的な連携がなされており、それぞれの立場から協同して川づくりを行っている。今回連携した川づくりの仕組みを確立し、川づくりや河川の他分野にわたる情報を蓄積し、広く発信していくことで各地の川づくりに寄与したい。事業では、ネットワークを活用した地域防災力の向上や、流域各地の人材育成、子供世代の河川意識の向上のための啓発等を考えている。

平成18年度 新規採択一覧(20/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183111076	1	3111	リュウキュウアユを育む奄美多自然型フォーラム	奄美多自然型川づくり実行委員会		四宮 明彦	鹿児島県	リュウキュウアユは琉球列島固有の亜種であるが、沖縄等ではすでに絶滅し、野生個体群は奄美大島にのみ生息する。奄美大島においても個体数減少のため、2004年に鹿児島県の条例で捕獲禁止になった。このため、リュウキュウアユの個体数を復活できる川づくりを目指す。その目的達成のために、流域全体の保全計画を住民・行政・研究者・技術者が連携して策定し、それを実行する。
183121001	1	3121	後志利別川における川と地域の人々の生活とのかかわりを探求する活動	今金町立花石小学校	校長	加藤 正男	北海道	清流日本一の後志利別川中流の花石地域は砂金採取から歴史が始まり、古くから川と地域住民の生活の結びつきが強い。本校の「総合的な学習の時間」では「川」という一つの大きなテーマのもと「川に親しむ活動から「川と生活のかかわり」などを地域の人々及び関係機関の協力を得ながら学習活動を展開している。
183121002	1	3121	調べよう帯広川(3年生)	帯広市立啓西小学校	学校長	神林 利行	北海道	学校の近くを流れている帯広川の水質、生き物、川の流れなどを調査・まとめることによって、自分たちが住んでいる地域の川について知識を深め、川に親しみをもてるようにする。また、自分たちの川を次の世代に残そうとする資質を育てたいと考えている。そのためには、総合的な学習の時間を活用して遊びながら川について学び、川のよさや楽しさ、魚などの生き物の大切さを体験させ、実感をともった川に対する思いを育てていくことが大切と考える。その際、学校の予算内では購入することができないものをこの助成によって補う。
183121003	1	3121	天塩川における川に親しみ河川浄化を目指す活動	幌延町立幌延小学校	校長	靱山 信明	北海道	行政機関や地域との連携を図りながら、川での体験活動を行うことによって、河川浄化を目指す環境教育に取り組む。内容としては、天塩川の水質検査や、天塩川流域に棲息する動植物の調査などを実施する。
183121004	1	3121	小学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	恵庭市立島松小学校	校長	深瀬 禎一	北海道	島松小学校では総合的な学習の時間において、河川を教材とした学習を行っており、子どもたちの調べる力や学習意欲の向上につながっている。具体的には川のしくみや川の生き物を調査し、さらには水質調査などを通して、環境について学び、そこから福祉・ボランティアなど啓発活動を中心とした広い分野に渡って学習していく。また、地域の洪水や歴史を学び、川についての安全学習を行う。学習の成果は、保護者も参加する学習発表会を実施し、学校内だけでなく、町内会の回覧版などを通じて地域への発信を行う。
183121005	1	3121	千歳川まもり隊づくり隊～ふるさとの川・千歳川の環境をさらによく知り、そこに関わる人々の思いに触れ実践することを通じて、将来の千歳川像を描き、そ	北海道千歳市立北栄小学校	校長	荒川 顕	北海道	平成15年度から3ヶ年にわたり、本校5・6年生は「私たちのまちづくり」を大テーマとする総合学習に取り組んできた。その中から千歳川やその水源の大切さと脆さに気付いて来た。そこで平成18年度は、ふるさとの川・千歳川の自然・社会環境をより深く多面的に知り、そこに関わる人々の思いに触れ、調査や保全活動を実践することを通じて、将来の千歳川像を描き、それを市民に発信する総合学習を展開したい。
183121006	1	3121	小学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	平取町立二風谷小学校	校長	谷口 薫	北海道	総合的な学習の時間(ハラキ活動)において、河川(沙流川など)を教材とした学習を行う。川のしくみや川の生き物、二風谷ダム周辺の自然や流域の岩石など児童一人一人の興味関心をもとにテーマを設定し調査し、川とかかわりの深い故郷二風谷について学習を深める。また、川とのかかわりという視点から地域の歴史を学び、川についての安全学習も行う。学習の成果は、ハラキ集会として発表集会を実施し、学校内だけでなく、保護者・地域へも発信を行う。
183121007	1	3121	ふれあい釧路川水辺教室	標茶町立標茶小学校	校長	大倉 光昭	北海道	学校のすぐそばを流れる釧路川とのふれあいを通して釧路川や自然への興味・関心を高めるために、釧路川と遊ぶ、釧路川から学ぶ、釧路川に働きかける活動を通して、小学校低学年においては生活科で、中学年以上では総合的な活動の時間で「ふれあい釧路川水辺教室」を開催する。
183121008	1	3121	総合学習におけるエジンバラ公の森を中心とした湖や河川を含む自然観察活動	南富良野町立幾寅小学校	校長	近藤 峰文	北海道	本校は北海道の中央部に位置し、自然豊かな環境にある。平成5年よりかなやま湖畔にある、エジンバラ公の森の成長を観察しているが、自然に対する関心や知識は少ない。平成18年度の3・4年生の総合学習では、従来から続けているエジンバラ公の森の樹木の継続観察を行う。さらにエジンバラ公の森を中心とした湖や河川を含む自然環境の中に自ら課題を見つけ、調べる学習を行うことで、ふるさとの自然のすばらしさに気づかせたい。

平成18年度 新規採択一覧(21/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121009	1	3121	地域を流れる阿野呂川・夕張川を体験学習する継立中学校の総合的な学習	栗山町立継立中学校	校長	土田 耕一	北海道	継立中学校の校下を流れる阿野呂川と夕張川を題材とした体験学習を総合的な学習の時間として実施し、生徒に河川に対する関心と理解を深めさせたい。具体的には、河川の自然環境調査や水質調査の実施、川に沿って広がってきた交通網や市街地・産業の歴史の調査活動、川下り体験学習を地域の講師を交えて実施する計画である。
183121010	1	3121	水はどこからどこへ	帯広市立啓西小学校	学校長	神林 利行	北海道	私たちが普段何気なく飲んでいる水道水は、清流日本一にもなった札内川からの水であるが、飲み水として私達の元に届くまでに実際にどんな施設で水道水にしているのか確かめたい。また、自分たちの使った水はどのような施設できれいに川に戻しているのかをさぐる。これらの活動を通して、河川の環境保全の大切さや水の恵みのありがたさを改めて実感させる。バス学習で浄水場などの施設を見学することで、川から水道までのみちのりをより身近なものに感じさせる。
183121011	1	3121	命の大切さを学ばせる体験活動(カヌー体験やビオトープ学習等を通して)	岩見沢市立メープル小学校	校長	中島 利明	北海道	カヌー体験やビオトープ観察などを通して、自然の生態系を理解し、環境への意識付けを図る。また、自然と人の共生の立場から、命の大切さを学ばせていく。
183121012	1	3121	望月寒川における調査活動を通して、川と親しみ河川のあるべき姿を問い直す活動	札幌市立西白石小学校	校長	西本 文男	北海道	自分の家の近くを流れる川と親しみ、その川を愛することで、川を汚すことをしない子供たちを育て、地域と一体となって河川のあるべき姿を考える活動に取り組む。
183121013	1	3121	石狩川探検隊	石狩市立花川南小学校	校長	山下 敬一	北海道	4年生総合的な学習の時間に、「石狩川」をメインテーマとして、石狩川の歴史、自然流域の街、治水問題等について調べたり、体験的学習をする。
183121014	1	3121	標津町薫別川の川探検	標津町立薫別小中学校	校長	木下 弘之	北海道	総合的な学習の時間を用いて、薫別小中学校の児童・生徒を対象として、鮭の受精卵の孵化、稚魚の育成、放流、あるいは薫別川の水質や生物の調査等を実施する。また、これら研究内容を標津町教育委員会主催の研究発表大会で発表し環境保護について訴え、学校祭で地域に向けても発信する。
183121015	1	3121	後志利別川にて、川を知り、川から学ぶ総合学習活動	今金町立今金小学校	校長	五十嵐 淳一	北海道	4年生が行う美利河ダムを有する後志利別川の河川学習を通して、川で遊ぶことの楽しさや豊かさを知る。また、川に生息する水生生物等を知ることや川と生活環境との関わりについて学習を広める。さらに、河川に従事する専門職員の体験的な話により、学習を深めることができる。
183121016	1	3121	津軽地方屏風山地帯における二ホンザリガニ絶滅の状況調査	青森県立五所川原農林高等学校	校長	川浪 佑攻	青森県	二ホンザリガニは北海道と東北北部だけに生息するわが国唯一の固有のザリガニで、東北北部の生息地のほとんどが青森県に集中している。環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、近年急激に生息地が減少している。本校では二ホンザリガニの調査を開始して10年ほどになるが、現在知られている生息地のうち、津軽地方屏風山地帯の生息地が現在でも存在するかどうかを調査し、今後の保護対策のデータとする。
183121017	1	3121	4学年総合的な学習一水をみつめようー	藤崎町立藤崎中央小学校	校長	比内 道治	青森県	藤崎町は平川、浅瀬石川、岩木川という3本の河川の合流地点である。川の上流にあるダムを見学したり、川原で遊んだりすることをきっかけに「岩木川の生き物」「水とくらし」「水をめぐる環境」など、水に関するテーマで追究する。追究したことをまとめ、発表会という形で地域に発信する。

平成18年度 新規採択一覧(22/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121018	1	3121	「ゲンジボタルの幼虫の飼育・放流活動を中心とした環境教育」	青森市立栄山小学校	校長	幸田 龍一	青森県	全校児童を対象に自分たちが住む地域にホタルが棲息する自然環境を守るために、幼虫の飼育・放流、棲息地一帯の清掃活動、エサ(カワニナ)の採取等を実施する。体験したことについては校内で発表会を開き、保護者や地域の方々に発信する。さらに、飼育・放流については「細越ホタルの里の会」とも連携をとり、保護者や教師とともに実施している。
183121019	1	3121	「人と川人と水」のかかわりを追求する河川愛護活動	弘前市立青柳小学校	校長	工藤 眞義	青森県	○総合的な学習に時間において児童に育てたい力は以下の通りである。・水生生物を観察・調査する活動を通して、その結果から河川の状態を知り、かけがえのない岩木川を大切にしていこうとする心情を高める。・浄水場や下水処理場、環境整備センター等の見学を通して、岩木川の水が生活と深くかかわっていることを理解し、安全に豊かに暮らせるふるさとづくりをしようとする意欲を育てる。・「川下り体験」や「川遊び」等の体験を通して、すべての生き物を育む命の源である岩木川に豊かな自然に親しむ。
183121020	1	3121	みつめよう！わたしたちの「赤石川」	鯉ヶ沢町立赤石小学校	校長	嶋川 龍雄	青森県	赤石川流域の生き物や水質調査、水の循環などの探検活動を通して、水源地の白神山地の恩恵について学ぶ。サケやアユの稚魚放流や授精体験、食する体験、清掃活動などを通して、川に親しみ、ふるさとの良さを発見し、また、命の大切さについて考える。また、本年度は、15年度に行った水生動物と水質調査の結果と18年度の赤石川の現状の結果と比較して、青森県児童理科研究発表会で発表する予定で、「赤石川のよさと現状」を県全体に知ってもらう足がかりの年にと考えている。
183121021	1	3121	北上川の自然環境を大切にしていこうとする活動	花巻市立矢沢小学校	校長	上野 文男	岩手県	地域の協力を得ながら絶滅危惧動物の生息環境の整備体験活動を通して環境教育に取り組む。内容としては「川の日」に河川の美しさ恐しさを学んだ川の生物の採集などをするリバーズスクールを開催する。
183121022	1	3121	1級河川涼川における水質・生物調査と地域との関わり	八幡平市立寺田小学校	八幡平市	渡辺 康明	岩手県	八幡平市立寺田小学校4年児童を対象に、水質・生物調査(夏)、地域と川の関わりの調査活動(秋)などを実施する。調査したことについては、地域の方々に招待して、発表会を開催し、自分たちの学習の成長を地域の方々に発信する。また、グループのまとめについては、全校児童に掲示を通して紹介し環境保全の大切さについて啓発を図る。
183121023	1	3121	北上川における川に親しみ共に生きることを目指す活動	石巻市立中里小学校	校長	齋藤 雄彌	宮城県	ふるさとの川である北上川を見つめ直し、カヌー体験をしったり川岸を散策し川にすむ生き物を観察したりすることで、川と人間とも共生を見い出す活動に取り組む。
183121024	1	3121	旧北上川における、川に親しみ、川を大切に、共生していくことを目指す活動	石巻市立開北小学校	校長	岸 澄夫	宮城県	旧北上川について、各関係機関からゲストティーチャーを招聘して様々な角度から調べ、種々の体験活動(カヌー・釣り・上流の学校との交流会等)を通して、いつまでもきれいで豊かな川とともに生きていくために自分たちにはできることは何かを考え、発表したり実践活動に取り組んだりする。また、同時に、川での事故防止についての知識を学び、川は危険なところという概念を払拭し、川との共生をめざす。さらに、校内において教職員対象の研修会を開催し、児童の活動に対する共通理解を深める。
183121025	1	3121	新・旧北上川の調査を通し、環境をどのように守るか考える活動	石巻市立中津山第一小学校	校長	亀掛川 孝雄	宮城県	第4年生の児童を対象に、北上川流域に棲息する生物などの調査や、北上川の歴史を調べる活動を通して、ふるさとの川の自然環境を保護することの必要性を理解し、よみがえさせるための方法を考え、実施する活動が展開できるカリキュラムを開発してきた。今年度はそれを発展させ、児童が実感できる科学的な調査をしたい。
183121026	1	3121	北上川及びその支流における川に親しみ、川をきれいにする活動	石巻市立吉浜小学校	校長	菊地 敬治	宮城県	北上川やその支流に住む水生生物・植物・水質などを調べる活動を通して、ふるさとの自然環境のよさに気付き、守り育てていこうとする環境教育に取り組む。

平成18年度 新規採択一覧(23/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121027	1	3121	ふるさとの江合川と水辺学習の楽しみ	美里町立小牛田小学校		佐藤 俊晴	宮城県	総合的な学習及び生活科を中心に、北上川系江合川牛飼水辺公園を主学習場所として水辺に親しませ、生き物の生態や植生などに関心を持つ活動を充実させる。また、江合川漁業協同組合との連携による鮭の稚魚の放流や、水辺の生き物の飼育や観察・記録、美化活動や楽しい遊びなど多様な体験を与え、河川を通して人間の生活にもたらされる自然の豊かな恵について学習させていく。
183121028	1	3121	「ぼくらシナイモツゴ探検隊」総合的な学習の時間における活動	鹿島台町立鹿島台小学校	校長	藤原 俊彦	宮城県	町の天然記念物であり、絶滅危惧種である「シナイモツゴ」に関する学習を通して、地域を知り、自分達を取り巻く環境の変化とその保全に関心をもつ。
183121029	1	3121	大沢川に生息する絶滅危惧種であるアサザや他の植物の調査および保全	宮城県石巻市立北上中学校	校長	秋山 喜弘	宮城県	大沢川に生息する植物の種類や生態などについて調査する。中でも絶滅危惧種であるアサザについての生態調査に取り組むとともに、保全のためにできることを学び、環境問題についての考えを深める手立てとする。学んだことについては発表の場を設けて地域に発信し、地域ぐるみで環境について考えるきっかけとする。
183121030	1	3121	ふるさとの川・北上川から学ぶ(体験的な活動を重視して)	石巻市立鹿又小学校	校長	手代 耕司	宮城県	4年生の総合的な学習の時間で「ふるさとの川・北上川」をテーマに活動を展開する。北上川の下流の岸辺まで徒歩10分という本校の地の利を生かして、川との触れ合い(カヌー、釣り、川遊び)、川に棲む生き物、川辺の動植物の観察などの体験活動を通して、ふるさとの川の豊かさ・素晴らしさに迫り、ふるさとの川への関心を高める。
183121031	1	3121	自然のすばらしさを体験する水辺体験活動の推進(3・4年総合的な学習)	松山町立下伊場野小学校	校長	平井 節子	宮城県	本校裏の鳴瀬川河川敷の「水辺の楽校」は、水辺体験活動が行いやすいように整備されている。そこで、鳴瀬川堤防沿いの散策や水中生物の観察、カヌー体験などといった活動を四季折々に行っていく。そのような特色ある教育活動を通して、児童の河川への親近感、そして、河川愛護の心情を大いに高めたい。それに伴い、自ら学び自ら考えるといった「生きる力」の育成が図られるよう水辺での体験活動を推進していきたい。
183121032	1	3121	総合的な学習「みんなの川(北上川)」を通して、川を大切にしようとする児童を育成する。	宮城県石巻市桃生小学校	校長	工藤 昌明	宮城県	4学年の総合的な学習「みんなの川」において、川で遊んだ体験から学習課題を持ち、川の水の汚れや水の行方について地図や資料で調べたり、現地調査を行ったりする。さらに資料やインタビューなどにより、川の歴史や生き物、町の人たちとの関わりについても調べる。それらのことをもとに話し合い発表会を行う。そうした活動を通して川を汚さないためにはどうしたらよいかを考え、自ら実践していこうとする態度を育成する。
183121033	1	3121	「北上川博士になろう」川と暮らしのかかわりを調べ自然環境を守ろう	登米市立米谷小学校	学校長	三浦 誠幸	宮城県	北上川、大開川での川遊び・水質検査や鮭の飼育観察と放流、治水施設の見学などの体験や浄化施設の調べ学習を通して、川と私たちの生活のかかわりに気付かせ、自然環境を守ろうとする心を育む活動を行う。全校児童、保護者・地域への発表を行うと共に、インターネットを通じて活動の様子を発信する。
183121034	1	3121	総合すみよし「北上川ウォッチング」	石巻市立住吉小学校	校長	阿部 邦英	宮城県	地域を流れる北上川を取り上げて、川と地域の人々の生活のかかわりや自然環境を見つめ直し、北上川が地域の宝物であることが実感できるようにする。
183121035	1	3121	地域の自然を愛する児童の育成～河川愛護活動を通して～(5・6年総合的な学習)	松山町立下伊場野小学校	校長	平井 節子	宮城県	これまで、サケの稚魚放流や河川敷の清掃活動、河川敷や学校花壇の花の苗植え、鳴瀬川の水質検査などを行いながら、児童の河川愛護や自然保全の心情の育成を図ってきた。そして、それらの体験活動を通して、児童に、自ら学び自ら考える力、学び方やものの考え方等を身につけるといった「生きる力」を育成してきた。これからの活動を継続することで、自然保全の心情やさらなる生きる力の育成を図りたい。

平成18年度 新規採択一覧(24/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121036	1	3121	面瀬川に生息する魚を調査する活動を通して、環境との関わりを深める活動	気仙沼市立面瀬小学校	校長	菊地 敏郎	宮城県	学区内を流れる面瀬川とそこに棲む魚や水生生物の観察や飼育活動を通して、魚や水生生物の棲みややすい環境について考えを深めると共に、自分たち人間との関わりについても環境の維持や存続の面から考えを深めさせていく。さらに、アメリカの小学校とのインターネット回線を使ったテレビ会議を実施しながら、互いの水辺環境の共通点や相違点について話し合い国際的な環境に対する認識を深めさせる。
183121037	1	3121	「見つめよう田川の水」	宮城県加美郡加美町立賀美石小学校	校長	南部 正一郎	宮城県	平成12年度より、第4学年の総合的な学習の時間において「見つめよう田川の水」のテーマで、ふるさとにある身近な自然「第1級河川鳴瀬川水系田川」の学習に取り組んでいる。源流体験、浄水場の見学、水質調査(源流・中流・下流)、堰の見学等の活動を行っている。昨年度からは、生き物調査や下流見学(海への出口)も加えており、器具や資料収集、講師招聘を行い、更に充実した活動にするため、助成を申請したい。
183121038	1	3121	塩竈市における陸水(地下水含む)と水資源についての学習	宮城県塩竈高等学校	校長	小野 秀壽	宮城県	塩竈市は奈良時代より東北の玄関港として栄えてきたが、戦前までは慢性的な水不足に悩まされていた。しかし現在は水道が完備され、水不足の話も生徒たちにはなかなか実感できない。そこで唯一の河川である蔵川の水系と学校周辺に多く残されている家庭井戸の調査から、江戸期の水事情を推測させ塩竈の陸水を科学的な側面から理解させる事を目的とする。一つの水系の多面的理解が広域的な河川保全につながることを期待している。
183121039	1	3121	「皿貝川たんけん」(4年;総合的学習)「北上川のうつりかわり」(総合的学習, 4年社会科)	石巻市立飯野川第二小学校	校長	高橋 信夫	宮城県	総合的学習で皿貝川にすむ生き物や地下水、水源としての林の状況などを調べ、自然環境について考えさせるとともに、社会科との関連で北上川の水利用や改修の歴史について調べる。北上川の改修の歴史では、北上川下流河川事務所(飯野川出張所)や北上大?、北上川分流施設を見学するとともに、北上川(柳津～飯野川間)をつくった理由についても考えさせる。また、歴史を溯り川村孫兵衛の河川改修についても学ばせる。
183121040	1	3121	「雄物川全校筏下り2006」	秋田市立雄和中学校	校長	進藤 久志	秋田県	全生徒および教職員・保護者が6台の筏に乗り、学区内を流れる雄物川を20km下る活動。ふるさとの自然を見つめ直し、環境保護・河川愛護の心情を養うことを目的とする。
183121041	1	3121	ふるさとと川との出会い	北秋田市鷹巣東小学校	校長	河田 罔彦	秋田県	米代川沿いにある鷹巣東小学校の子どもたちを対象に、河川の自然や環境、川のみかさ、川の恐さなどを学ぶために「ふるさとと川との出会い」のテーマを設定し、手作りいかだで川下りや魚のつかみ取りをしたり、米代川に生息する生き物や川辺の植物などの調査や水質検査などをしたりすることで、豊かな感性を育み環境の保全につとめる態度を養う。また、自分達の学んだことをもとに、情報発信活動をしたり、他の環境問題などを調べたりして学習の輪を広げる。
183121042	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	由利本荘市立新山小学校	校長	川村 真人	秋田県	4年生が子吉川を活動の場所として、「みつめよう子吉川」というテーマで、カヌー体験やアクアバルでの子吉川についての学習を進める。その後、個人テーマを設定して、子吉川の上流や鳥海山まで出かけ、それぞれの課題を解決する学習を進める。テーマによって、上流・中流・下流の比較、水質調査・河川の護岸工事等災害対策・子吉川の動植物など、自然観察保護員等の協力を得て、自然環境へも目を向けた学習を進める。
183121043	1	3121	ふるさと最上町と川の結びつきを調べる	山形県最上町立月楯小学校	校長	高山 英男	山形県	町を流れる川をテーマにして、人々とのコミュニケーションを通して、「川と町の人々の結びつき」を明らかにしていく。コミュニケートするためのアンケートや資料づくりができることをねらいとして指導し、資料の作成を重点にする。子どもなりにわかりやすくまとめたプリントを学区の人々や保護者に読んでもらい、感想をもらいながら課題意識を深める学習をする。
183121044	1	3121	ぼくたちの温海川～あそび・学び・守る～	山形県鶴岡市立温海小学校	校長	長谷川 芳男	山形県	毎年第4学年が、学校の側を流れる川の学習に取り組んできた。18年度からは、川遊びをする中で、発見、気付きをさらに追求させたいと考えている。川遊び(水遊び、つり、魚つかまえ、生き物調べ)飼育から、魚道調査、生き物の四季の変化、水質調査、海と川との関係まで調べ、生き物カルタ作り、マップ作りでまとめたり、地域に発信する。また、これらの活動から、ふるさとと川を大切にすることを育て、地域の人と環境保全活動に取り組む。

平成18年度 新規採択一覧(25/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121045	1	3121	「八向地区内」河川の環境を守る活動	山形県新庄市立八向中学校	校長	安達 洋一	山形県	総合的な学習を中心に、川の汚れの現状を知るとともに、生徒が企画した河川清掃・ゴミ拾い等に地域住民の参加をお願いし、生まれ育った八向地区の河川の環境を地区全体で守っていこうとする意欲を育てていく。河川の水質を知るために水質調査を行い、さらに川に親しむために、地域の味覚を楽しみながら自然を満喫し、山と川を楽しむ活動として、山菜採り、筍・キノコ・芋煮会を企画する。さらに全校生徒・卒業生・PTA・地区住民による「最上川舟歌」合唱や伝統芸能「最上川・清流太鼓」の演奏活動、「最上川俳句大会」への参加、
183121046	1	3121	第6学年総合学習「命あふれる西通川にしたい」	遊佐町立西遊佐小学校	校長	佐藤 光子	山形県	学校の近くを流れる西通川で川遊びをしたり、生き物の調査をしたり、地域の人たちと一緒に泥上げ作業をしたりする中で自ら課題を見つけ、その解決に向けて取り組み、その成果や課題を地域に発信していく活動に取り組む。例年「西通川で、もっともたくさんの生き物が育ってほしい」という、先輩たちからつながる子どもたちの願いの実現に取り組んでいる。
183121047	1	3121	小学校第6学年総合学習『小牧川のホタルを呼び戻そう』	酒田市立松原小学校	校長	那須 栄一	山形県	小牧川は、数年前まで『山形県で最も汚れた川』だった。しかし住民の熱心な活動により、豊かな生態系を取り戻しつつある。本事業はこの川をフィールドにして展開する第6学年の総合学習である。前学年での総合学習の活動を深化・発展させ、ホタルを呼び戻すための方策を試行錯誤する。川の構造や周囲の環境をどうすればホタルが繁殖できるかを、水槽や池をモデルにしながら研究し、実際の川の改修工事にも参画していく。
183121048	1	3121	角川の水質調査と環境保全	山形県戸沢村角川中学校	校長	佐藤 洋一	山形県	戸沢村でも山間に位置する角川地区は、自然が豊かである。角川は、季節ごとに釣り人も多く訪れるが、魚がつかない、川が変わった(においなど)という意見が聞こえるようになった。そこで自分たちの住む地区の河川に興味を持ち、水質調査や水生生物の調査をすることにした。ちょうどその調査も10年目の区切りの年であり、調査結果から発信できることを様々な方法で他に知らせる活動を行い、環境保全活動を行う。
183121049	1	3121	豊かな感性と地域を愛する心を育てる総合的な学習～白川における四季を通じた体験活動を通して～	最上町東法田小学校	校長	神谷 恒司	山形県	最上町立東法田小の全校児童29名が「総合的な学習の時間」に学校の西側を流れる白川をテーマに年間を通して活動を行う。年間を通して、水質、生物調査を行うとともに、季節に応じて変化に富んだ活動を行っていく。又、体験したことについては、文化祭や授業参観等を利用して、発表会を開催し、自分たちの学びの成果を保護者や地域に伝えていくようにする。
183121050	1	3121	久慈川源流から久慈川河口までの水質(源流域に住む私たちにできること)	矢祭町立内川小学校	校長	吉田 政弘	福島県	本校は、八溝山系に位置し、学区内には八溝山登山口もある。すぐ脇を流れる矢祭川は、八溝山を源流とし、久慈川の支流でもある。その合流地点も学区内にあり、矢祭川も久慈川も子どもたちにとっては馴染みの深い川である。3年前から、高学年児童が矢祭川と久慈川の水質調査を始めた。平成17年度で3年間の結果が累積され、流域で生活する人口や下水道完備の割合に目を向けるなど考察を加えている。また、調査結果から、自分たちの学校脇を流れる矢祭川の水質がどれほど素晴らしいものであるかを実感し、いかにしてその水
183121051	1	3121	身近な河川の自然や歴史の触れ、「平野の水」について学ぶ体験学習の推進	福島市立平野小学校	校長	鵜沼 秀雅	福島県	4年生の総合的な学習の時間に、「平野の水」というテーマで近くの「八反田川」や「小川」に出かけ、河の様子を調べたり水質調査を行ったりする。そして、前年度の結果と比較して、身近な環境を見つめ直す。また、「摺上川ダム」や浄水場の見学、地域の「井の目堰」の調査による体験活動を通し、平野の地域の人々と川及び、水の関わりを学ばせる。
183121052	1	3121	ピオトープ作りを通じて、五行川の自然を調べる。	筑西市立下館北中学校	校長	枝川 健	茨城県	総合的な学習の時間・選択理科の時間を使って、五行川とその周辺に生息する動物・植物及び水質等を調べると共に、学校の中及び学校の土手と五行川に隣接する休耕田を活用して、ピオトープを作り、魚類・水生昆虫・トンボ・水草等の生態研究をおこなう。また、五行川周辺に生息する動物・植物の生態を紹介するガイドブックを作成して、自然保護活動にも活用したい。
183121053	1	3121	里川の自然にふれあい、いのちの源となる里川の環境を保全する活動	茨城県常陸太田市立機初小学校	校長	森 一史	茨城県	学校の近くを流れる里川にふれあい、川を汚しているゴミの調査、浄水場の見学、鮭の飼育や里川クリーン活動等の自然体験活動を通して、里川と人の生活との関わりを知り、課題解決活動で探求したところをまとめ、相互に情報を交換し合い、環境保全や自然の保護に向けた活動に参画し、自ら活動しつつ学ぶ社会的環境参画型学習に取り組むことで、里川に生き物が棲める自然環境を守っていこうとする態度を育てる。

平成18年度 新規採択一覧(26/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121054	1	3121	沢田湧水地、沢田川の保護活動	茨城ひたちなか市立阿字ヶ浦中学校	学校長	川又 淨範	茨城県	沢田湧水地には、希少な動植物がいるが乾燥化が進みその生息が心配される。沢田湧水地の植生調査や湧水量調査、沢田川の水質調査等を行い、沢田湧水地の現状を知ってもらい希少な動植物の保護を広く訴えていく。また、理科室にアクアリウム等の施設を作り、そこで希少動物である「ホトケドジョウ」に生態観察及び繁殖の調査・研究を行う。
183121055	1	3121	渡良瀬川と思川をつなぐ水質調査と水生生物観察の開催	古河市立古河第五小学校	校長	吉澤 貴美子	茨城県	昭和60年から身近な河川を清掃したり、様々な調査活動を続けてきた。また、これらがきっかけで上流にある小学校と姉妹校関係を結び交流学習を行い、総合的学習の一層の充実を図ってきた。これまでは、身近な河川の調査をただけであったが、今後上流域まで調査範囲を広げて、身近な川では見られない水生生物や流域の動植物の調査を中心に、今までとは異なる角度から河川に触れることを目的とする。
183121056	1	3121	学校周辺を流れる二つの川の水質調査	茨城県坂東市立飯島小学校	校長	木村 榮孝	茨城県	総合的な学習に時間に、環境分野として、地域の環境や日本の環境問題に目を向けて調べている。学校周辺を流れる飯沼川と西仁連川の水質を調べることにより、地域の環境について考えたい。
183121057	1	3121	栃木県宇都宮市立城東小学校	栃木県宇都宮市立城東小学校	校長	須見 恵子	栃木県	本校の4年～6年の総合的な学習の時間に環境問題をテーマにした調べ学習が各学年30時間ほど位置づけられています。4年は社会科の「きれいな水はどこからくるの。」の発展学習として環境問題に関心をもち川の調べ学習を行います。5年はさらに雨水や河川の水質調査をしたり空気の流れまで発展した調べ学習を行い6年で地球の環境こともサミットを開くというように、4年～6年をとおして環境問題の現状・原因・解決策について学びます。助成金が受けられればさらに資料も教材も充実できると思われまます。
183121058	1	3121	那珂川における、川に親しみ河川浄化を目指す活動	茂木町立中川中学校	校長	坂本 洋子	栃木県	本校第2学年が、学区内で流れる那珂川および支流の動植物等の観察や継続的な水質調査を行うとともに、全校生徒による河川敷清掃を年間3回実施することで、河川浄化を目指す環境教育に取り組む。また、立て看板の作成を行い、河川敷に設置する。さらに、ポスターやチラシをつくり、地域の住民にも配布することによって、那珂川の浄化の意識を高めてもらう。
183121059	1	3121	渡良瀬川体験学習	群馬県邑楽郡邑楽町立高島小学校	校長	松沢 義文	群馬県	4年生は四季を通じ中流域太田市の河川・河川林で川渡り、川流れ、動植物観察、水生生物探し、バードウォッチング、造形、ジャングル活動を行い季節の変遷も体験する。5年生は上流足尾町の川と下流利根川との合流点古河市で、6年は足尾町備前橋山登山、自然復旧・旧松木村見学や渡良瀬遊水地での諸活動などを行う。それを通し、川の豊かな恩恵を実感させ支援者への感謝の気持ちを育む。
183121060	1	3121	総合的な学習「黒川の環境」を通じて、川と人とのつながりを学ぶ活動	桐生市立菱小学校	校長	周東 志津子	群馬県	5年生の総合的な学習「黒川の環境」を通じて、川や地域の自然環境の大切さと、桐生市に災害をもたらした過去の洪水を知る。そして、自然の恵みと災いを自ら捉え、川と人とのつながりの大切さを学んだ後、将来に向けて何をすべきかを考え、実行する。
183121061	1	3121	多目的遊水池(総合治水対策事業)周辺からの環境(自然・エネルギー)教育に取り組む学校	埼玉県さいたま市立春野小学校	校長	野口 一夫	埼玉県	本校の地域には、多目的遊水池事業制度が全国で最初に採択された「総合治水対策事業」としての「深作遊水池」がある。ここにはカワセミ等の野鳥、昆虫や魚類、低湿地の植物が安住できるビオトープが存在する。しかし近年釣り人が増え、またゴミの投棄により環境問題がクローズアップされた。野鳥観察会、河川・池の水質、小動物の生息調査とともに、様々な環境問題を総合的に考え、その成果を全国に向けて発信・啓発していく。
183121062	1	3121	河川模型ビオトープを利用した河川の理解促進を目指す活動	松戸市立牧野原小学校	校長	石塚 智子	千葉県	河川模型やビオトープを利用し、川の働きや水辺の環境に対する理解を深めるとともに、整備活動を通して人間がすべての生物にとって河川環境が大切であることを学ばせる環境教育に取り組む

平成18年度 新規採択一覧(27/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121063	1	3121	多摩川における「川に学び、遊び、奉仕する活動」	大田区立嶺町小学校	大田区立	竹村 伸二	東京都	学校と隣接する多摩川及び河川敷を利用しての活動は、5年目になる。子どもたちは多摩川を含めた自然に対し、自然の大切さを知り、保全するための意識を徐々に高めつつある。さらにこの活動を続けることによって、子どもの環境保全に対する意識を高め、子どもとしてできる実践力を培っていく。
183121064	1	3121	荒川の下流としての川の働きや河川の動植物を調べる。クリーン活動も同時に行ない、荒川への愛着心を育てる。	足立区立鹿浜西小学校	校長	古高 利男	東京都	2年国語「サケが大きくなるまで」の発展学習として、サケの稚魚を荒川へ放流しに行く。その活動を通じて、川とサケのつながりの理解を深め、川の恵みをたくさんもらって生活している人々に気づかせる。5年理科「流れる水のはたらき」の発展学習として、荒川の働き・河川敷の動植物の調査・ゴミ拾い作業を行ない、川と人との関わりについて理解を深め、実践的態度を養う。
183121065	1	3121	学校周辺にある小川保全活動のための環境教育と環境調査	昭島市立多摩辺中学校	校長	田中 久男	東京都	学校周辺にはホタルが住む小川があるが、ゴミの投棄が後を絶たない。そこで科学部を中心として、学校周辺の小川の環境を保護するため、毎月清掃活動を行っている。この小川の環境評価を行うため、機材等を購入して環境調査を行いたい、また校内に小川の環境や生態系を知るためにホタルや淡水魚の飼育を中心とした室内ビオトープを作り、環境教育に役立てている。この室内ビオトープの維持と管理のために費用が必要である。
183121066	1	3121	もっと知ろう！楽しもう！浅川	八王子市立榎原小学校	校長	徳満 哲夫	東京都	学区域にある浅川をフィールドとして、浅川に棲息する水生生物、飛来する水鳥、河川周りの植物、等を調査する活動を実施する。調査したことは「榎原再発見」としてまとめる。また、学習したことを低学年児童へ伝えるための発表会も計画する。これらの活動を通して、地域の自然環境に親しみ愛着を持つことによって、自分たちが身近にある浅川を大切にしようとする気持を育てる。
183121067	1	3121	豊かな心を育てる総合学習「プロジェクト多摩川」～多摩川での総合学習・第4学年～	多摩市立連光寺小学校	学校長	藤井 香代子	東京都	本校の教育活動の大きな柱の一つに「地域の人・自然との関わりを通して、豊かな心をはぐくむ学習活動」を掲げている。その一環として、4年次の総合学習では「多摩川とかかわる活動」を通して豊かな心をはぐくむ学習に取り組んでいる。現代のこどもに欠けがちな自然の中での実体験を重ねて五感の発達を促し、また多摩川にかかわる地域の方々に出会い地域社会とのつながりを深めて子どもたちの心を育てていくことを目指す。
183121068	1	3121	浅川、今・むかし	八王子市立榎原小学校	校長	徳満 哲夫	東京都	6年理科単元「土地のつくり」の発展学習として、学区域内にある「浅川」を題材として、地域の土地状況を総合的な学習単元として設定した。近隣清川地区で化石が発見されていることから、児童への興味関心も高いと判断される。さらに現在の状況を把握するため水質調査を組み込むことによって、身近な浅川により親しませたい。
183121069	1	3121	多摩川探検を通して、川に親しみ自然理解を目指す活動	府中市立本宿小学校	校長	酒井 孝裕	東京都	川について調査したい課題(例 川・石・植物・鳥・魚・虫等)を決め、実際に川に行きゲストティーチャーとともに川から学ぶ。身近な地域の自然を知り、分かったことや自分で調べたことをまとめ、保護者・地域の方に伝えていく。
183121070	1	3121	「総合的な学習の時間」における鶴見川を題材とした活動	横浜市立荏田西小学校	学校長	澁谷 昌道	神奈川県	学区近くに流れる鶴見川を「総合的な学習の時間」の題材として活動する。川の生き物調査や水質検査をしたり、川とかかわるボランティアの人々に接し、生き方を学んだりする活動を通して、川を身近に感じ自然を大切に子どもたちを育成したい。また、調べたことを全校の子どもたちや保護者地域の人たちに伝えていく。
183121071	1	3121	総合的な学習の時間において、児童が地域への関心や理解を深めるための河川の観察や愛護活動	横浜市立みたま台小学校	校長	丸本 茂樹	神奈川県	鶴見川「市ヶ尾水辺の広場」で、生物観察、水質調査などを実施する。また、「いかに遊ぶ？谷本川」、「クリーンアップ作戦」など、地域の市民団体等による活動に参加し、地域の一員として河川の愛護活動を体験する。さらに、源流や河口にも視野を広げ、学んだ事を地域の方々や下級生に発信する。

平成18年度 新規採択一覧(28/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121072	1	3121	大武川の自然を中心とした総合的な学習の推進	北杜市立武川小学校	校長	岡部 和子	山梨県	本校の子ども達には大変身近な大武川及びその周辺の自然(地形地質、植生、水生生物他)を教材として、現地に出かけ、実体験を通した学習及び学習指導や方法の工夫を図ることで、頼主体的、意欲的に課題に取り組む児童の育成と河川を中心とした自然保護活動を推進する総合的な学習の展開を図る。また、地域の方々に講師をお願いしたり、学校の情報発信を図ることで、より地域に開かれた学校づくりの推進を図る。
183121073	1	3121	わたしたちのくらしと笛吹川	山梨市立加納岩小学校	校長	小笠原 浩	山梨県	わたしたちの故郷の河川、笛吹川を素材として、水の汚れ、ゴミ調べ、どんな生物がすんでいるのかを調べる活動などを通して、身近な環境問題をとらえる。また、ダムへの働きや利用、上流、ちゅうりゅう、下流の石の形の違い、流れのようすの違い等、幅広く取り組み課題を明らかにして解決への道すじを立てたい。
183121074	1	3121	環境むかし・いま・そして…	山梨市立日下部小学校	校長	丸山 森人	山梨県	総合的な学習の時間の中で、環境教育の一環として、地域を流れる河川の自然や環境などについて調べ、きれいな川や美しい環境に興味関心を持たせる。ふるさと山梨をよりよくするための自主的活動に気づかせ、美しい環境をいつまでも守っていこうとする態度を育てる。具体的内容として、河川の観察、調査、自主的活動計画、及び実施。
183121075	1	3121	地域の河川に親しみ、環境問題や水防を考える活動	山梨市立日川小学校	校長	名取 源文	山梨県	総合的な学習の時間の中で、環境教育の一環として、地域を流れる日川と重川の自然や環境などについて調べ、よりよい環境を築いていこうとする態度を育てる。また、地域の水害の歴史について調べよりよい暮らしを築こうと努力してきた人々の歩みを知り、今後の自分の生活に生かしていくことができるような態度を育てる。
183121076	1	3121	われら水探検隊	山梨市立牧丘第二小学校	校長	武井 今朝英	山梨県	第4学年「総合的な学習の時間」における環境教育の一環として、単元学習「われら水探検隊」の中で、身近な河川の自然や環境に関心を持たせ、社会科「健康なくらしとまちづくり」と理科「水のすがたとゆくえ」の学習と関連づけながら、河川の観察や調査などの体験をもとに自然環境を守りよりよくするための自主的活動に気づかせ、ふるさとを大切にする実践的な態度を育てる。また、学んだことを家庭や地域の人々に発信する。
183121077	1	3121	「鼓川探検」における子どもたちの体験活動の推進	山梨市立牧丘第三小学校	校長	小野 徹	山梨県	牧丘第三小学校では、全校児童を対象に、鼓川の水质検査や川に生息する生物の調査、周囲の自然観察とともに、川のごみ拾いなどの環境保護活動を実施している。事前・事後学習や体験を通してわかったことについては、総合的な学習の中で発表の機会を設けていく予定である。遠足など校外学習時にも、河川や水に関する学習を積極的に取り組んでいきたい。
183121078	1	3121	中城沢ほたるの里づくり	丸子町立丸子北中学校	校長	小林 良二	長野県	公民館分館長と区長を講師に迎え、地域住民の方を協力して中城沢川にホテルの住みやすい環境づくりをしています。植樹・観察会・水質調査・環境保全活動などを行っています。消耗品が地域講師の方の援助が中心であり、グループごとの活動にも師匠をきかしています。現在の状況を正確に把握するため、今後に残すデータの蓄積のためにも、書籍や消耗品を整えたいと考えています。
183121079	1	3121	学区周辺を流れる松川・久米川・阿知川における川原の石の教材化―「マグマの性質の違いによるいろいろな火成岩のでき方」の展開―	飯田市立旭ヶ丘中学校	校長	手塚 恒人	長野県	中学校理科第二分野に「火をふく大地」がある。火山、火成岩、造岩鉱物などを学習させる単元である。本校の学区周辺には火山はないが、3つの河川には3種類の深成岩と3種類の火山岩が岩脈状に露出する。3種類の火山地形の写真とそれらに対応するマグマからできる深成岩(3種類)、火山岩(3種類)、造岩鉱物を野外実習、教師の自作視聴覚教材等によって系統的に学習させることにより、理解を深めさせようとする実践計画である。
183121080	1	3121	美しい郷土きれいな諏訪湖づくり	諏訪市立上諏訪中学校	校長	赤羽 健次	長野県	諏訪湖浄化の活動を通して、自然愛護と環境教育の実践を地域住民と共に推進し、きれいな諏訪湖づくりをする。地域の諸団体と協力して清掃活動をより一層推進するとともに、地域の教育会とも連携して諏訪湖に生息する魚や植物の調査活動を充実させ、人と湖との関わりを深めつつ豊かな人間性を培う。

平成18年度 新規採択一覧(29/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121081	1	3121	学級チャレンジ「天竜川を中心とした学びの発展」	箕輪町立箕輪中学校	学校長	春日 民毅	長野県	総合的な学習に時間において、天竜川を学習の中心に据え、自然環境・産業・歴史などの分野で、天竜川と箕輪町や上伊那地域との関わり、またそこに携わる人にふれ、調査体験活動をととして自分の価値観や視野を広げるとともに、河川の役割を実感させていく。
183121082	1	3121	ふるさと荒川青空教室	荒川町立金屋小学校	校長	西片 哲也	新潟県	当校児童を対象に、ふるさとを流れる荒川とその周辺の自然のよさを体感し、自然への関心を深めるために当事業を開催する。内容としては、水生生物の観察、水辺の植物の観察、水質調査、クリーン作戦、等を実施する。体験したことについては、児童が学んだことを学年ごとに校内新聞にまとめ、文化祭時に地域の方々に発信する。また、学校のホームページを通じて活動の様子を発信する。
183121083	1	3121	総合的な学習の時間における河川を題材とした活動第5学年「知ろう姫川探ろうふるさとの川」	糸魚川市立大野小学校	校長	桐山 路子	新潟県	大野小学校5年生では、地域に流れる三本の川(姫川・下大野川・濁澄川)を題材に総合学習を進めています。子ども達の活動として、姫川の役割を考える時間・水質調査・姫川源流を探る活動・川とふれあいタイム・砂防施設の見学・火力発電所見学・水害と水害を防ぐ工夫について学ぶ時間・地域の川探検などを実施する。活動のまとめとして、学校活動の中で、自分たちの学んだことを地域の方々に発信していく。
183121084	1	3121	「桜尾小周辺の河川」における、子どもたちの川に学ぶ体験活動の推進。	山県市立桜尾小学校	校長	木村 善美	岐阜県	山県市のくらしと水環境とのかかわりを調べることにより、身近な水環境を守るための方法を考える。①水生生物調査(カワゲラウオッチング)②河川の健康調べ(バックテストCOD、pH)③水鳥調査④河川の清掃川の自然や生物・環境を守る気持ち育てるとともに、自分達の体験活動の発表会を行い、子どもから地域の人々に対し、河川環境を守ることの大切さを伝える。
183121085	1	3121	神通川水系、源流の宮小学校と河口の岩瀬小学校との交流体験学習の推進と河川を通しての地域理解	高山市立宮小学校	校長	田口 力三	岐阜県	5年生児童は神通川河口の学校(富山市立岩瀬小学校)と、神通川を通して交流学習を行っている。河川の源流地、一之宮地区での暮らし、河川の様子(保全としての森林、護岸、水害の歴史)を岩瀬小学校児童へ紹介する。また、水質検査を行ったり、河川の歴史や役割を学習したりしたことを冊子にしてまとめ、地域や他校へ広めていく。
183121086	1	3121	長良川調査隊「長良川の水をさぐれ」	海津町立東江小学校	校長	河合 鋭夫	岐阜県	学校付近の長良川の水質を源流付近と比較する中で、河川が汚れる原因を探る。その結果を学校のホームページで紹介したり、長良川水域の小学校と学校間総合ネット等を活用して交流を図ったりしながら、河川浄化や環境へ関心を高める。平成18年度は、上流、中流の小学校と海津市内の小学校の児童を集め、長良川サミットを開催する。
183121087	1	3121	佐鳴湖の環境について考えよう	浜松市立入野小学校	校長	池谷 耕治	静岡県	学区にある佐鳴湖について、総合的な学習の時間を通じた環境に対する追求学習を実施する。湖の中では、日本一汚れていると言われる佐鳴湖について、水質・ごみ・生物をテーマに、現状の環境について調べたり、水の浄化対策や浄化設備、環境団体の活動について知ったり体験させてもらったりする。
183121088	1	3121	大見川の自然のすばらしさを体験し、河川を愛護する気持ちを育む活動	伊豆市立大見小学校	校長	梅原 よし江	静岡県	大見川の自然に親しむ体験活動を通して、大見川の自然のすばらしさを体で感じ取り、河川を愛護する気持ちを育てる。内容としては、釣り体験・水生生物観察会・柿田川見学・狩野川資料館見学等を実施する。合わせて、河川に関係したテーマを調べ追求する活動をしていく。
183121089	1	3121	藁科川の自然に親しみ、そのよさに気づき、その環境を守る活動	静岡市立中藁科小学校	校長	山下 雅也	静岡県	地域を流れる藁科川に関する様々な活動を通して、藁科川の自然に親しみ、そのよさや大切さ、そして現状に気づく。さらに、ふるさとの河川の環境を守るための方策を地域と考え、美しいふるさとの川「藁科川」を守り、それを後輩にも伝えていけるような取り組みをする。

平成18年度 新規採択一覧(30/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121090	1	3121	「総合的な学習の時間」における「アマゴ」に関する総合的な研究—人工授精から放流に至る活動を通しての総合的な環境教育—	静岡市立大河内中学校	校長	市川 重男	静岡県	本校では、2002年度より「総合的な学習の時間」を開始するに当たり、従来より伝統として行ってきた勤労生産活動(茶の栽培、山葵の栽培、アマゴの育成)を授業の一貫として位置付け、本格的な研究として取り組んできた。特にアマゴの育成は、人工授精から放流までを一つのサイクルとして行っているが、その活動を通して川と人々とのかかわりを関係を研究する格好の材料となっている。しかし、年々生徒数が減少する中で活動の維持は難しく、施設の管理にも費用がかさむため、助成金の申請を行いたいと考えた。
183121091	1	3121	安倍川の砂防を考える	静岡県立静岡農業高等学校	校長	芳川 孝	静岡県	生徒が安倍川上流大谷崩れで砂防体験学習(山腹工)を行う。具体的には、大谷崩れの山腹に自生樹木であるヤシヤブシの苗木(2年生)を再生紙鉢を用いて、現地に植栽し(年間170本)、安倍川の土石流防止に貢献する。なお、授業には静岡大学や国土交通省の職員を講師として招き、砂防工学について学ぶ。学校祭では、生徒が講師となり、来場者に再生紙鉢を作成する体験学習を実施し、河川の水災害防止の意義を伝える。
183121092	1	3121	見つめよう・守ろう、ぼくたちわたしたちの逢妻川	刈谷市立かりがね小学校	校長	角岡 佳允	愛知県	子どもたちに学区を流れる逢妻川の良さを気づかせるために、調べ学習を行わせる。興味・関心を示すものから始め、地域の専門家と保全ボランティア(逢妻会)の協力を得ながら推進する。そして、子どもたちにできる保全・啓発活動を推進する。また、良さを守る活動を通して、環境の保全に積極的にかかわる態度を育成する。
183121093	1	3121	アマゴのはねる巴川づくり	愛知県新城市協和小学校	校長	杉浦 徹	愛知県	学校近くを流れる巴川に関わる学習活動を全学年で展開することで、河川環境への関心を深めるとともに、故郷の清流を守り育てようとする意欲を高めた。特に、総合的な学習の時間等を活用したアマゴの養殖・放流や水生生物の調査を中心的な活動とする。また、地域と一体化した河川環境保全活動を平成14年度から継承した。発展させていきたい。
183121094	1	3121	総合的な学習「みんなの豊川～流域はひとつ～」における子どもたちの川に学ぶ体験活動の推進と3校合同報告交流会における交流事業の推進	豊橋市立大村小学校	校長	尾崎 安貞	愛知県	総合的な学習「みんなの豊川～流域はひとつ～」において、なかよし遠足、水防訓練、水生生物・水質調査を実施する。その結果をもとに、設楽町立清嶺小学校、新城市立舟着小学校、豊橋市立大村小学校の3校で、3校合同報告交流会を複数回開催し、調査結果や自分たちの取り組みを報告するとともに、上流から下流までのさまざまな体験活動(水生生物・水質調査、三河湾の浄化、下水処理場、ダム、頭首工、森林学習)を推進する。
183121095	1	3121	「水とわたしたち」をテーマにする総合的な学習における生徒の体験活動の推進	東海市上野中学校	校長	石田 孝	愛知県	「水とわたしたち」2年生約120名を対象に、地元の河川の水質・生物調査、知多半島を流れる愛知用水の水源の1つである長良川河口堰での調査活動、堀川の浄化活動に取り組む市民団体を訪れての学習会などを実施する。体験したことや学んだことを4～5人のグループごとに工夫してまとめ、学校祭で発表し、他学年の生徒や地域の発信する。
183121096	1	3121	「川がきになろう-ひえだ川となかよくしよう-」(総合的な学習の時間)ひえだ川とふれあう活動、ひえだ川に学ぶ活動、ひえだ川から考える活動	愛知県高浜市立高取小学校	校長	榊原 英司	愛知県	学校の南を流れる稗田川。子供たちは毎日その土手を通って登校しているにもかかわらず、その自然にあまり関心がなかった。土手や川の中にゴミが落ちていても、捨ったり片付けたりすることはなかった。稗田川は子供たちにとって、もっとも身近な自然であり、環境について考える機会を与えてくれる。川と親しみ、自然の営みや歴史的な価値にふれ、川を思いやる豊かな心を育て、河川美化につながる環境教育に取り組む。
183121097	1	3121	3年総合学習「明德寺川の環境について考えよう」における生徒たちの川に学び地域にはたらかける体験活動の推進	愛知県知多郡東浦町立東浦中学校	校長	花房 功	愛知県	本校では、17年度有志生徒と教職員で「夢プラン実行委員会」を立ち上げ、夢プランとして、学校に隣接する明德寺川の環境整備を進めた。主な活動として、水質・生物調査(パンフレットにまとめ、11月に地域に配布)と河岸への彼岸花の球根植えを行った。18年度は、17年度の活動を継続すると共に、3年生総合学習で河川環境整備の条件等を調べ、何らかの形で地域に発信し、河川環境整備の意識を広げていきたいと考えている。
183121098	1	3121	守ろう自然ぼくたちわたしたちの森前川	刈谷市立双葉小学校	校長	藤井 孝	愛知県	本校では総合的な学習を「郷土を知り郷土に学ぶ」とし、地域素材を開発し活動している。4年生は毎年学区を流れる森前川を対象としている。森前川を探検すると、ゴミが散らかっていたり、わずかに水棲生物が生息していたり様々な体験をする。その後、森前川を「どうしたいか」を話し合い、本年度のテーマを決定する。もっと自然の森前川にしたいという子供の願いを生かし、森前川に積極的に関わり自然を大切にすることを育てたい。

平成18年度 新規採択一覧(31/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121099	1	3121	安倍川とその流域を対象とした横断的・総合的学習	静岡市立駒形小学校	校長	瀧井 繁和	静岡県	安倍川とその流域の動植物の生態、安倍川とその流域の水質・水生生物の生態等の環境、安倍川とその流域の歴史・産業、地域の人々の業績を対象にした、個人や小集団の課題に沿った調査・研究活動などの横断的・総合的な学習の時間で学習を実施する。
183121100	1	3121	「逢妻川にレッツゴー！」・・・逢妻川で遊び、逢妻川から学ぼう・・・	愛知県刈谷市富士松南小学校	校長	杉浦 渉	愛知県	4年生が総合的な学習の時間を活用して、逢妻川とその流域の環境についての体験を通じた追究活動をしている。逢妻川の魚や生き物、水の流れや水質、流域の動植物や自然状態などについて実地調査を行い、その結果を全校児童や地域の人々に発信している。学習後、逢妻川のゴミ拾いを自主的に行う児童がいる。この活動を日常的な逢妻川の保全活動に発展させていく。
183121101	1	3121	4年1組総合的な学習「未来にとどけぼくらの願いを」～川環境学習～	西尾市立米津小学校	米津小学	鴨下 和子	愛知県	4年総合的な学習「未来へとどけぼくらの願いを」のテーマのもと、矢作川の環境について学習する。川ウォッチング、水質パトロール隊、川探検、生き物つかみなどの活動を構想し実践する。学んだことを、環境新聞を作って発行したり、学校公開日にワークショップなどで情報発信をしていく。また、自然とのかかわりだけでなく、人とのかかわりとして、校区に住んでいる方に昔の矢作川の様子を取材し、矢作川の未来についても考えていく。
183121102	1	3121	4年2組総合的な学習「ふるさとの川の声を聞こう」～川環境学習～	西尾市立米津小学校	校長	鴨下 和子	愛知県	4年総合的な学習「ふるさとの川の声を聞こう」のテーマのもと、矢作川の環境について学習する。川の声を聞こう、上流の小学校との交流、川探検、生き物つかみなどの活動を構想し実践する。学んだことを、環境新聞を作って発行したり、学校公開日にワークショップなどで情報発信をしていく。また、自然とのかかわりだけでなく、人とのかかわりとして、上流の小学校との交流をしていくなかで、ともに矢作川の環境について考えていく。
183121103	1	3121	4年総合学習「生きる環境」― 一緒にふるさとの川をきれいにしよう―	東浦町立緒川小学校	校長	宮島 年夫	愛知県	小学校4年生児童を対象に、総合学習「環境」の中で、校区の河川の水質・生物調査、水質改善の体験に取り組みに環境教育を実施する。具体的には、河川での調査活動、EM(有用微生物群)を使ったヘドロ軽減作戦やゴミ拾い、知多半島の水生生物を守ろうの活動に取り組む。体験したことは、総合の発表会を開催し、学んだことを学校全体・保護者・地域の方々に発信する。
183121104	1	3121	ぼくらのふるさとープ(ピオトープ)の水の旅ー水はどこから来てどこへ行くのかなー(中学年総合的な学習の時間の取り組み)	岡崎市立秦梨小学校	校長	市川 松男	愛知県	中学年の総合的な学習の時間の取り組みである。学校林「にこにこ山」をめぐる活動を12年度から続けている。この活動の中から、沢水を引いた「ふるさとープ」が生まれ、この沢水がどこから来るのか、なぜずっと流れ続けているのか、そしてどこへどんな旅をするのかを子供たちは素朴な疑問として持った。学区には湧き水「清水弘法」や乙川もあり18年度の里山再生計画の一環として実践を進めていきたい。
183121105	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	熊野市立飛鳥小学校	校長	田垣内 始	三重県	総合的な学習の時間を中心として、学校のすぐそばを流れる大又川(熊野川の最上流に当たる)周辺の動植物、川の水質、地域の暮らし等、自然や生活について調べるとともに、魚釣りや川遊びを通して大又川を中心とした環境問題に関心を持たせ、生活排水の汚染状況に気づき、よごれを少なくすることや、川遊びをとおして大又川の美しさを実感し、ふるさとを大切にすることを育む。また、結果を地域に向かって発信していく。
183121106	1	3121	安楽川・鈴鹿川に親しみ、川への理解と保全の心を育む教育の推進	鈴鹿市立井田川小学校	学校長	中谷 幸義	三重県	小学校の近くを流れる鈴鹿川と安楽川を学習の場所として、全校児童が学年に応じて、水質検査・生物調査や河原での石遊び、川の流れの学習などを行うことにより、川の水環境に興味を抱かせ、川の楽しさを味わわせるとともに、川のすざさも学ばせる。また、この活動を通して、自然を大切にすることを育て、河川環境の愛護活動へとつなげたい。さらに、地域の人たちにも発信し、川の大切さを改めて考える機会づくりにしたい。
183121107	1	3121	平野小学校総合的な学習『ときめきタイム』5年生カリキュラム「私たちがとりまく環境～水・いのち～」	大津市立平野小学校	校長	中川 きよ美	滋賀県	本事業では学区から琵琶湖に流れ込む河川の観察を皮切りに、川遊び・環境調査(植生調査・プランクトン観察・パックテスト・水生昆虫観察・濁り調べ・流速調査)に加え、地域の歴史調べや「相模川を美しくする会」の方に話しを聞く等の活動に取り組ませる。その上で、河川の美化活動や琵琶湖での外来魚駆除等、水環境により良く働きかける実践力の育成する。活動は授業参観や通信等で保護者に知らせ、県民環境学習の集いで発表する。

平成18年度 新規採択一覧(32/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121108	1	3121	リバーフレンド(4年生総合的な学習の時間)	滋賀県大津市立藤尾小学校	校長	八木 平蔵	滋賀県	地域をなふあれる「藤尾川」「四宮川」の生物や環境を、専門家のアドバイスも受けながら、一年間を通して調査し、発表をする活動をする。その中で、河川に対する見方を養い、自らの生活を見直して、河川や自然を愛し、守ろうとする心を育てる。
183121109	1	3121	学校ビオトープから琵琶湖に流れ込む川の役割について調べよう	マキノ東小学校		前川 則彦	滋賀県	本校は琵琶湖に非常に近く、校門前を流れる中ノ川からカヌーで漕ぎ出たりしている。この中ノ川は本校の裏手で2つに分流し、それぞれ、ビオトープ西内沼とビオトープ奥田沼につながっている。総合的な学習の時間において、この中ノ川と二つのビオトープを切り口にし、生態系の調査や外来魚の稚魚の育ち方などを調べ、川の果たす役割や水辺の生き物環境への意識を高めるとともに、ふるさとの水環境を大切にしようとする態度を養う。
183121110	1	3121	真野川環境調査(1年生総合的な学習の時間)	大津市立真野中学校	校長	藤本 義隆	滋賀県	第1学年の生徒が、学区を流れる「真野川」を教材に、川を源流部・上流部・中流部下流部(河口)に分け、水質検査・生物調査・ゴミの収集・地域の人々からの聞き取りを実施する。事後学習では、生徒は調査・体験したことを整理し、発表会を実施する。発表会を通して、真野川の水質の保護が、琵琶湖の水質保護につながることを理解させ、河川を護るために自分自身が何ができるか考えさせる。
183121111	1	3121	川で遊び、川で学ぶ総合的な学習	京都宇治市立平盛小学校	校長	水口 宏志	京都府	本校の周囲には、宇治川、淀川、木津川という大きな川が流れている。なかでも木津川は徒歩で行ける距離である。今までも生活科や理科の学習において、断片的に、川を扱った授業を実施してきたが、今回、総合的な学習に位置づけることによって、存分に川で遊び、そこから生じた疑問を大事にししながら、私たちの暮らしと川について考えさせる活動を展開したい。また、昨年の実践から、木津川から良質な粘土が採取できることが分った。今年度も、粘土を使った実践で親子で体験する場を設定していきたいと考えている。
183121112	1	3121	「よみがえれわたしたちの離湖」大橋川と離湖の環境浄化活動の推進と故郷の自然を愛する心の育成	京丹後市立島津小学校	校長	東垣 茂男	京都府	校区には、京都府一の淡水湖の離湖があり、その浄化による環境保護が大きな課題となっている。地域の川や離湖を水生昆虫の採集やパックテストなどで水質調査等をして河川の汚れの実態をつかむとともに、地域ボランティア団体等と協力し河川浄化の実践を地域ぐるみで行う。これらの活動を通して、児童が故郷の美しい河川や湖に誇りをもち、自らの努力で自然を守ろうとする実践的な態度を育てながら、環境の保全を図る。
183121113	1	3121	総合的な学習の時間『淀川と私たち』(淀川と遊ぶⅡ)	大阪府立淀川工業高等学校校定時制の課程	校長	長谷川 耕三	大阪府	平成17年度は「総合的な学習の時間」において『淀川と遊ぶ』をテーマに淀川の歴史・環境・文化について、様々なアプローチを行った。平成18年度は、昨年度の各分野の成果を踏まえ、『淀川と私たち』をメインテーマとし、生徒の班別あるいは季節に応じてサブテーマを設定し、最終報告ではサブテーマを総合的にまとめ、地域を流れる淀川と人々の生活の深い関係を認識し、様々な視点から物事を考える力を見につけさせたい。
183121114	1	3121	進め「鴨川」探検隊	社町立鴨川小学校	校長	廣畑 貞一	兵庫県	校区を流れる鴨川で、全校生が遊び、学んでいく。その過程で、川の中には、サワガニやいろいろな魚、水生生物が、たくさんくらしていることに気づかせたい。とりわけ、夏には、地域の老人会の協力を得て、全校生で、鴨川に棲息する魚調査を実施したい。また、今回は専門家の指導を得て、水生生物や電気伝導度、パックテストで、川の汚れ調査を実施し、川の汚れに関心を高め、「もっときれいな鴨川にしたい」という気持ちで、河川環境浄化の活動につなげたい。
183121115	1	3121	オヤニラミが生息する夢前川上流の環境を調べ、そして、その環境のすばらしさを探究する総合的な学習の展開を図る。	夢前町立山之内小学校	校長	市村 陽子	兵庫県	山之内小学校3年・4年・5年・6年の児童を対象に、オヤニラミ(「レッドデータブック」希少淡水魚種)が生息する山之内小学校校区の夢前川流域の環境調査(生き物分布・水質調査など)・清掃活動・環境保全活動を地域の方や専門家の支援を得ながら総合的な学習の中で実施する。そして、学習の成果をもとに、校内で地域の環境についての意見発表会を開いたり、山之内の豊かな環境を地域をはじめ広く地域外に発信する。
183121116	1	3121	「葛城(かつらぎ)川をきれいにしよう！」～現状と今できること～	奈良県立御所工業高等学校	校長	小平 恵一	奈良県	我々の生活に最も深く関わっている葛城川が今どのような状態にあるのか？また、どうすれば河川がきれいになるのか？を全校生徒や職員に知っていただき、これから協力して環境保全に努めていきたいと考えています。そのためにはまず、昔の葛城川について調べることから始めたいと思っています。次に、5つの測定項目を調べて現状を把握したい。これらの活動については、全校生徒に対して成果を発信できればと考えています。

平成18年度 新規採択一覧(33/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121117	1	3121	吉野川探検を通して、学習課題を見つけ、川の大切さに気づき、啓発する活動	五條市立阿太小学校	学校長	北野 華城	奈良県	地域の吉野川の探検やカヌー体験(小学3年生以上)、源流の施設や浄水場、浄化センター、下流の大堰等の施設や設備、河川(吉野川やその支流)の観察を通して、自ら課題を見つけ、解決するための方途を探り、調査研究したことを全体で発表する機会を設け、保護者や地域の方々にも知ってもらおうとする意欲をもつ。また、主体的に環境保全等の啓発活動(年2回クリーン作戦、各月2回程度アルミ缶回収等)に全校体制で取り組む。
183121118	1	3121	ふるさとの川、砂田川を知り砂田川よさを広める活動	鳥取市立津ノ井小学校	校長	田中 精夫	鳥取県	4年生の総合的な学習時間に砂田川の流速や水質の特徴、そこに生きる生物について調べたり、川の歴史や環境問題について調べたりして、砂田川や河川に関心を持ち、環境を大切にする学習を行う。また、全校で河川保護に関心を持つための清掃活動を行う。これらの活動で学んだことを基に、保護者や地域に対して、ビラや広報誌を通してピーアールし、環境の大切さを広く訴える。
183121119	1	3121	川ウォッチ、不思議発見、私たちの暮らしを支える川に学び、環境を守ろう。	鳥取市立大正小学校	校長	前田 哲雄	鳥取県	大正小学校の4年生が中心になって、地域に流れる大井手用水がどのようにして作られたか、地域の田畑にどのように利用されてきたかを調べる。また、大井手用水で行われている親水体験にも参加するなどして川と関わりを持ち、用水で生育する水生昆虫などの生き物に興味関心を持って調査したりする。学んだことは、学習発表会や総合的な学習の交流会などの機会を利用して、地域の方に発信する。
183121120	1	3121	「川に学ぼう」・学校近くの匹見川、高津川における川に学ぶ体験的な活動	益田市立西益田小学校	校長	大畑 俊正	島根県	「川に学ぼう」西益田小学校は、校区内を匹見川と高津川との合流地点があり、シーズンとなれば鮎釣りのメッカとなっている。安全管理の上から、児童だけの川遊びは禁止しているため、児童の多くは川で遊んだ経験が少ない。そこで、6年前より、漁業協同組合、保護者、地域のボランティアの方々の協力を得て、全校児童が高津川や匹見川に行き、川遊びや水質調査、生物の実態調査等を実施し、その活動の中から学習課題を設定して教育活動に取り組んでいる。
183121121	1	3121	馬木つ子ふるさと環境探偵団	島根県仁多郡奥出雲町立馬木小学校	校長	福田 充雄	島根県	エコクラブ「馬木つ子ふるさと環境探偵団」は、平成16年に結成し、地域の河川・森林を活動拠点とし、ホタル生息調査・ホタル観察活動・飼育ホタル活動・樹木観察会・年間河川水質調査・雪遊び活動等、地域の自然を味わい楽しむ活動を実施してきている。学校教育と課外における学習との連携を図ることで、児童が地域の豊かな水や緑の自然環境に触れる機械の充実に寄与できるよう活動を展開している。
183121122	1	3121	大馬木川・砂田川を楽しみたい!	島根県仁多郡奥出雲町立馬木小学校	校長	福田 充雄	島根県	低・中学年の環境学習の場である大馬木川や砂田川等における川に入って遊ぶ活動や、児童が課題を見つけ追究する学習を中心に活動を展開する。また、コギ(イワナ)の飼育を継続したり、季節ごとの河川の自然の変化について五感を通して学んだりしながら、児童の環境保全意識を高め、高学年に向けた河川浄化運動への意欲づけとしたい。また、活動結果を地域へ情報発信し、地域住民の環境河川に対する意識を高める契機とする。
183121123	1	3121	江の川探検活動NO.2	島根県江津市立桜江小学校	校長	服部 哲郎	島根県	3年生から6年生までの4学年で、「総合的な学習の時間」に身近な江の川を題材とした活動をする。内容としては、江の川に親しみ、下流から上流までの川の生き物を知る、きれいな川にする取り組みを考える、川漁師さんなど川とともに生きておられる人々の生活を知る、などが考えられる。調べたことをまとめ、校内や地域に発表し江の川のことを知らせるとともに全校で江の川について知る。
183121124	1	3121	サケの帰る川、唐川川水辺環境保全活動	出雲市立鱒淵小学校	校長	富田 真樹	島根県	サケが帰る川の環境を考え、清掃活動や水質検査をしたり、サケの遡上の観察やサケの人工授精・飼育・観察・放流活動に取り組んでいる。平成18年度もこれらの活動をいっそう充実させ、川から川を取り巻く環境に目を向けた活動に発展させていきたいと考えている。また、これまでと同様に活動で得たことを地域に発信したり、地域とともに活動したりすることにより、地域を巻き込んだ唐川川水辺環境保全活動に取り組んでいきたい。
183121125	1	3121	総合的な学習の時間～ぼくたち・わたしたちの「江の川」	江津市立渡津小学校	校長	南波 進	島根県	「江の川」は中国地方最大の河川であり全国的にも屈指の清流である。多くの生物が生息し豊かな自然を有している。故郷を流れる江の川に親しみ水環境について学ぶことを通じて、故郷の自然環境を見直し、それを守ろうとする態度を養うとともに、故郷を大切に、故郷の自然を愛護するために自ら働きかけようとする実践力を育てたい。

平成18年度 新規採択一覧(34/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121126	1	3121	発見！探検！高津川2006	島根県益田市立吉田小学校5年生		吉田 俊洋	島根県	本校校区に高津川の河口がある。この高津川はダム無しの1級河川として知られており、高津川の恵みを流域住民が古くから受けている。本校児童5年生を対象に、水質・生物調査(四季)、川遊び、流域調査、水源探検、植林活動などを実施する。ホームページ、益田圏域の発表会等で体験したことや調査したことの発信を行い、ふるさとに流れる高津川の大切さを広げる。
183121127	1	3121	カジカちゃんの家・猪目川を守ろう	出雲市立鱒淵小学校猪目分校	校長	富田 真樹	島根県	昭和62年以来、カジカガエルの観察、オタマジャクシの飼育、子ガエルの放流、カジカガエルを題材にした研究活動など継続して行っており、平成18年度で20年目を迎える。児童数はわずかだが、ふるさと猪目の環境を守ろうと皆で真剣に取り組んできた。今年度はその集大成として「カジカガエルと猪目分校の子どもたちⅣ」を発刊して、活動の様子や子どもたちの思いを伝えたいと考えている。
183121128	1	3121	よみがえれ！内寺川	井原市立荏原小学校自然たんけん隊	校長	大山 裕子	岡山県	小学校近くを流れる内寺川の水質や川に住む生き物、川の四季折々の姿を学び、体験させることにより、川の水質や生物・環境を守る気持ちを育てたい。また、自分達の体験活動の発表会を行い、子どもから地域の大人たちに対し、河川環境を守ることの大切さを伝える。
183121129	1	3121	「川を知り、川を考え、川を守る軽部っ子の育成」～砂川・吉井川流域における「子ども川博士」の育成～	岡山県赤磐市立軽部小学校	校長	長島 孝子	岡山県	軽部小学校高学年の総合的な学習の中心テーマとして、「川」を取り上げ、上流から下流まで川全体の河川の様子を観察・水質や水生動物の調査・川遊びやいかだやスノーケルやネイチャーゲームなどの自然体験・川の恵みとそれを活用してきた先人の知恵の学習・川と人とのつながりの歴史調査などを行ったりすることを通して、川全体に触れ、川に親しみ、水や自然環境を大切にしていこうとする気持ちを育てる。
183121130	1	3121	オオサンショウウオの生息する志路原川を中心とした河川環境保全活動	広島県山県郡北広島町立豊平東小学校	校長	高杉 千賀子	広島県	平成17年5月2日、NHK総合テレビ「地球ふしぎ大自然」～巨体になって生き残り～という番組で、1年かけて取材された志路原川のオオサンショウウオのようすが放送されました。この国の特別天然記念物「オオサンショウウオ」の生息する志路原川やその支流河川における環境を守るための環境教育を実施する。(水質・水生生物調査、環境保全のための啓発、取り組みの発表など)
183121131	1	3121	総合的な時間における「西宗川」の河川環境を守る体験活動	広島県山県郡安芸太田町立修道小学校	校長	富岡 美保子	広島県	本校は、平成17・18年度に文部科学省の環境教育実践地域モデル事業の指定を受け、環境教育に取り組んでいる。来年度も「総合的な学習の時間」を中心に学校の裏を流れる太田川の支流西宗川を学習ステージとし、水質調査や水生生物調査と源流を求めての体験活動及び下流域にいたる水質調査などを実施する。また、ゲストティーチャーとして地域の方を招き、河川環境の変化などの学習をするとともに、学習発表会の開催、河川周辺の清掃活動など地域との連携や保護者領域への発信を行う中で、子どもたちに環境の大切を気
183121132	1	3121	志和地小学校「板木川はみんなの水族館」総合的な学習の時間における板木川研究並びに川に親しむ活動	三次市立志和地小学校	校長	寺田 宣文	広島県	「板木川はみんなの水族館」は17年度から全校で計画的に活動してきた。鮎の稚魚の放流と成長観察、鮎の捕獲、魚の名前を知る。いろいろなり方を習う。飼育する。図鑑やインターネットで名前や生態を調べる。板木川の清掃をする。水質を調べる。お年寄りから板木川の思い出を聞き取る。などの活動を行う。このような活動を通して、地域を流れる「板木川」をいつまでも大切にしていこうとする心情を養ってきたい。
183121133	1	3121	清流「錦川」の豊かな自然環境を生かし、体験活動を通じて本校の教訓「創造・不撓・和敬」の深化を図る学習活動	山口県立広瀬高等学校	校長	山本 泰史	山口県	1年生を対象に、本校の正門前を流れる清流「錦川」を活用して、川をきれいに(清掃活動と下水処理場見学 7月)、カヌー体験(9月)、茶摘み～製茶体験(5月)などを実施。体験を通じ、清流を守る地域の人たちの熱い思いを感じ取り、豊かな清流を満喫し、自分たちのお茶を地域の銘水で味わう。それぞれの体験を連携させ、本校の校訓「創造・不撓・和敬」を深化し、「清流の郷」に学ぶ若者の姿を発信したい。
183121134	1	3121	学校に隣接する市街地近郊の糸米川を中心とする生態系の学習	山口県立山口高等学校校定時制	校長	沖浦 初孝	山口県	学校に北側に位置する糸米川において、総合的な学習の時間や科学部での部活動を中心に生物の調査や観察を行っている。市街地近郊でありながら多様な生物が生息し、安定した生態系を作り出しており、定点観察を中心に水中生物の発生消長、水辺を利用する哺乳類・鳥類、環境を作り出す植物相の変化を明らかにし、身近な水辺環境が作り出す生態系を群集生態的観点から学習し、水辺環境の重要性を認識する。

平成18年度 新規採択一覧(35/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121135	1	3121	総合的な学習において、「ふるさとの川吉野川」をテーマに子ども達の川に学ぶ体験活動の推進を図る。	三庄小学校	校長	高井 和裕	徳島県	総合的な学習において、「ふるさとの川吉野川」というテーマのもとに、体験活動や調べ学習を取り入れながら吉野川についての学習に取り組み、その成果を保護者や地域の人々を招待して自分たちの学んだことや意見を発信する。この事業を受けた学習を通して、豊かな心や表現力、感性を育て、ふるさとを大切に、川を含めて地域の環境を守ることでできる立派な大人となるための人格形成を図りたいと考えている。
183121136	1	3121	金倉川・西汐入川における川に親しみ、川に学び、川のために考える活動	丸亀市立城神小学校	校長	金山 達夫	香川県	校区に流れる金倉川と西汐入川について、そこに住む指標生物やパッチテストなどによる水質の調査を行う。さらに調査を川の上流まで範囲を拡げて行ったり、昔の川の様子をお年寄りから聞き取ったりしながら、川の汚れの問題の大きさを知るとともに、その原因について、生活排水やゴミの遺棄などとの関連において考える。調査の結果わかった川の汚れやその対策について、地域の住民などに対して発信する。
183121137	1	3121	わたしたちの美しい土器川を守り隊！（総合的な学習「垂水学習4年生」）	香川県丸亀市立垂水小学校	校長	赤松 よし子	香川県	4年生の総合的な学習の時間において、香川県唯一の一級河川「土器川」及びその流域の自然や文化、人々のくらしと水との関係を調べることをとおして、郷土の自然や産業に対する関心を高め、美しい環境を守ろうとする心や態度を養う。また、校区や上流域の人々から学んだり、河川浄化や河川敷公園の環境美化活動を共に行ったりして、家庭・地域と一体となった環境教育を行うとともに、流域の学校として交流して、環境美化の意識をさらに広める。
183121138	1	3121	土器川における、川に親しみ、環境を考える活動Ⅳ	丸亀市立城辰小学校 校辰の子エコクラブ	校長	安藤 好春	香川県	4年生、辰の子エコクラブ76名が、土器川探検隊を結成し、土器川の自然や治水環境について、調査や見学等の体験活動を行う。土器川の環境を守っている人たちの話を聞いたりして、分かったことをまとめて、全校や地域に発信したり、環境を守るために、自分たちができることを考え、全校生にクリーン活動を呼びかけ実践する。
183121139	1	3121	川となかよくなろう	松山市立さくら小学校	校長	橋村 誠	愛媛県	環境に視点を当てた学習を進める中で、重信川をとりあげ、調査したことをまとめる活動を行う。その際、内容を深めるために、上・中・下流域各々に出向き、ゲストティーチャーから助言してもらいながらの体験学習を実施する。
183121140	1	3121	地域の川「中筋川」から学ぶ	四万十市立中筋小学校	校長	竹村 暢夫	高知県	本校は「中筋川」「横瀬川」「山田川」という3つの河川に隣接している。過去には、河川が氾濫し、水との戦いを繰り返したという歴史がある。この河川について、環境教育や地域の人々の願い、河川改良等について、総合学習で学習し、児童の河川に対する意識を高めた。また、学習内容については学校ホームページを通して公開啓発したい。
183121141	1	3121	母なる川「四万十川」から学ぶ	高知県四万十市立具同小学校	校長	山本 岩見	高知県	本校に隣接している「四万十川」は、最後の清流として全国的に脚光を浴びているが、過去には、「暴れ川」と異名をとるほど、地域の人々の生活に様々な影響を与えてきた歴史がある。そこで、この川を地域文化と捉え、人々の暮らしや自然、環境、河川改良について総合的な学習の時間の中で学習や体験を深め、児童の河川に対する意識を高めた。また、学習内容については、学校ホームページを通して公開し啓発にも努めたい。
183121142	1	3121	「奥田川かがやきの水辺」における児童による稀少植物及び水生生物の保護と観察等の体験活動の推進	いの町立伊野南小学校	校長	岡 則明	高知県	校区を流れる奥田川には、絶滅が危惧されている2種類の稀少植物や様々な水生生物が生息している。河川改修に伴い、児童が水生生物や植物に親しむ環境「かがやきの水辺」を造る計画が進んでおり、第3学年の総合的な学習の時間の取り組みとして、講師を招いて奥田川の水生生物を調査したり、学校施設内のビオトープを整備し、稀少植物や水生生物を移して保護と観察等の学習に取り組む。
183121143	1	3121	「松田川」の川漁師にチャレンジ！	宿毛市立橋上小学校	校長	所谷 節子	高知県	橋上小学校5・6年生17名を対象に、校区を流れている松田川流域に暮らす自分たちと川の関わりについて考えさせ、川の恵みや自然のすばらしさをわからせる。そのために、松田川漁協や川漁師の方の話を聞き、体験活動をしなが、川によせる地域の思いを感じ取らせる。地域の方を招いて、調べたこと、考えたこと、気づいたことや問題点等テーマごとに発表し、自然を愛護する態度や環境保全への認識を育成する。

平成18年度 新規採択一覧(36/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121144	1	3121	わたしたちの川ものべ川	土佐山田町立楠目小学校	校長	原 豊之	高知県	物部川や物部川流域また、他の河川での学習や体験活動を通して、川や地域の自然に親しみとともに、環境を守るために自分たちができることを考え実践する。保護者や地域の方との連携も大事にし、学年行事等を行うことで、川に子どもや地域を近づけたい。発表会には協力いただいた方や、保護者、地域の方にも参加していただき、学習したことを広げたい。
183121145	1	3121	「須恵川」の河川公園を題材とした「環境」に関する学習の推進-第3学年総合的な学習の時間を通して-	福岡市立箱崎清松中学校	校長	浅見 義紀	福岡県	本校、第3学年の生徒を対象に、「須恵川」「多々良川」の水質調査・生物調査、源流を調べる活動等を実施する。身近な河川の調査を通して、都市における河川の役割を知り、地域の環境について考える学習活動を展開する。学習のまとめとして、環境標語づくりを行い、学習の成果を地域に発信する。
183121146	1	3121	活動名「建花寺川にホテルをよぼう」	福岡県飯塚市立二瀬中学校	校長	小幡 満明	福岡県	(1)学校に隣接する河川(建花寺川)、主に伊岐須橋から前田橋の間の環境教育活動とおして、ホテルの飛び交う環境づくりを行う。(2)地域のボランティア団体等と連携した活動を行うことにより、地域環境づくりの活動推進に資する。
183121147	1	3121	玉来川における、川に親しみ、上流に住むものとしての河川浄化をめざす活動	産山村立山鹿小学校	校長	佐藤 増夫	熊本県	大野川水系を利用し「川上に住むものとして」という題材で、上流域、中流域、下流域ごとに河川調査を行う。そして、調査結果をまとめていく中で、川上に住むものとして何が大切か考え、実際に河川浄化の活動を実践する。また、その活動の内容を学習発表会の時に、他学年や保護者、地域の人たちに向けプレゼンテーションや劇化を通して報告していく。その他に、村の広報誌に掲載し、村民に広く河川の環境保全を呼びかけていく。
183121148	1	3121	迫間川を炭で浄化する活動	熊本県菊池市立菊池北小学校	校長	倉原 久義	熊本県	平成17年度に、同名で申請を行い事業を進めているところである。例年同様、第4学年で河川の水質調査、ダム役割を学習しホテルのすめる環境を学習した。第5学年できれいな水をいかした産業(とうふづくり、酒づくり)を学習し、炭を焼いた。児童や教師、PTAおよび河川事業関係者の協力のもと、炭を河川に設置できるようになり、継続して活動を進めていきたいと存じます。
183121149	1	3121	総合学習における河川を題材とした活動	大分市立長浜小学校	校長	古城 由紀子	大分県	4年生を対象に、総合的な学習の中で、河川についての水質・生物調査・源流調査など実施し、調べたことをまとめ、発表することで、川をきれいにするためにできることなど、環境を守る気持ちを育てていく。
183121150	1	3121	「七歩川プロジェクト」における子どもたちの川に学ぶ体験活動と美化活動の推進	大分市立下郡小学校	校長	後藤 哲臣	大分県	社会科の「上下水道」の学習から、学校の近くを流れる七歩川に目を向けさせる。「総合的な学習の時間」では、地域の人の昔の七歩川の様子聞き取り学習などを通して七歩川をきれいにしようという学習「七歩川プロジェクト」に取り組み、自分たちの学んだことを地域の方々に発信する。さらに地域で河川美化に取り組む団体と連携して『七歩川サミット』を開催するなどして地域と連携した取組を行う。
183121151	1	3121	川内川に親しみ、河川浄化を目指す活動	えびの市立岡元小学校	校長	馬場 真吾	宮崎県	本校の校区内に河川はない。川内川支流の長江川までは6kmも離れている。だからこそ「川で遊び、川で学ぶ活動」をベースに、地域のよさを理解し、地域とともに、河川浄化を目指す環境教育に取り組んでいきたい。
183121152	1	3121	本庄川において川と親しみ「水」に対する関心を高める活動。	国富町立森永小学校	校長	日高 基孝	宮崎県	身近な水や川に目を向けさせ、つりや河原で遊ぶ活動や、浄水槽などの施設を見学したり自分たちで調べたりする活動を通して、生物にとっての「水」について知り、環境への興味・関心を高めさせることを平成18年度に取り組んだ。学習した児童は「水」のありがたさを実感し、望ましい変容がみられた。平成18年度もその活動を支える資金を助成して頂きたい。

平成18年度 新規採択一覧(37/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121153	1	3121	川内川における川に親しみ、河川浄化を目指す活動	えびの市立飯野小学校	校長	萩原 和範	宮崎県	えびの市の川内川の汚染状況を調べたり、水生生物について調べたりする活動を通して自然を大切に、ふるさとを愛する心を育成したいと考えている。また、川内川フェスタという名称で、子どもたちが調べたことを発表する場を設定したり、保護者や地域の方々とともに環境について考える体験活動を行ったりしながら、川のすばらしさ、大切さを啓発していきたいと考えている。そういった活動のために助成金を活用したい。
183121154	1	3121	大谷川における川に親しみ河川浄化を目指す活動	宮崎市立小松台小学校	校長	宗安 正文	宮崎県	大谷川(1級河川全長12km)の調査活動を行うとともに、生活に関わりの深い河川について思考を深め、環境を大切にしたい気持ちや態度を育てる。また、地域の人々と共に調べ学習をすることで、地域を流れる大谷川への関心を一層深め、地域との絆を深めていく活動とする。
183121155	1	3121	大淀川及び小松川における川に親しみ、河川浄化を目指す活動	宮崎市立西池小学校	学校長	酒匂 醸以	宮崎県	身近にある大淀川や小松川の水质検査や水生生物調査をし河川に対する関心を高める。また、浄水場や大淀川学習館を見学し、河川に対する理解を深める。河川について調べたことを川新聞にし「私たちの川」壁新聞コンテンツに応募し発表する。ポスター作成や河川浄化活動をし河川浄化に対する啓発活動に取り組む。
183121156	1	3121	山田川の自然に学ぼう	薩摩川内市立山田小学校	校長	寺脇 公男	鹿児島県	山田小学校の全児童を対象に、総合的な学習の時間及び生活科の授業の中で、水質・生物調査、鯉の稚魚の放流、山田川の清掃活動、カヌー体験等を実施する。学習したことについては、学習発表会等の機会に、自分たちが調べたり学んだりしたことをまとめ、地域の方々に発信する。
183121157	1	3121	河川調査や親子で行う魚のつかみ取り体験活動を通して、河川を大切にしようとする意識を高める	北秋田市立合川北小学校	校長	佐藤 高義	秋田県	今年度、河川整備基金の助成をいただき、本校では初めての試みとなる全校児童と保護者を対象とした親子での魚つかみ取り体験活動を実施しました。山村地域にある本校だが、最近の子どもたちは、魚釣りの経験はあるものの、川で遊んだ経験の少ないこともあり、魚のつかみ取りは大変好評でした。保護者にとっても久しぶりの体験であり、子どもと一緒にということで、大変な盛り上がりとなりました。子どもに見本を見せてあげるといいながら、保護者の方が夢中になっているほどでした。こうした企画を出来ることなら今後も継続して欲しいと
183121158	1	3121	守ろう知ろう赤倉の川	最上町立赤倉小学校	校長	荒澤 賢雄	山形県	総合的な学習の時間の活動において、毎年度継続して取り組んでいる水質調査(水生生物調査)を実施し、川の環境の変化について学んでいく。調査したものをもとに発表資料を作成し、発表会等を行う。また、水質の良さと上流の山の様子との関係について、外部講師をお招きして、講話をいただく。日常的な活動としての川のクリーン作戦に取り組み、クリーン度についての資料作成、情報の発信を行う。
183121159	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	倉吉市立上北条小学校	校長	宍戸 剛	島根県	本校のすぐそばを流れる天神川を題材に川と暮らし、川と遊び、川の生き物、橋の歴史と人々の努力等環境教育活動も含めながら、地域の古老、保護者、専門家への聞きとり調査や体験活動を取り入れながらの総合的な学習をすることでふるさとを代表する天神川を愛し、積極的に関わっていく態度を育てていく。また、天神川子ども会議(仮称)を開き、地域住民、専門家も招いて討論し理解を深めたい。
183121160	1	3121	新荘川清流を守る事業	須崎市立上分小中学校	校長	野瀬 通男	高知県	校区の清流新荘川の清掃活動を小中学校の児童生徒が縦割り班を作り、異年齢集団で地域・保護者と一緒に実施するとともに、水生昆虫の観察や水遊び・水泳などの水に親しむ活動を実施。また、当日清流を守るためのスローガンやシュプレヒコールを実施したり、文化祭や総合学習などの発表の場を通じて、環境保全の大切さを子どもたちから広く地域住民に向けて発信する。
183121161	1	3121	総合的な学習の時間「AkaikeRiverTime」における河川環境調査・啓発活動推進	赤池町赤池中学校	校長	鍋藤 聖一	福岡県	赤池中学校では総合的な学習の時間「Akaike River Time」と称して、学校の目の前を流れる彦山川を題材とした、環境問題学習を実施している。来年度は、環境問題についての調査研究を本年度以上に深め、その結果を校内や地域へ発信する啓発活動を行いたいと考えている。

平成18年度 新規採択一覧(38/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121162	1	3121	大沢川における水生生物調査および水質調査	宮城県石巻市立北上中学校	校長	秋山 喜弘	宮城県	環境問題について考えを深めるために、総合的な学習の時間を活用し地元北上地区を流れる大沢川上流で、水生生物調査、水質調査(年2回)などを実施する。調査、研究したことについては、文化祭での発表などを通して地域に発信する。
183121163	1	3121	山田川、ゆうゆうプロジェクト	小野市立市場小学校	校長	小東 正敏	兵庫県	「水辺の楽校」として整備された山田川で、総合的な学習の時間を中心に体験を通じた環境学習に取り組む。また、四季折々に水生生物の観察や魚とり、水遊び、植物採取や植物画、野草料理等に取り組み、自然への愛情や命の尊さを学ばせる。これらの活動を広報や公民館等で情報発信することで、地域の人の指導や完全監視の協力も得て、地域と一体となって山田川の環境美化をはかる。
183121164	1	3121	渋川の環境を調べよう(総合的な学習6年)	笛吹市立石和西小学校	校長	坂本 誠二郎	山梨県	・学校南側を流れる渋川の改修と親水公園の建設に伴い、学校ビオトープと渋川とをつないで、河川とその周辺の自然環境を題材に6年生(52人)において総合的な学習の時間に環境学習を展開する。
183121165	1	3121	渋川の生き物を調べよう(総合的な学習5年)	笛吹市立石和西小学校	校長	坂本 誠二郎	山梨県	・学校南側を流れる渋川の改修と親水公園の建設に伴い、学校ビオトープと渋川とをつないで、河川とその周辺の自然環境を題材に5年生(50人)において総合的な学習の時間に環境学習を展開する。
183121166	1	3121	親水公園の生き物を調べよう(総合的な学習4年)	笛吹市立石和西小学校	校長	坂本 誠二郎	山梨県	・学校南側を流れる渋川の改修と親水公園の建設に伴い、学校ビオトープと渋川とをつないで、河川とその周辺の自然環境を題材に4年生(56人)において総合的な学習の時間に環境学習を展開する。
183121167	1	3121	「戸来地区の環境調査」	新郷村立新郷中学校	校長	金田一 淳	青森県	五戸川の環境調査を通して、五戸川の環境(特に水質)の現状を知るとともに、自然のつりあいを理解し、自然と人間のかかわりを考え、地域の自然環境への保全意識を高める。
183121168	1	3121	阿武隈川「水辺の楽校」を中心とした環境問題への取り組み	福島県福島市立渡利小学校	福島県福	浅野 孝平	福島県	阿武隈川の源流は福島県白河市から20kmほど西の那須連峰(西郷村)にある。全国で6番目の長さ、流域面積は11番目という大きな川である。数多くの生き物の命を育み、多くの支流が流れ込み、福島県中通りを通り、太平洋へ注ぎ込んでいる。最も身近に見つめることができる自然環境「阿武隈川」渡利小学校に在学する期間6年間にわたって阿武隈川を見つめ、訪ね、調べる活動を続けることによって、阿武隈川に親しみを持たせるとともに、生活と自然保護としての川とのかかわりについて考えさせていくことをねらいとする。
183121169	1	3121	「荒川子どもの水辺」における子どもたちの川に学ぶ体験活動の推進と啓発活動	足立区立上沼田小学校	校長	大森 隆雄	東京都	第一、第三土曜日に行っている本校3年生以上の「土曜ふれあいスクール」において「荒川子どもの水辺」教室を開催し、四季の動植物の観察(通年)や、荒川の源流を訪ねる体験活動(夏季)、また荒川放水路の誕生時の様子を地域の人に学ぶ体験活動(秋)、サケを育て放流する活動(冬)などを実施する。体験活動で学んだことは、本校のHPやニュース等で知らせるとともに、児童集会等で発表していく。活動を通して、荒川に対する子どもの関心・意欲を喚起し、河川清掃活動を保護者とともに行うなどして啓発していく。
183121170	1	3121	静岡平野における安倍川下流域・巴川の河川環境について	静岡県静岡中央高等学校	校長	村上 明夫	静岡県	平成17年度貴財団から助成をいただき、理科の授業と地学部の部活動で、静岡市内を流れる安倍川・巴川の河川環境の公害対策に関する研究を実施しその成果を校内校外に公開した。次なる課題として、静岡市の市街地を流れている安倍川・巴川の水質に着目して、その地形特性・市街地と水質との関わりを調べてみたい。平成17年度助成の結果は、校内校外に公表したが、平成18年度についても同様に校内校外に公表したい。

平成18年度 新規採択一覧(39/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183121171	1	3121	四万十川の汽水域と共に生きる	四万十市立竹島小学校	校長	中平 菊美	高知県	四万十川流域でも特異な汽水域に接する本校区においては、川面を日常的に目にするばかりでなく、川の恩恵を多く受けた生活が展開している。その汽水域の特色や川漁を含めた生活について理解する学習を、地域の従事者の協力を得て行ったり、清掃等、清流を守り郷土に愛着を深める活動を行う。学習や活動の様子や成果を地域に発信する。
183141001	1	3141	子供水防団の活動	河川愛護団体リバーネット21ながぬま	会長	杉本 利夫	北海道	我が町は自然的環境から洪水による災害を受けやすく、先人たちにより古くから治水工事が行われ、又自衛のため町民による組織的な水防活動が行われてきたにもかかわらず五十数回も水害に見舞われました。昨年結成した子ども水防団員に過去の水害の爪痕を調査し、それを見ながら水害の体験談を聞き、治水事業の重要性又水防活動の大切さを学んでもらう。
183141002	1	3141	水防協力団体認証記念事業『災害は忘れないうちに必ずやってくる』フォーラム	特定非営利活動法人災害サポーターシステム岩手	理事長	大石 幸	岩手県	水防協力団体認証記念事業として『災害は忘れないうちに必ずやってくる』フォーラムを開催。平成17年7月に施行された改正水防法(水防協力団体)で設けられた制度で、水防管理者が公益法人やNPOを指定できるもので、指定された団体の業務は、水防活動への協力のほか、水防に関する情報・資料の収集・提供・調査研究・知識の普及・啓発などを行うことができる。当法人の今回の認証を機会に、県内各地の水防業務を的確に遂行できる公益法人やNPO法人が水防協力団体としての輪が地域に広がるのを啓蒙するとともに一関市で起き
183141003	1	3141	震災による水害対策と土地利用のあり方についての全国フォーラム	流域の水循環型社会をすすめる会	会長	高橋 裕	東京都	震災が最近クローズアップされている。河川再生の機運とあいまって話題をよんできたことはよしとして、もう少し掘り下げて考えてみる必要がある。今後の震災のあり方をテーマに、治水と土地利用と住民生活との関係を地域特性や歴史性からみて、全国フォーラムを開催する。
183141004	1	3141	水害から住民のいのちと暮らしを守る水害対策啓発キットの開発	特定非営利活動法人レスキューストックヤード	代表理事	栗田 暢之	愛知県	多発する水害からいかに住民が命と暮らしを守るかという命題に、東海豪雨をはじめ様々な被災者支援の現場に立ってきた当法人のこれまでのノウハウとネットワークを駆使し、また広範な地域の方々の交流を通して得た住民が持つ課題等を基に、水害にどう備え、具体的には何をすればいいのかを簡潔な映像等にまとめ、かつ、それらを使ったワークショップの手法を開発し、その有効性を図りながら水害対策啓発キットとして普及させる。
183141005	1	3141	子ども水環境カルテ調査～井戸探検から考える地域防災のシナリオ～	水と文化研究会	代表(京)	嘉田 由紀子	滋賀県	私たちは今、琵琶湖流域で過去の水害記録を古写真や資料から探り水害体験者の綿密な聞き取り調査を行っています。洪水は同時多発的に起こりますが、行政機関はすべての堤防に土嚢を積めるわけではありません。我が身や身近な人たちの命を「自分たちで守る」、「みんなで守る」という意識を高める社会的工夫として地域毎の水害体験を若い世代に伝え、地元の子どもたちと一緒に地域の水、特に井戸探検をしながら、地域防災のあり方を考えます。
183141006	1	3141	水害に強い地域社会づくりに向けた子どもの役割～京都桂川流域にて～	子どもと川とまちのフォーラム	代表	嘉田 由紀子	京都府	近年の都市部流域での暮らしの場の急激な変化から、「的確な情報の伝達と対応策」を可能とするコミュニティは整っていない。水害に強い地域コミュニティの再生に向けて、子どもの果たしうる役割に注目し、自ら「流域協議会」を発足する子ども達と共に、洪水調査や学習会、ワークショップの実施、調査結果から実践的な提言の発言などを実施して、まずは足場である桂川流域を中心とした水害対策への着実なきっかけづくりを行う。
183141007	1	3141	実物大実験装置(会談、ドア模型)を用いた地下浸水時の避難に関する体験実験	京都大学防災研究所	所長	岡田 憲夫	京都府	防災研究所・宇治川オープンラボラトリーに設置された実物大模型(階段、ドア)では、地下浸水時の災害体験実験が可能であり、災害時に想定される事態および避難の困難さを体験することができる。これまでオープンキャンパスなどでの公開実験において一般の見学者を対象とするほか、SPPIによる高校生の体験実験等を実施している。18年度も幅広く災害体験実験・関連講義を展開し、防災意識の啓蒙ならびに向上を図る。
183141008	1	3141	一級河川斐伊川における伝統的水害対策工法「出雲結い工」の技術の承継と普及	斐伊川水系災害対策協力会	会長	中筋 豊通	島根県	天井川であり砂河川という一級河川斐伊川の特性を巧に利用した地域独自の伝統的水害対策工法「出雲結い工」とおして、流域住民の河川との深い関わりや先人の知恵と技術を広く普及・承継するために、工法の特徴や施工プロセス等を記録・解説したビデオを制作する。ビデオは、水防管理団体や関係機関の研修資料として役立つほか、教育機関や公民館等にも配布し、地域の文化的資料として活用を図る。

平成18年度 新規採択一覧(40/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183151001	1	3151	異常気象に対する水力発電の運用管理に関する調査と啓発	社団法人電力土木技術協会	会長	高木 宏明	東京都	近年、地球温暖化の影響により異常出水が頻発する傾向が見られ、多くの水力発電貯水池においても、ダム操作規程の運用幅を超える出水、下流域への影響の波及等が顕在化しつつある。そこで、全国の水力発電所における異常出水、危機管理等の事例を収集・解析し、異常出水時における安全な運用管理、河川及び流域住民の安全確保についての対策をまとめ、河川、電力等の関係者のみならず広く国民一般に対する啓発を図ることとする。
183151002	1	3151	水環境とリスク管理・評価に関するシンポジウム	社団法人産業と環境の会	副会長	服部 拓也	東京都	河川等の水環境を保全するためには、各界各層が情報を共有し、連携することが肝要であると考えます。従って、シンポジウムを開催し各界の有識者による水環境保全への対応策を提言して頂くとともに、なかでも水を大量に使用する産業界における水の再生利用の実施状況や対策技術等についての現状と課題を議論することは極めて有意義であると考えます。また、シンポジウムから得られた成果の公表、普及も極めて重要と考えます。
183151003	1	3151	ウォーターフェア隅田川レガッタ	水の週間実行委員会	会長	青山 俊樹	東京都	汚染から甦った隅田川はダムや水路からによる水量の確保等の努力の賜物であることを子どもと一緒に生活する人たちだけでなく、広く一般の方々に認識していただくため、かつて「隅田川の花」と呼ばれたレガッタを開催し、その恩恵を再認識しつつ親水意識の向上に寄与する。
183151004	1	3151	わが国の産業における工業用水道事業の活動状況および水行政情報等の普及啓発事業	社団法人日本工業用水協会	会長	神田 真秋	東京都	産業の血液として工業用水を供給している工業用水道事業の活動状況及び国などの水行政情報等の普及啓発並びに工業用水に関する国民の理解を深めることを目的として、全国の工業用水道事業を運営している約147事業者(地方公共団体等)を対象とした事業概要、受水事業への配水情報、経営情報、業務委託情報及び湯水情報等の工業用水に係わる各種情報並びに国等における水関連行政の情報を、インターネットを通じ広く国民に提供するシステムを構築する。
183151005	1	3151	最新造水技術の動向と地域適用性に関するシンポジウム等の開催	財団法人造水促進センター	理事長	藤村 宏幸	東京都	河川の汚染を防止・環境維持に効果がある水処理・水再生利用、水循環利用など造水による水資源有効利用の必要性を多くの人々に理解してもらうために、造水技術シンポジウムおよび講演会を東京地区と中部地区の2箇所で開催し、普及啓発活動を行う。
183151006	1	3151	マイクロ水力発電推進のための普及啓発事業	小水力利用推進協議会	副会長	須藤 良作	東京都	地球温暖化防止やエネルギーセキュリティー確保に役立つマイクロ水力発電について、広く国民的認知度を高めるとともに、事業化が期待される地域での普及拡大を図る。とくに、マイクロ水力発電事業の担い手育成、候補地での流域住民の理解、マイクロ水力発電普及活動を行う地域団体の育成等に配慮する。具体的事業としては、シンポジウム(東京・地方)の開催、ガイドブック・ビデオの作成配布を行う。
183151007	1	3151	河川(港湾等)における利水、治水施設等に関する見学会(利根川・相模川・千葉県房総半島の河川・東京湾等)	学術団体日本河川開発調査会	会長	宮村 忠	東京都	河川における治水・利水施設が、藩政時代前後よりどのようにして人間生活と関わりを持ってきたかについて、歴史的に検証するとともに、河川及び流域の現状、社会的背景、地理的要因などを実際に現場へ出掛け、治水・利水施設がどのように機能して、利活用されてきたかについて、具体的に解析すると共に検証を行う。主な見学河川は、利根川(中流部)、相模川流域、千葉県房総半島の河川である。
183151008	1	3151	水の都ひろしまにおける「川の営み・川のある暮らし」再現プロジェクト	特定非営利活動法人雁木組	理事長	松波 龍一	広島県	広島県の6本の河川に今なお残る約300ヶ所の雁木(階段)を船着場として活用する水上交通が始まって1年が経過し(H17年度助成対象/調査・研究部門)、調査や運航を通じて漁業者と一般市民との交流や新たな連携事業が生まれた。川と親しかった時代の暮らしを取り戻すために、川でじみ漁をする漁協、舟運復活を実現するNPO、市民、学校、行政が連携して、「川の営み」をテーマとした体験学習や調査活動を通じて水辺環境・文化の啓発を図るものである。
183161001	1	3161	北海道「子どもの水辺」全道交流会開催事業	北海道「子どもの水辺」全道交流実行委員会		森山 幹郎	北海道	北海道地域32箇所の「子どもの水辺」の連携を更に強化し、その活動をより活性化するために、全道規模の交流会を開催する。主な参加対象は、北海道地域の「子どもの水辺」の関係者(特に実質的なユーザー)や、また今後「子どもの水辺」への登録を考えている積極的に水辺の活動を行っている個人・団体など。交流会の内容は、各「子どもの水辺」の活動発表(プレゼン及びパネル発表)を軸に、質疑応答、意見交換、講師講演などを行う。

平成18年度 新規採択一覧(41/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183161002	1	3161	旧松尾鉱山鉱毒水現況調査と北上川源泉探訪会	北上川流域市町村連携協議会	会長 水	高橋 光夫	岩手県	北上川の「負の遺産」と呼ばれる旧松尾鉱山鉱毒水。川を赤く汚染した鉱毒対策として、中和処理施設が稼働しているが、年間5億をかけた人工的に清流化をしている現状、そして下流の四十四田ダムに流れ推積する有害金属等、多くの問題を抱えている。処理施設の稼働とともに流域の住民は松尾鉱山鉱毒水を忘れ、また知らない若い世代も増えてきた。この問題を、北上川流域に住む人々で、上下流交流を促進しながら共通の認識を持ち、本当の清流化・自然による恒久対策とは検証したい。また、長大な大河北上川なるゆえ下流の人たち
183161003	1	3161	水ガキの育成と交流を行う「水ガキ交流会in東北」の開催	特定非営利活動法人水環境ネット東北	代表理事	新川 達郎	宮城県	地域資源をいかした自然体験活動をととして水の循環を学ぶことで、水の恩恵を楽しみ、そして環境保全のために行動を起こすことができる「水ガキ」の育成と交流を行う。また、公募により水をテーマにした活動発表会を開催し、各地の子どもたちに意見交換を行うことで、更なる交流の拡大と広い視野を持つ人材育成を図ることを目的とする。
183161004	1	3161	第11回水シンポジウム	第11回水シンポジウム実行委員会	実行委員	辻本 哲郎	宮城県	水や自然が人間に与える様々な恩恵と河川を中心とした水の諸問題について住民、市民団代、学会、行政が幅広い討議と意見交換を行い、それぞれの役割を明確にし、かつ連携を深めることにより、『水と人との好ましい関係』を全国に発信することを目的として、土木学会水工学委員会、国土交通省東北地方整備局、宮城県、仙台市、NPO法人により実行委員会を組織し、シンポジウムを開催するため申請するもの。
183161005	1	3161	水辺の散乱ゴミに関する流域間交流研修会の開催	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス	理事長	西村 修	山形県	増大する海岸漂着ゴミの6～8割が、川をとおして流出してきた陸域の生活系ゴミであると推測されている。河川環境保全活動として取組まれている河川清掃活動関係者の多くに、その実態が知られていないことから、川と海岸のゴミ問題に関する研修会を開催し、知見を広め、流域間交流の促進を図る。
183161006	1	3161	「全国フットパスシンポジウムinながい」の開催	最上川流域観光交流推進協議会	会長	目黒 栄樹	山形県	本協議会は、自然豊かな最上川と沿川の地域資源を結びつけた歩き主体の観光を、流域が一体となって促進することを目的にしているが、それを先導するのが「フットパス」事業である。このシンポジウムは、平成17年6月にモデル地区として整備が完成した長井市を会場に、フットパスを通じて河川や里山の環境整備と新たな観光振興に取り組んでいる全国のNPOや行政関係者が一堂に会し、「協働」「連携」「観光」について考察、情報発信する。
183161007	1	3161	那珂川「川の駅」を活用したり「那珂川楽校」の推進と「那珂川楽校」の実施	那珂川流域連携協議会	会長(大)	小谷 隆亮	茨城県	これまでの当協議会の流域で設置を推進してきた「川の駅」をはじめとする、沿川のさまざまな活動支援施設を活用し、「那珂川の日」の住民参加活動としてリバーツアーを意識した一斉川下りを行う。さらに、那珂川の上流から下流に至る多様な河川環境と、流域で活動を支援するリーダーを活用し、川・森・海というフィールドを実際に使い、子どもたちを対象にさまざまな角度から那珂川を学習する「那珂川楽校」を実施する。
183161008	1	3161	「菅笠作り体験倶楽部～スゲッタ(管用)からムロペリ(室縫い)まで」による伝統工芸復元活動及び指導者育成	渡良瀬遊水地友の会	会長	小笠原 キヌエ	栃木県	菅笠は低湿地帯特有の産物として、渡良瀬遊水地周辺の地域及び流域においては明治後期から昭和30年ごろまで農閑期の収入源として盛んに作られていた。しかし昭和30年以降需要が減るとともにその技術の継承も行われなくなり、菅笠及び笠作りの技術者も消えつつある。そこで渡良瀬遊水地友の会では菅笠をこの地の伝統的な工芸品と位置づけその技術等の復元及び技術指導者の育成を図るため、様々な活動を展開する。
183161009	1	3161	「水」を通しての上流水源地と下流受益地との交流事業の実施	千葉県上下流交流事業実行委員会	会長 千	石渡 哲彦	千葉県	千葉県の水源として将来重要な施設となる八ツ場ダム及び湯西川ダムの水源地域である群馬県長野原町及び栃木県栗山村と「水」を通じた各種交流を行う。具体的には県内小学4～6年生とダム水没地域関連の小学生同士の交流会、本県での水源地域の紹介(以上夏)、シクラメン・温泉贈呈(冬)などを実施する。本事業は継続して実施しているが、関連ダムの本体着工を間近に控え、よりその重要性が増大している。
183161010	1	3161	みんなで考える「いい川」「いい川づくり」公開選考会・2006年「川の日」ワークショップの開催	「川の日」ワークショップ実行委員会	実行委員	宮口 * 廸	東京都	「いい川」とは何かをテーマに、国内・国外(主に韓国)の河川、湖沼、水路、海浜等、流域のさまざまな水環境の保全、改善等の事業、活動について、市民、行政等より募集し、一堂に会して公開選考会方式のワークショップを開催する。発表や討論、地域や立場等を越えた情報交換、交流を通じて、望ましい川や水辺の姿や地域づくりのイメージ、方向性とともに、その実現に向けた具体的方策や合意形成、協働のあり方等を共有する。

平成18年度 新規採択一覧(42/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183161011	1	3161	「水辺の楽校」多摩川流域交流会の拡充と合同イベントの開催	「狛江水辺の楽校」運営協議会		横山 十四男	東京都	個々の活動を続けていた多摩川流域の10の水辺の楽校で「水辺の楽校多摩川流域交流会」をスタートさせた。全楽校参加の流域新聞「たまっこ」の発行や「多摩川子どもシンポジウム」の合同開催など、昨年の成果をさらに拡充発展する。山梨県小菅村や東京都調布市でも水辺の楽校立ち上げの準備が始まっており、将来は流域の全市区町村をネットワークする水辺の楽校流域協議会をめざす。
183161012	1	3161	打ち水ネットワークの構築とノウハウの共有	打ち水大作戦本部	作戦本部	尾田 栄章	東京都	生活の中での水の再利用を促進しながら、ヒートアイランド現象及び地球温暖化に対抗するため、2003年からの実施してきた「打ち水大作戦」は3年間で市民運動として大きく成長し、全国各地で独自の取り組みが行われている。こうした各地域の取り組みをネットワーク化し、それぞれが持つノウハウをお互いに共有することで、それぞれの活動をより活性化させるとともに、「打ち水大作戦」のさらなる広がりや定着を目指す。
183161013	1	3161	利根川流域における源流域と下流域交流連携のしくみづくりに向けた水辺交流拠点の設営と交流活動の実践	特定非営利活動法人地域交流センター	代表理事	田中 栄治	東京都	利根川の上流から下流に至る多数の市民および民間団体、市町村の実践的なネットワークを形成する手法として、既存の民間施設、行政施設を活用した「川の駅」の設営策を検討する。もって多様な活動グループ、個人、行政、施設のネットワーク体制の構築と交流連携活動の実践を図り、河川環境の保全、体験学習活動、防災時の相互協力体制の創造、集客事業の活性化等に結び付けていく。
183161014	1	3161	「第2回川の日ワークショップ関東ユース大会」とブックレット「荒川両岸まち歩き2ー葛飾ー」の出版	特定非営利活動法人あらかわ学会	理事長	鈴木 誠	東京都	荒川をはじめ関東の各河川で活動している個人・団体の発表の場を設け、関東の川自慢・川活動自慢大会を行い、よりよい川づくりへの情報や思いを共有する「第2回川の日ワークショップ関東ユース大会」の実行委員会を立ち上げ、事務局を担って実施する。またブックレット「シリーズ・荒川両岸まち歩き2ー葛飾界隈ー」(又は板橋界隈)を出版・頒布し、あらかわ学会ならではの荒川の歩き方順次紹介していきたい。
183161015	1	3161	よこはまかわのフォーラム2006	よこはま川のフォーラム実行委員会	代表世話	清水 靖枝	神奈川県	8水系の河川の流域で活動する市民団体等が、市民と行政、及び市民団体間の交流・連携を図るとともに、水辺の魅力のアピールと水辺の活動を多くの市民が体験できる機会の提供を目的に「地域で行われる活動を公開型として流域単位で連携させたイベント」と各地域、流域で行われた活動の「報告会・フォーラム」を開催します。このイベントを各流域の小中学校と連携して開催することにより、総合的な学習への支援を同時に行います。
183161016	1	3161	第7回全国源流シンポジウム・多摩川源流大会の開催	第7回全国源流シンポジウム実行委員会	全国源流	小泉 守	山梨県	第7回全国源流シンポジウムは、多摩川源流において、源流の価値、魅力、可能性を探索し、アピールするため、源流探訪、源流体験、記念講演、パネルディスカッションなどを実施する。川の最上流部に位置する源流域は過疎化高齢化に見舞われ地元に住む人々だけでは、水資源や森林資源が守れない時代を迎えているだけに、源流域の自然、文化、歴史、環境保全等の役割を広く啓発し、流域単位の国土の管理と保全の仕組みづくりの重要性・必要性を国民にアピールする。
183161017	1	3161	「水辺に集う川人のメッセージ生態系から学ぶ地域交流のカタチ」フォーラムIN日野川流域	日野川流域交流会	代表幹事	渡邊 光一	福井県	流域内で活動する各団体が、住民や行政、専門家と一体となって、地域の自然に向き合い、将来に継承すべき環境のあり方やその整備の方策について意見交換を行い、集約する機会を設ける。その中で、豊かな水源を確保する山の関わりや水辺の植物や鳥などと関わりなど、周辺環境への流域交流の広がりを創りながら、共通のシンボルとしての「川」の位置づけを強調し、住民の意識の向上を図る事業を実施する。
183161018	1	3161	「私の水辺」大発表会	「私の水辺」大発表実行委員会	会長	美濃原 裕幸	大阪府	府民、NPO、市民団体、行政、子どもなど多様な人材がパートナーシップを築き、良好な水辺空間の再生・創造を行う契機として、子どもたちに、水辺での調査研究や学習活動などを発表してもらう機会を提供し、活動の活性化を図るとともに、府民の「水辺」への関心向上を図り、「水辺」に関わる方々の交流をさらに深め、「共につくり」、「守り」“育てる”「水辺づくり」を目指すもの。
183161019	1	3161	近畿水環境交流会in猪名川	近畿水環境交流会in猪名川実行委員会(近畿水の塾・淀川愛好会他)	実行委員	澤井 健二	大阪府	近畿地方の代表的川である猪名川上流部を舞台として、近畿各地から水環境保全に関心と関わりをもつ市民が集い、猪名川流域の歴史・文化を学ぶとともに、各地で進めている水環境保全活動を紹介し合い、Eポート乗船を初めとする水面利用の実践を交えながら、よりよい河川環境保全と流域間連携のあり方について討論する。

平成18年度 新規採択一覧(43/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183161020	1	3161	太田川流域子ども交流事業	太田川流域振興交流会議	会長	毛利 隆美	広島県	太田川流域振興交流会議・環境ボランティア団体・子ども会の三者が協働し、「太田川を学び親しむ」「太田川の自然を守り育てる」ことを目的として、太田川水系の清流と恵みを伝えるプログラムを子ども達に提供することにより自然環境保全の啓発を図るとともに、環境ボランティアに対し指導を行いつつ活動の機会を提供することにより企画立案・経費積算・管理運営等のスキルアップを図り、もって自然環境の保全と創造に資する。
183161021	1	3161	「二級河川木屋川流域及び二級河川粟野川流域の歴史・文化遺産」の現地探訪の実施により住民の流域連携を促進する。	やまぐちの川の歴史・文化遺産を探訪する会	代表	中川 右近	山口県	「木屋川流域及び粟野川流域の歴史・文化遺産」の調査・資料収集をおこない、これを利用して会員や流域内の住民参加による木屋川流域・粟野川流域の歴史的な河川構造物・河川改修事業・自然環境・食文化等の現地探訪をおこなって、河川愛護心の醸成につなげる。また、これをきっかけとして住民・河川活動団体による2水系間の流域連携を促進させ、併せて探訪調査報告書を作成し、流域内の小中学校生徒の社会学習に利用する。
183171001	1	3171	「第3回アジア太平洋水文水資源シンポジウム」の開催	アジア太平洋水文水資源協会	事務局長	虫明 功臣	福島県	アジア太平洋地域に共通の水文・水資源問題に関する研究開発と技術交流を促進し解決策を探る場として、2002年9月にアジア太平洋水文水資源協会を設立、隔年で国際会議を開いている。本年10月/バンコクの第3回国際シンポジウムに際して、主に海外専門家と優秀な若手研究者・技術者を招聘のための費用の助成を申請する。こうした活動は、日本関係者のアジア水問題への認識と貢献の深化に資する。
183171002	1	3171	国際舟運シンポジウムー河川・運河を活用した都市再生一	特定非営利活動法人都市環境研究会	会長	三浦 裕二	東京都	首都東京を巡る都市河川や運河は、舟も着けない「やる瀬ない」水路となっている。しかし、その潜在的な能力は、欧米やアジアの海外事例を見ても周知のとおりである。そのため、都市河川や運河の水面や水辺を活かし、観光を主体とした美しい都市再生を図ることを広く国民に周知啓発してため、都市と水辺が一体となった舟運の先進国であるフランスや隣国韓国等の専門家を招聘し、国際シンポジウムを開催する。
183171003	1	3171	アジア・太平洋水フォーラム国際会議	特定非営利活動法人日本水フォーラム		尾田 榮章	東京都	第4回世界水フォーラムに向けたアジア・太平洋地域の準備活動を進めていく過程において、アジア・太平洋地域の関連機関と協働し、水問題の解決を目指した「アジア・太平洋水フォーラム」構想が提案され、本地域の人々から賛同を得た。この構想を実現させていくために、そして、具体的行動を模索するために「アジア・太平洋水フォーラム」国際会議を開催する。
183171004	1	3171	応用生態工学会シンポジウム「土木工学と生態学の壁はとりのぞかれた(仮称)」実施事業	応用生態工学会	会長	山岸 哲	東京都	河川法における「環境」の内部目的化、これにともなう多自然型川づくり、河川生態学術研究、自然再生などの取り組みのなかで、生態学と土木工学の研究者・技術者の協同による研究や各種事業の実施が行われてきた。学会設立10周年を契機に、国内と同様に両者が連携して河川環境の研究を行っている海外の機関の研究者を招聘し、生物および土木工学の研究者、技術者の相互連携の今後のあり方をテーマにしたシンポジウムを開催し、意見交換を図る。
183171005	1	3171	水源地生態研究セミナー	財団法人ダム水源環境地整備センター	理事長	加藤 昭	東京都	ダム事業による自然環境への影響やその評価手法を研究するために、当センターでは「水源地生態研究会」を開催している。この研究成果の公表および、国内外における水源地、ダム貯水池、ダム下流河川の生態系研究の最新事例を紹介することにより、ダム事業及び、周辺生態系の保全事業への取り組みの国民的啓発を促進し、多様性に富んだ河川生態系の保全に必要な水源地のあり方を探ることを目的としてセミナーを開催する
183181001	1	3181	北海道治水叢書(5)の企画編集	有限責任中間法人水交會	理事長	山口 甲	北海道	開拓初期の治水思想の醸成に至る記録を発掘し、古市公威の豊平川水害防禦報文を現代文により復元するまた治水理念の醸成過程を論ずる。
183181002	1	3181	美しい国づくりシンポジウム「自治体からの”創造”発信」	特定非営利活動法人美しい国づくり協会	理事長	進士 五十八	東京都	美しい国づくりを実現するためには、民・官・学の連携と、河川をはじめとする土木・建築・造園等の専門家の交流が不可欠である。このため、定期的にシンポジウムを開催し、景観の向上に携わる関係者が一同に会し、情報と意見の交換を行う場を継続的に提供するため、今回「自治体からの”創造”発信」をテーマに実施するものである。シンポジウムにおける発表および意見交換については、ホームページに公開し、全国の現場で景観造りに苦勞している方々等を支援することとしている。

平成18年度 新規採択一覧(44/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183181003	1	3181	「関川水辺の楽校」登録地内の河床に出現した縄文埋没林の年代測定と現地報告会の開催	特定非営利活動法人関川水辺クラブ	理事長	小林 正夫	新潟県	一昨年「関川水辺の楽校」登録地内の河床にて40本の古い木株を発見し、高田河川国道事務所に依頼して年代測定(1株)を行ってもらった結果、縄文中期にあたる約4千年前の埋没林であると分析された。本来、地元の研究者との共同調査により、複数箇所の木の株と土層を対象に年代測定等を行い、埋没林の成因並びに高田平野の成り立ちを探る。その調査結果をもって、一般市民を対象とした現地報告会を開催するとともに、子供たちの学習素材として紹介する。
183181004	1	3181	河川文化講演会等の開催および、新聞広告等の掲載による広報活動事業	社団法人中部経済連合会	会長	豊田 芳年	愛知県	21世紀の中部の持続的発展のため、河川行政や水資源環境の改善に向けた様々な活動に対する一般市民の理解を深めることを目的に、講演会の開催、新聞広告等により幅広い啓発活動を行う。また、講演会については抄録を作成・配布し、啓発活動の一助とする。新聞広告は水の日(8月1日)に、地元主要紙において河川・水資源行政に係わる意見広告を掲載する。
183181005	1	3181	全国なぎさシンポジウムinみえ	全国なぎさシンポジウムinみえ実行委員会	会長(三)	野呂 昭彦	三重県	平成18年10月26～27日に、三重県伊勢市を会場に「全国なぎさシンポジウムinみえ」を開催します。当シンポジウムは、各海岸行政担当者、海岸美化活動に参加する小中学生やNPO法人、海岸部の生態系研究に関する各種団体及び一般の方々等、県内外からの参加者が、人と海の接点であるなぎさを通じて、その役割と大切さを再認識し、豊かで美しいなぎさを守り再生する方策について意見交換を行うものです。
183181006	1	3181	保津川開削400年記念亀岡市文化資料館展示事業及び調査研究普及活動	亀岡市文化資料館	館長	黒川 孝宏	京都府	角倉了以・素庵によって保津峡が開削され、通航が可能となって今年で400年を迎える。今回、丹波と京都を結ぶ重要な動脈であった保津川の船運を紹介する展示会を開催。また、船運の主役であった木造船が現存していない中、亀岡での貴重な和船づくりに製作技術や諸道具の映像を分かりやすく編集製作し、残された船大工道具類の展示とともに紹介、和船技術の保存継承のための記録化と一般市民に広く知ってもらう機会にしたい。
183181007	1	3181	肱川の治水と重信川の自然再生推進プロジェクト	愛媛大学防災情報研究センター	愛媛大学	小松 正幸	愛媛県	愛媛県には肱川と重信川という2つの一級河川がある。愛媛大学に新設される防災情報研究センター(添付資料参照)は四国地方整備局と連携しながら、肱川並びに重信川の治水と自然再生に関して、一般向けにテキスト刊行と講演会などを実施する。これらの活動を通して山鳥坂ダムによる肱川水系の治水の重要性や重信川の自然再生について広く一般とともに考え、また治水と自然再生の重要性についての啓蒙をはかる。
183191001	1	3191	埼玉県内の川と祭り	彩の川研究会		小林 寿朗	埼玉県	古来より、人々は祭りによってコミュニケーションをはかり、そして生き甲斐(または生きる目当て)を感じてきた。一方、祭りとは、神霊を慰め、また祈る儀式、いわゆる神を祭る儀式であり、この神として川を対象とし、各地でいろいろな祭りが行われてきた。ここで、川に関する祭りを紐解くことにより、人々の川に対する思い、あるいは関わりを知り、今後の河川のあり方への参考とする。
183191002	1	3191	流域経営の視点から見た情報共有プラットフォームの構築と運用の試み—Web—GISを用いた市民環境活動情報の共有システムの発展—	特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク	代表理事	恵(双木) 小百	埼玉県	平成17年度河川整備基金の助成事業「Web—GISを用いた市民環境活動情報の共有システムの構築と運用」で水質調査をテーマに展開したが、より広範な経済環境構築を含む市民活動に拡大し、情報共有から生まれる共通の問題意識、価値観、ビジョンの醸成を目指す。流域経営の視点からみた情報プラットフォームを構築し、このしくみの試用により、荒川流域協議会(仮称)の構築に必要な条件を整理する。
183191003	1	3191	ダム工学会15周年記念事業「ダムなんでも相談室」	ダム工学会	会長	阪田 憲次	東京都	2006年8月 科学技術館(東京)の夏休み特別展で「サマー・カーニバル」(2F)が開催される、1日2000人の入場者が予想されている。その期間にあわせて同所(4F)にて3日間「ダムなんでも相談室」を開く。「宇宙船地球号と日本 ダムの役割」を上映しながら、ダムの関するさまざまな疑問に答える。小中学生や父兄にダムと環境に関する科学的な知識と実態を伝える。「夏休みの自由研究」にも対応したい。
183191004	1	3191	平成18年度「森と湖に親しむ旬間」全国行事事業	「森と湖に親しむ旬間」全国行事事業委員会	会長	石川 嘉延	東京都	河川・ダム、水源地等の水資源の重要性に対する国民一般の関心と理解を高め、水資源の円滑な開発に資するため、全国対象公募事業を実施、また全国的な広報活動を展開する。

平成18年度 新規採択一覧(45/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183191005	1	3191	全国水ガキ交流会の開催と昔の水辺の風景写真(「水ガキの原風景」)の収集・整理	特定非営利活動法人全国水環境交流会	代表理事	山道 省三	東京都	地域の川や水辺に関わる日常的な活動や地域固有の水辺の自然や文化(遊び、行事、生業等)についての独自のレポート、体験等を全国の学童から募集し、自ら紹介しあうとともに、水辺での体験交流を行う「全国水ガキ交流会」を開催する。昭和20～30年代の水辺の風景、人と川との豊かな関りを映す「水ガキの原風景」の写真を収集、整理し、地域の水辺環境を守り育む「水ガキ文化」の発掘と継承に向けた資料として発信する
183191006	1	3191	海岸漂着ゴミ・プラットホーム設置に向けたフォーラム等の開催	クリーンアップ全国事務局		小島 あずさ	東京都	きれいな海辺を取り戻すため、海岸漂着ゴミ問題に関わる関係者(行政、関係機関、業界団体、国内NGO、研究者ら)が情報共有をもとに、解決に向けた対応を図っていくための場(プラットホーム)の設置に際し、記念フォーラムの開催及び島ゴミサミットを開催します。
183191007	1	3191	河川環境展2006	河川環境展実行委員会	委員長	玉井 信行	東京都	河川環境における展示会・シンポジウムを開催することで関連企業・団体及び一般の人々に対して、河川環境のあり方を啓発・普及することを目的とし、実施します。
183191008	1	3191	川や水の活動団体調査	社団法人日本河川協会	会長	椎貝 博美	東京都	全国の川で活動している団体の活動内容を調査し、ホームページにおいて公表して団体相互の情報交換、団体と行政、企業、大学、研究機関の連携に役立てるとともに市民参加の促進を図る。
183191009	1	3191	河川行政に関するオーラルヒストリー	河川行政に関するオーラルヒストリー実行委員会		藤田 龍之	東京都	戦後河川行政史上の重要課題に対する政策決定の経緯について、それに深く関わった人に語ってもらい、オーラルヒストリーとして整理する。
183191010	1	3191	日本水大賞	日本水大賞委員会		山岸 哲	東京都	全国における水循環の健全化に寄与する活動を応募し、表彰するための「日本水大賞」制度を継続することにより、広く国民に水環境の重要性を訴えるとともに啓発を行う。優秀な研究活動を行っている諸団体、個人、学校、企業、行政に発表の機会をあたえ、全国にその事例を発信する。水環境問題に取り組みに対する奮起を促すことにより、我が国の国土の保全と国民福祉の向上を図る。
183191011	1	3191	「共生・協働のダムづくり」事業	NPO法人共生のエートス	理事長	秋本 貞光	山口県	現在、建設中の真綿川ダムは官民協働にて順調に推進されている。支川(戸石川)側の堤体はほぼ完成し、本川(真綿川)側の建設も合わせて進んでいる。支川の堤体は、日本初となる別途最低3mの盛土をし、しかも下部面は築山とした。3月にはその堤体ダム庭園に薬木の植樹祭を開催、そして見事なその庭園の管理が始まる。合わせて水質浄化、ダム周辺整備と「エートス」としての構想が姿を現す年となる。
183201001	5	3201	継続的助成	MOTHERPIRIKA	代表	永井 章	北海道	後志利別川上流に位置する美利河ダム周辺 naturally 自然や史跡・施設などを活用し、上下流域住民や他地域の人々との交流を促進するための各種イベントを企画・運営する。このなかでは、教育委員会や学校と連携して子供達の学習の場を提供するほか、自治体・関係機関と連携しながら継続的・発展的活動を行い、指導的役割の出来る人材育成を図っていくものとする。これらの活動により、水源地域である今金町の活性化を図る。
183201002	2	3201	ユビキタスな「癒し」の川づくり(継続事業)	明治地区桜を親しむ会	会長	庄司 佐悦	山形県	最上川水系須川、馬見ヶ崎川、立谷川が流れている当地区において、「川の癒し」をテーマにした勉強会、先進地調査、水質調査等の各種活動を地域住民、大学、行政と連携して実施する。また、各種活動の結果については、広く情報を発信していくとともに、当活動への理解の輪を広げていく。さらに、「ユビキタスな癒しの川づくり」について、地域住民の視点から分かり易い整備計画を策定し、その実現に向けた活動を実践していく。

平成18年度 新規採択一覧(46/46)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
183201003	5	3201	「海からの使者ふるさとに帰る 我らの鮭っ子元気に育て」を テーマに、流域の子どもたちと 鮭の環境保護を通じて、河川環 境保全と文化活動を推進	特定非営利活動法 人鮭守の会	理事長	黒子 幸雄	栃 木 県	五行川と小貝川流域の住民と子どもたちを対象に、鮭の一生を通して自然環境や生命の 尊さを知らせるため、鮭の生態系保護活動をはじめとする各種の事業や、ふるさとの川の 大切さや素晴らしさの啓蒙普及活動を実施する。さらに、流域の河川愛護団体等と連携を図 り、鮭をはじめとする、河川環境保護のネットワークづくりを推進する。
183201004	5	3201	「梓川子どもの水辺」における、 子どもの環境学習と体験活動	特定非営利活動法 人えんどっこ	理事長	大月 健二	長 野 県	「梓川子どもの水辺」周辺の小中学校生徒と地域の大人を対象に、水生生物や昆虫、鳥、 小動物などの自然観察会と、地域の貴重な自然であるケシウヤナギ群落を観察し、自然 環境保全の意識を高める。同時に、大水の影響による川の流れの変化や、Eポートによる川 下り等の体験活動を通して、川の楽しさと水の怖さなどを体験し、川で遊びながら「心」の育 成をはかる。5年後には活動の集大成として、自然ハンドブックを作成する。
183201005	5	3201	「かわみなと」として栄えた塩谷 地区の活性化事業	塩谷活性化推進協 議会	会長	柏櫓 洋平	新 潟 県	神林村塩谷地区の荒川では北前船の寄港地として「かわみなと」として発展し、廻船問屋 や味噌・醤油の醸造業が盛んで、活気あふれていた。その当時の杉坂下見と格子戸がある 町並みが残っていることから、「かわみなと」として栄えた塩谷地区の活性化となる地域づく りを目指すことを目的として活動している。
183201006	5	3201	「山国川自然の楽しみ発見隊」 ～山国川学習館の環境学習活 動の促進と流域住民への定着 ～	山国川学習館生きも の楽会	代表	太田 博之	大 分 県	流域の環境学習と市民活動の拠点を目的として、平成17年3月「山国川学習館」が開館、 市民ボランティアにより運営されてきたが、利用者も徐々に増え、評判もあがりつつある。開 館2年目にあたる平成18年度からは、本事業に掲げるさまざまな活動に積極的に取り組むこ とにより、より地域に親しまれる存在となることを目指したい。また、将来を見据えて組織や 活動基盤を整え、魅力ある「山国川学習館」に成長することも併せて目的とする。